

閣令

○閣令第二號 (官報 三月五日)

各官廳

歳入出豫算條規第四條ニ據リ本月五日マテニ十九年度豫算決定スヘキノ處官廳廢合ニ係ル費途組替等ヲ要スルカ爲メ右決定ヲ延期ス

明治十九年三月四日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

○閣令第三號 (官報 三月八日)

各官廳

歳入歳出納規則左ノ通制定シ來ル十九年度ヨリ施行ス

明治十九年三月六日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

歳入歳出納規則

第一章 總則

第一條 此規則ニ掲クル歳入トハ毎年裁定セラレタル豫算ニ據リ國庫常用部ヘ收入スル所ノモノニシテ分テ二部トス但特別ノ收入ニシテ整理上部門ヲ分ツヲ必要トスルトキハ之ヲ加フルコトアルヘシ

第一部 租稅

第二部 手数料ノ性質ヲ以テ徵收スル諸收入官有ノ財產物品ヨリ生スル諸收入官業基金罰金料沒收金ノ類 諸貸付若クハ過渡等ノ返納金特別ノ事務ニ宛ル諸寄付金等總テ租稅外ノ收入

第二條 此規則ニ掲クル歳出トハ毎年裁定セラレタル豫算ニ據リ國庫常用部ヨリ支出スル所ノモノニシテ分テ三部トス

但特別ノ經費ニシテ整理上部門ヲ分ツヲ必要トスルトキハ之ヲ加フルコトアルヘシ

明治十九年三月 閣令 第二號 第三號

第一部 國債元利年金恩給諸祿ノ類

第二部 帝室御用度神社ノ諸費

第三部 各廳ノ經費

第三條 此規則ニ於テ納入ト稱スルハ戶長各納稅者其他政府ニ對シ仕拂ノ義務ヲ有スル者ヲ云

第四條 此規則ニ於テ受取人ト稱スルハ官吏會社一私人ノ別ナク總テ政府ヨリ仕拂ヲ受クヘキ

權利ヲ有スル者ヲ云

第五條 此規則ニ掲グル金庫トハ大藏省金庫局其出張所及國庫金取扱所若クハ現金仕拂所ヲ云

第六條 金庫ノ出納ハ臨時急施ヲ要スルモノヲ除クノ外總テ大藏大臣ノ指定スル開庫時間ニ限ル

第七條 此規則ニ稱スル收支命令官トハ明治十四年第三拾六號達及特別ノ制規ニ據リ定メタル金

錢物品收支命令ノ權ヲ有スル當該官ヲ云

分任收支命令官トハ同達ニ據リ收支命令ノ權ヲ分任セラレタル當該官ヲ云

第八條 帝室御用度ハ内藏頭ノ請求ニ依リ現金ヲ内藏寮ヘ交付シ其出納ハ別段ノ規則ニ據ルモノ

トス

第二章 出納ノ開閉

第九條 一會計年度ニ於テ四月一日ヨリ翌ニ屬スル歲入歲出ノ出納ハ第十條第十一條第十二條ノ場

合ヲ除キ總テ毎年四月一日ヲ以テ開始ス

第十條 特別ノ制規ニ據リ俸給等ノ前渡ヲ要スルトキハ出納ノ開始前ニ於テ支出ヲ爲スコトヲ得

第十一條 在外各廳ノ經費現金仕拂所ナキ地方各廳ノ經費外國派出官吏及留學生等ノ經費送付

ノ爲メ前年度十二月一日以降特ニ支出ヲ爲スコトヲ得

第十二條 前二條ノ外旅費手當ノ如キ支給ノ方法ニ由リ前年度内ニ支出スルノ必要ナルモノアル

トキハ出納開始前ニ支出ヲ爲スコトヲ得

第十三條 各廳ニ於テ會計年度内ニ於テ歲出ノ仕拂ヲ結了セサルモノハ整理ノ爲メ翌年度八月三

十一日マテ該會計年度ニ屬スル支出ヲ爲スコトヲ得

第十四條 在外各廳及現金ヲ出納スル各廳ハ三月三十一日以後ハ該會計年度ニ屬スル收支ヲ執行

スルコトヲ得ス但概算支出ノ精算ノ爲メニ必要ナルトキハ翌年度五月三十一日マテ特ニ收支ヲ

爲スコトヲ得

第十五條 金庫ニ於テハ毎年度會計整理ノ爲メ翌年度十一月三十日マテ出納ヲ爲スコトヲ得

第三章 歲入

第十六條 歲入ニ係ル現金ノ收納ハ總テ大藏大臣之ヲ管理シ各廳ノ收支命令官ハ其徵收ヲ監視シ

現金ハ直ニ金庫ニ收納スルモノトス但左ニ掲グル各項ノ收入ハ現金ヲ各廳ニ收納スルコトヲ得

第一項 郵便收入

第二項 電信收入

第三項 公賣處分ニ依リ收入スル税金過料沒收金手数料ノ類

第四項 在外各廳ノ收入金

第五項 諸寄付金ノ類

第十七條 前條但書ノ外臨時非常ノ場合若クハ特別避クヘカラサル場合ニ於テハ現金ヲ各廳ニ收

納スルコトヲ得但其場合ニ於テハ即時其旨ヲ收支命令官ヨリ大藏大臣ニ報告スヘシ

第十八條 歲入ハ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シテ之ヲ徵收スルモノトス但第十六條但書ノ收

入ニシテ各廳ニ現金ヲ收納スルトキハ此限ニアラス

第十九條 第一部歲入中内國稅ヲ徵收スルトキハ北海道廳長官若クハ府知事縣令ノ命令ニ據リ郡

區長ヨリ戸長若クハ各納税者ニ對シ徵稅令書ヲ發スルモノトス
 第二十條 戸長ハ徵稅令書ヲ受タルトキハ其町村一人別納額元帳ニ據リ各納税者ニ徵稅傳令書ヲ發スルモノトス
 第二十一條 第一部歳入中關稅及第二部歳入中稅關ノ諸收入ヲ徵收スルトキハ大藏大臣ノ命令ニ據リ稅關長ヨリ各納人へ納額告知書ヲ發スルモノトス
 第二十二條 第二部歳入ノ諸收入ヲ徵收スルトキハ各廳ノ收支命令官ノ命令ニ據リ會計主務官ヨリ各納人へ納額告知書ヲ發スルモノトス
 第二十三條 第一部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納期ノ十五日以前納期日ノ數日ニ滿ルモノハ其初日ノ十五日以前以下同ニ其隨時納期ヲ定ムルモノハ其都度徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發スヘシ但納期ヲ豫定シタルモノト雖モ稅則ニ因リ十五日ノ猶豫ナキモノハ此限ニアラス
 第二十四條 戸長ハ徵稅令書ヲ受領シタルトキハ納期日以前ニ各納税者ニ徵稅傳令書ヲ發シ税金ヲ取纏ムヘシ
 第二十五條 第二部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納期ノ十日以前ニ其隨時納期ヲ定ムルモノハ其都度納額告知書ヲ發スルモノトス
 第二十六條 關稅、稅關ノ諸收入及物品ヲ以テ徵收スルモノ又ハ第十六條但書ニ屬スルモノヲ除キ其他ノ歳入ハ總テ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシムヘシ
 第二十七條 第十六條但書ノ第一項第二項第三項第五項及第十七條ノ如キ各廳ニ現金ヲ收納スルモノハ毎日之ヲ取纏メ歳入ノ各目ニ區別シタル納付書ヲ添ヘ翌日マテニ其取扱主任官ヨリ金庫へ納付スヘシ但金庫ニ遠隔ナル地方ノ各廳ニ收納スル現金納付ノ方法ハ大藏大臣特ニ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 第二十六條ニ據リ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシムルニハ同時ニ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ持參セシムヘシ
 第二十九條 金庫ニ於テ納人ヨリ歳入ヲ領收スルトキハ其持參シタル徵稅令書若クハ納額告知書ニ領收ノ證ヲ記シ之ヲ納人ニ交付スヘシ但第二十七條ノ場合ニ於テハ納付書ニ領收ノ證ヲ記シ還付スルモノトス
 第三十條 戸長ニ於テ取纏メタル税金ハ翌日マテニ之ヲ金庫ニ納付スヘシ但相當ノ保護法ヲ設ケルトキハ納期前ニ限リ一千圓以下五百圓マテハ五日間五百圓未滿ハ七日間之ヲ其役場ニ留ムルコトヲ得
 第三十一條 關稅及稅關ノ諸收入ハ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ預ケシメ其預リ證書ヲ以テ稅關へ納付セシムヘシ
 第三十二條 稅關長ハ其領收シタル關稅及稅關ノ諸收入ヲ取纏メ毎月三回之ヲ金庫へ送納スヘシ
 第三十三條 各廳ノ收支命令官ハ歳入ノ過納、誤納若クハ印紙類ノ返納ニ由リ既納ノ歳入下戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ其拂戻ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ
 第三十四條 物品ヲ以テ歳入ヲ徵收スル方法ハ別ニ之ヲ定ム
 第四章 歳出
 第三十五條 歳出ニ係ル現金ノ仕拂ハ總テ大藏大臣之ヲ管理シ其所管金庫ニ於テ仕拂ヲ執行スルモノトス但左ニ掲グル各項ノ經費ハ各廳ノ請求ニ依リ大藏大臣ハ現金ヲ各廳ニ交付スルコトヲ得
 第一項 在外各廳ノ經費
 第二項 陸軍ノ行軍費

第三項 海軍ノ航海費
 第四項 外國ニ於テ使用スル各廳ノ經費
 第五項 燈臺巡回船ノ航海費
 第六項 機密費
 第七項 運輸通信ノ便少ナキ島嶼其他金庫ノ設置ナキ地方ニ在ル各廳ノ經費
 第二十六條 前條但書ノ外臨時非常ノ場合若クハ特別避クヘカラサル場合ニ於テハ大藏大臣ハ現
 金ヲ各廳ニ交付スルコトヲ得
 第二十七條 毎年豫算ノ裁定アルトキハ各廳ノ收支命令官ハ一週年度中ニ係ル經費ノ月額ヲ豫定
 シ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シ豫算裁定ノ達ヲ受タル後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ送付シ其承認
 ヲ受クヘシ但其支出期節ノ豫定シ難キモノ及第一部第二部歳出ハ此限ニアラス
 第三十八條 前條歳出仕譯書ノ承認ヲ受タル後期節若クハ金額ノ變更ヲ要スルトキハ更ニ大藏大
 臣ノ承認ヲ受クヘシ
 第三十九條 第三十七條但書中支出期節ノ豫定シ難キモノハ其支出ヲ要スル毎ニ大藏大臣ノ承認
 ヲ受クヘシ
 第四十條 各廳ノ收支命令官ハ第三十七條第三十八條第三十九條ノ承認ヲ受タル後ニアラサレハ
 支出ヲ命令スルコトヲ得ス但毎會計年度ノ初メ一箇月分毎年四ハ各目ノ豫算金額十二分ノ一ニ
 超エサレハ承認ヲ受ケサルモ支出ヲ命令スルコトヲ得
 第四十一條 各廳ニ於テ支出スル所ノ經費ハ第三十五條但書第三十六條ノ場合ヲ除キ總テ仕拂切
 符ヲ以テ之ヲ仕拂フモノトス
 第四十二條 前條ノ經費ヲ仕拂フトキハ收支命令官ノ命令ニ依リ會計主務官ハ各受取人ニ對シ仕

拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス
 第四十三條 仕拂切符ノ仕拂期限ハ振出ノ日ヨリ滿九十日ヲ超ニヘカラス
 第四十四條 仕拂切符ハ一目毎ニ之ヲ發シ數目ヲ合スルコトヲ得ス
 第四十五條 仕拂切符ヲ發付シタル會計主務官ハ其切符ヲ發スルト同時ニ該仕拂切符ニ指名シタ
 ル金庫ヘ案内書ヲ發スヘシ
 第四十六條 仕拂切符ニ指名セラレタル金庫ハ其切符持參人ニ對シテ即時ニ表面ノ金額ヲ仕拂フ
 モノトス但仕拂切符ノ日付後九十日ヲ過キタルモノハ第四十七條第四十八條ニ據リ之ヲ處分ス
 ヘシ
 第四十七條 金庫ニ於テ仕拂切符ノ日付後九十日ヲ過キタルモノヲ發見シタルトキハ該仕拂切符
 所有者ヲシテ其發行廳ニ仕拂切符ノ交換ヲ請求セシムヘシ
 第四十八條 各廳ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ更ニ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス
 第四十九條 金庫ハ仕拂ヲ請求セラレタル仕拂切符若シ成規ニ違フコトアルカ若クハ案内書ト符
 合セサルコトアリト認ムルトキハ其事由ヲ該仕拂切符持參人ニ告ケ預リ證書ヲ發シテ該切符ヲ
 留置キ即時ニ其旨ヲ該切符ニ記名ノ會計主務官ニ通牒スヘシ
 第五十條 前條ノ場合ニ於テ金庫ハ會計主務官ニテ仕拂切符又ハ案内書ヲ訂正スルカ若クハ其
 切符ノ正當ナルヲ保證スルニアラサレハ之ヲ仕拂フコトヲ得ス
 第五十一條 第三十五條ノ第一項第四項第七項ノ經費金遞送ヲ要スルトキハ各主管廳ノ收支命令
 官ヨリ請求書ヲ大藏大臣ヘ送付シテ送金ヲ請求スヘシ
 第五十二條 前條ノ經費ハ一回ニ年額四分ノ一以內ヲ交付スルモノトス但臨時ノ費途ニシテ一時
 ニ支出ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第五十三條 豫算ノ裁定前ニ於テ第五十一條ノ經費發送ヲ要スルトキハ前年度ノ豫算額ニ據リ送付ノ金額ヲ定ムルモノトス但臨時ノ費途ハ此限ニアラス

第五十四條 大藏大臣ハ第五十一條ノ請求ヲ受クルトキハ金庫ヲシテ一箇月以内ニ其指定セラレタル出納主任官ヘ現金ヲ發送セシムルモノトス

第五十五條 第三十五條ノ第二項第三項第五項第六項ノ經費金ヲ受取ントスルトキハ各主管廳ノ收支命令官ハ請求書ヲ大藏大臣ヘ送付シ其交付ヲ請求スヘシ

第五十六條 大藏大臣ハ前條ノ請求ヲ受クルトキハ金庫ヲシテ其指定セラレタル出納主任官ヘ現金ヲ交付セシムルモノトス

第五十七條 各廳ノ收支命令官ハ第十條第十二條ノ支出ヲ爲サントスルトキハ事由ヲ具シテ其仕拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十八條 各廳ノ本廳外ノ地ニ在ル小支部局若クハ出張官吏等ヘ經費金ヲ遞送セントスルトキハ會計主務官ヨリ仕拂切符ヲ發シ金庫ヘ送付シ送金ヲ請求スヘシ

第五十九條 國庫常用部ヨリ會計ノ取扱ヲ異ニスルモノヘ支出スル經費ハ主管廳ノ請求ニ據リ大藏大臣ハ直ニ金庫ヨリ現金ヲ仕拂ハシムルモノトス

第六十條 國債元利ノ仕拂ヲ爲ストキハ大藏大臣ハ其豫定金額ヲ北海道廳府縣廳ヘ達シテ其仕拂ヲ執行セシムルモノトス但銀行ヲシテ取扱ハシムル國債元利ノ仕拂ハ其取扱銀行ヘ金額ヲ交付シテ之ヲ執行セシム

第六十一條 國庫常用部ヨリ國庫中他ノ部準備部ヘ支出スルモノハ裁定ノ豫算ニ基キ大藏大臣ノ命令ニ據リ直ニ之ヲ移スモノトス

第六十二條 各廳ノ收支命令官ハ會計年度經過後ニ於テ其會計年度ノ支出ニ屬スヘキ契約ヲ爲ス

コトヲ得ス

第六十三條 各廳ニ於テ既ニ仕拂タル金額ノ内返納ヲ要スルトキ若クハ第三十五條但書及第三十六條ニ據リ現金ヲ受取り仕拂殘餘アルトキハ即日之ヲ金庫ヘ納付シ廳中ニ留ムルコトヲ得ス但第三十五條第一項第七項ノ場合ハ此限ニアラス

第六十四條 金庫ハ大藏大臣ノ命令ヲ受クルニアラサレバ一切仕拂ヲ執行スルコトヲ得ス

第五章 報告

第六十五條 毎年豫算ノ裁定アルトキハ各廳ノ收支命令官ハ一週年度中ニ係ル歳入ノ月額豫算表ヲ製シ豫算裁定ノ達ヲ受タル後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ報告スヘシ但收入期節ノ豫定シ難キモノハ此限ニアラス

第六十六條 郡區長ハ第十九條ニ據リ徵稅令書ヲ發シタルトキハ之ヲ北海道廳長官若クハ府知事縣令ヘ報告スヘシ

第六十七條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條郡區長ノ報告ニ據リ其徵稅額表ヲ製シ納期ヲ豫定シタル租稅ハ徵稅令書發付後十五日以内ニ隨時納期ヲ定ムルモノハ毎月取經メ翌月十五日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ報告スヘシ

第六十八條 金庫ハ各納人ヨリ收入金ヲ領收シタルトキハ毎日之ヲ其徵稅令書若クハ納領告知書ヲ發シタル廳ヘ報告スヘシ但官廳ヨリ收入金ヲ領收シタルトキハ此限ニアラス

第六十九條 稅關長ハ第三十二條ニ據リ關稅及稅關ノ諸收入ヲ送付スルトキハ同時ニ之ヲ大藏大臣ヘ報告スヘシ

第七十條 各廳ノ收支命令官ハ毎月其徵收セシメタル歳入ノ報告書ヲ製シ翌月十五日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ但關稅及稅關ノ諸收入ハ此限ニアラス

第七十一條 各廳ノ收支命令官ハ毎月其支出セシメタル歳出ノ報告書ヲ調製シ翌月七日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第七十二條 在外各廳ノ分任收支命令官ハ每會計年度初月ヨリ三箇月毎ニ歳出報告書ヲ主管廳長官ヘ送付スヘシ

第七十三條 本廳外ニ在ル支部局ノ分任收支命令官ハ第七十一條ノ期日マテニ毎月ノ歳出報告書ヲ主管廳長官ヘ送付スヘシ

第七十四條 前二條ニ據リ送付シタル歳出報告書ハ主管廳ノ收支命令官ヨリ其到達後三日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第七十五條 現金ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ現金ノ受拂ヲ大藏省主計局長ヘ報告スヘシ

第七十六條 前條ノ報告期節ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 在外各廳ノ收入及經費、機密費及現金仕拂所ナキ地方各廳ノ經費ノ報告ハ毎月分ヲ翌月十日マテニ發送ス

一 陸軍ノ行軍費ノ報告ハ行軍終ル後十五日以内ニ發送ス

一 海軍ノ航海費、燈臺巡回船ノ航海費ノ報告ハ航海終ル後十五日以内ニ發送ス

第七十七條 各廳ノ收支命令官ハ會計年度内ニ於テ歳入ノ徵收若クハ歳出ノ仕拂ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ年度後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ但所在地ノ隔離スル郡區役所若クハ支部局ニ係ルモノハ年度後一箇月内ニ取纏メ之ヲ送付スヘシ

第七十八條 各廳ノ收支命令官ハ會計ノ整理期限翌年度八月内ニ於テ歳出ノ支出ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ翌年度十月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第七十九條 各廳ノ收支命令官ハ翌年度十一月三十日マテニ歳入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ十二月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第八十條 會計主務官ハ會計ノ整理期限マテニ概算支出ノ精算未済ノモノアルトキハ其報告書ヲ製シ翌年度九月三十日マテニ之ヲ大藏省及會計検査院ヘ送付スヘシ

第八十一條 郡區役所又ハ支部局ノ所在地遠隔ニシテ第六十七條第七十條及第七十七條但書ノ報告期節ニ其報告ヲ取纏メ難キ場合ニ於テハ其旨ヲ大藏大臣ニ開申シ追表ヲ製シテ別ニ之ヲ報告スヘシ

第六章 雜則

第八十二條 此規則ニ掲グルル任譯書、請求書、月額豫算表、計算書、報告書、徵稅令書、納額告知書、仕拂切符等ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八十三條 此規則ニ關スル事務取扱ノ手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八十四條 現行法規中此規則ニ抵觸スル條項ハ廢止ス

（閣令第四號）

各官廳

明治十八年三月三號 太政官第拾貳號達歳入出科目條規同第拾三號達科目表相廢シ十九年度以降歳入出科目ハ款項目節ニ分チ大藏大臣之ヲ定ムヘシ但各廳ニ於テ其廢置變換ヲ要スルトキハ大藏大臣ニ協議スヘシ

明治十九年三月九日

內閣總理大臣 伯爵伊藤博文

○閣令第五號

各官廳

明治八年四月 太政官達第六拾八號ヲ廢ス

明治十九年三月十一日

內閣總理大臣 伯爵伊藤博文

（參照）明治八年四月 太政官達第六拾八號

記録文書ノ儀ハ嚴重ニ保存スヘキハ勿論ニ候處紛亂散佚シ或ハ水火ノ災ニ罹リ候テハ後日ノ照會ヲ失ヒ事務ノ困難ヲ生シ不都合ニ候條向後各廳ニ於テ保存ノ方法ヲ設ケ焚燒流失等ノ患ナキ様厚ク注意可致且逐次編纂ノ分ハ明治七年三月第三拾九號達ニ據リ其目錄取調毎年五月限リ内務省ヘ可差出此旨相達候事

○閣令第六號 (官報 四月十七日)

三池鑛山局佐渡鑛山局生野鑛山局ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年四月十六日

内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文

三池鑛山局官制

第一條 三池鑛山局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ三池石炭採掘ノ事ヲ掌ル

第二條 三池鑛山局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

事務長

技術官

屬

第三條 事務長ハ一人奏任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事ス

第六條 三池鑛山局ニ工業課運輸課營繕課製課及庶務課ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル

所ニ依ラシム

佐渡鑛山局官制

第一條 佐渡鑛山局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ採鑛ノ事ヲ掌ル

第二條 佐渡鑛山局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

事務長

技術官

屬

第三條 事務長ハ一人奏任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ従事ス

第六條 佐渡鑛山局ニ鑛場製鍊課分析課機械課庶務課會計課及營繕課ヲ置キ其分掌規程ハ大藏

大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

生野鑛山局官制

第一條 生野鑛山局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ採鑛ノ事ヲ掌ル

第二條 生野鑛山局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

事務長

技術官

屬

第三條 事務長ハ一人奏任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ従事ス

第六條 生野鑛山局ニ鑛場製鍊課分析課機械課庶務課會計課及營繕課ヲ置キ其分掌規程ハ大藏

大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

○閣令第七號(官報四月十七日)

三田農具製作所貯木所錦織網場富岡製絲所千住製絨所新町紡績所ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年四月十六日

三田農具製作所官制

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

第一條 三田農具製作所ハ農商務省農務局ノ管理ニ屬シ農具ヲ製作シ其改良ヲ圖ルヲ以テ目的ト

ス

所長

屬

第三條 三田農具製作所長ハ判任トス農務局長ノ指揮監督ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 屬ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

貯木所官制

第一條 貯木所ハ農商務省山林局ノ管理ニ屬シ須要ノ地方ニ之ヲ設ケ官材ノ貯蓄販賣ノ事ヲ掌

シム

第二條 貯木所ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

所長

屬

第三條 所長ハ判任トス山林局長ノ指揮監督ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 屬ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

錦織網場官制

第一條 錦織網場ハ農商務省山林局ノ管理ニ屬シ木材保安ノ事ヲ掌ル

第二條 錦織網場ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

場長

屬

第三條 場長ハ判任トス山林局長ノ指揮監督ヲ承ケ場中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 屬ハ判任トス場長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

富岡製絲所官制

第一條 富岡製絲所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ製絲ノ事業ヲ經營シ其改良ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 富岡製絲所ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

所長

屬

第三條 所長ハ一人委任二等以下トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ左ノ事務ヲ掌理ス

一、富岡製絲ノ事業管理ニ關スル事項

二、繭買入及製絲等販賣ニ關スル事項

三、工場建物器械ノ保存及修繕ニ關スル事項

第四條 屬ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

千住製絨所官制

第一條 千住製絨所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ製絨事業ヲ經營シ其改良ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 千住製絨所ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

所長

屬

第三條 所長ハ一人委任二等以下トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ左ノ事務ヲ掌理ス

一、絨類製造ニ關スル事項

二、製造材料ノ購入及販賣ニ關スル事項

三、工場建物器械ノ保存及修繕ニ關スル事項

第四條 屬ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

新町紡績所官制

第一條 新町紡績所ハ農商務省工務局ノ管理ニ屬シ屑絲ノ紡績事業ヲ經營シ其改良ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 新町紡績所ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

所長

屬

第三條 所長ハ判任トス工務局長ノ指揮監督ヲ承ケ左ノ事務ヲ掌理ス

一、屑絲紡績ニ關スル事項

二、製造材料ノ購入及製品販賣ニ關スル事項

三、工場建物器械ノ保存及修繕ニ關スル事項

第四條 屬ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○附令第八號(官報 四月十七日)

一等郵便局及一等電信分局ノ地位ヲ定ムルコト左ノ如シ但二等郵便局及二等電信分局以下ノ地位ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

明治十九年四月十六日

内閣總理大臣 伯耆伊藤博文

武藏國東京 攝津國大阪 山城國京都
武藏國橫濱 攝津國神戸 肥前國長崎

- 渡島國函館 越後國新潟
- 肥後國熊本 安藝國廣島
- 一等電信分局 攝津國大阪
- 武藏國東京 攝津國神戸
- 武藏國横濱 肥前國長崎
- 渡島國函館 越後國新潟

○閣令第九號(官報四月三十日)

下總牧場ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年四月二十九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

下總牧場官制

第一條 下總牧場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ兼テ嶺岡支牧場ヲ管轄シ牛馬羊ノ改良蕃息ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 下總牧場ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

場長

第三條 場長ハ判任トス農務局長ノ指揮監督ヲ承ケ場中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 屬ハ判任トス場長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○閣令第十號(官報五月五日)

始審裁判所治安裁判所判事檢事ノ職務ハ當分ノ内現任判事補檢事補ヲ以テ之ヲ行ハシムルコトヲ得其官等俸給ハ従前ノ通タルヘシ

明治十九年五月四日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

○閣令第十一號

明治十五年^{十二月}第二拾六號布達徵發事務條例中左ノ通改正刪除シ同條例附錄第三號第五號及第七號雛形ヲ改正シ第四號雛形ヲ廢ス

明治十九年五月十四日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

第二十一條 郡區長ハ附錄第三號一ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出スヘシ

第二十二條 刪除

第二十三條 刪除

第二十四條 府知事縣令ハ附錄第三號二三ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區長ヨリ差出シタル表ト共ニ毎年三月三十一日限リ陸軍省ヘ送付スヘシ

第二十五條 府知事縣令ハ附錄第五號一二ノ雛形ニ依リ船舶汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ヘ送付スヘシ但其管内ニ於テ新タニ構造シ若クハ買入タル汽船アル時ハ第五號三ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ其時々同省ヘ送付スヘシ

附錄第三號ノ一

徵發物件表

毎年十二月三十一日限

何國何郡(區) 東西凡何里何丁

何郡(區) 役所何町(村) 何番地

一本表宿驛ニアラサルモ港灣及市街等管内著明ノ場所ハ一々掲出スヘシ
 一畊牛及畊馬ハ一郡區總メニシテ其總數ヲ掲クヘシ
 一馬ノ内大八車製ノ如キ荷車ヲ引ク者ハ駄馬ニ算シテ馬車馬ニ算入スヘカラス
 一車輛ノ内馬車ハ人乘馬車及西洋荷馬車ヲ云フ又荷馬車ハ大八車製ノ如キ者ヲ云フ
 一車輛ハ國稅ヲ徵收(下半年ノ國稅ヲ納メタル數)シタル數ヲ記載スヘシ
 附錄第三號ノ三

徵發物件表		何府(縣)	
每年課			
郡區	品目	何郡	何區
	玄米		
	大麥		
	小麥		
	裸麥		
	鹽		
	醬油		
合計			

一本表物産ハ其年中ニ收穫セシ總數ヲ記載スヘシ

一醬油ハ其年中國稅徵收ノ検査ヲ爲シタル高ヲ記載スヘシ
 一本表一郡區ニ纏メ計算スルノ際ニ當リ其計數ハ四捨五入ノ法ヲ用ヒ石位ニ止ムヘシ
 附錄第五號ノ一

船舶表

每年十二月三十一日開

何府(縣)

國名		何區		何郡		何町		何村		何港		汽船		帆船		倉庫		水田		水災	
郡區		區		郡		町		村		港		汽船		帆船		倉庫		水田		水災	
名		名		名		名		名		名		名		名		名		名		名	

遊船渡船橋用船ハ表上スルニ不及

附錄第五號ノ二

汽船表

免狀番號	船名	用方	運航港津	所屬會社及船主
一〇二五	丸	郵船	何港ヨリ何港ヲ經テ	何國何郡何町村
一二五六	丸	旅客船	何港ヨリ何港マテ	何國何郡何町村
五七八九	丸	港内使用船	何港	何國何郡何町村

何府(縣)

附錄第五號ノ三

汽船表

船名	何丸	所屬會社	何國何郡何町(村)何番地
免狀番號	一〇三八	登簿噸數	何千何百何十噸
買入代價	何万何千何百圓	用方	郵船旅客船石炭船渡船港内使用船等
運航	何港ヨリ何々ヲ經テ何港マテ或ハ何港何港間	石炭貯量	何万何千斤
一晝夜油費	何百何十斤	一晝夜脂費	何斤
荷積機城之數及力	何箇		一箇何箇

何府(縣)

附錄第七號

何郡(區)何市場
何郡(區)何市場
平均價

平均物價表

何府(縣)

種類	平均價	何年	何年	何年	自何年	至何年
玄米	壹石	何	何	何	何	何
精米	壹石					
鹽	壹石					
味噌	壹貫目					
醬油	壹石					
漬物	四斗樽入					
梅干	四斗樽入					
大麥	壹石					
小麥	壹石					
裸麥	壹石					
秣	壹貫目					

自何年

至何年

松薪	壹貫目								
堅薪	壹貫目								
炭	壹貫目								
石炭	壹噸								
藥	壹貫目								

備 ○各種類共其品質數等アルヲ以テ各上中下三等ノ價ヲ平均ス
考 ○漬物ハ湖産價トス

○閣令第十二號 (官報 五月二十日)
大小林區署名稱位置及管轄區域ヲ定ムルコト左ノ如シ
明治十九年五月十九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

大林區署名稱位置及管轄區域	位置	管轄區域	管轄區域
京都大林區署	位置	山城國京都	京都府
兵庫大林區署	位置	攝津國神戸	兵庫縣
静岡大林區署	位置	駿河國静岡	静岡縣
三重大林區署	位置	伊勢國安濃津	三重縣
岐阜大林區署	位置	美濃國岐阜	岐阜縣
岡山大林區署	位置	備前國岡山	岡山縣
廣島大林區署	位置	安藝國廣島	廣島縣
山口大林區署	位置	周防國山口	山口縣

福岡大林區署	位置	筑前國福岡	管轄區域	福岡縣
大分大林區署	位置	豊後國大分	管轄區域	大分縣
宮崎大林區署	位置	日向國宮崎	管轄區域	宮崎縣
鹿兒島大林區署	位置	薩摩國鹿兒島	管轄區域	鹿兒島縣
和歌山大林區署	位置	紀伊國和歌山	管轄區域	和歌山縣
高知大林區署	位置	土佐國高知	管轄區域	高知縣
愛媛大林區署	位置	伊豫國松山	管轄區域	愛媛縣
水曾大林區署	位置	信濃國上松	管轄區域	長野縣
石川大林區署	位置	加賀國金澤	管轄區域	石川縣 富山縣 福井縣
茨城大林區署	位置	常陸國水戸	管轄區域	茨城縣
宮城大林區署	位置	陸前國仙臺	管轄區域	宮城縣
秋田大林區署	位置	羽後國秋田	管轄區域	秋田縣
青森大林區署	位置	陸奥國青森	管轄區域	青森縣

小林區署名稱位置及區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

○閣令第十三號（官報 六月四日）

大小林區署判任官官等俸給令ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年六月三日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

大小林區署判任官官等俸給令

第一條 大小林區署判任官ノ官等俸給ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第二條 大小林區署判任官ノ昇等毎等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

第三條 大小林區署判任官ノ昇等スルモノハ先ツ下級俸ヲ支給シ毎級一年ヲ踰ルニアラサレハ増俸スルコトヲ得ス但九圓以下ノ月俸ヲ受クルモノハ此限ニアラス

別表

判

任

官

官名	判任官		
	一等	二等	三等
林務主任	七百圓	六百圓	五百四拾圓
林務主任補	六百六拾圓	五百八拾圓	五百貳拾圓
林務主任補	六百三拾圓	五百六拾圓	五百圓
營林主任	四百八拾圓	四百四拾圓	四百貳拾圓
營林主任補	四百六拾圓	四百圓	三百八拾圓
主事	四百四拾圓	三百八拾圓	三百貳拾圓
主事補	四百圓	三百四拾圓	貳百八拾圓
主事補	三百八拾圓	三百貳拾圓	貳百六拾圓
主事補	三百六拾圓	三百圓	貳百四拾圓
主事補	三百四拾圓	二百八拾圓	貳百貳拾圓
主事補	三百貳拾圓	二百六拾圓	貳百圓
主事補	三百圓	二百四拾圓	一百八拾圓
主事補	二百八拾圓	二百貳拾圓	一百六拾圓
主事補	二百六拾圓	二百圓	一百四拾圓
主事補	二百四拾圓	一百八拾圓	一百貳拾圓
主事補	二百貳拾圓	一百六拾圓	一百圓
主事補	二百圓	一百四拾圓	一百圓
主事補	一百八拾圓	一百貳拾圓	一百圓
主事補	一百六拾圓	一百圓	一百圓
主事補	一百四拾圓	一百圓	一百圓
主事補	一百貳拾圓	一百圓	一百圓
主事補	一百圓	一百圓	一百圓

明治十九年六月 閣令 第十三號

第十五條 旅行中廢官死亡又ハ諭旨退官シタルモノハ前官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給ス
 第十六條 前二條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スル爲メ其日數ヲ計算スルハ汽車旅行ハ一日二百哩
 諸汽船旅行ハ一日百海里計陸路旅行ハ一日十二里計トス但距離接近シテ數種ノ旅行相跨ルト
 キハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ハ十二時間トシ其日數ヲ計算
 スヘシ
 第十七條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シ特ニ其旅費額ヲ定メ月額ヲ
 以テ之ヲ支給スルコトヲ得
 第十八條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ定額ノ旅費ヲ減少スルコトヲ得
 第十九條 府知事縣令ハ三等旅費郡區長ハ五等旅費ヲ支給スヘシ
 第二十條 陸海軍武官及警察官ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ムヘシ
 第二十一條 神官及雇員其他本令ニ明文ナキモノ、旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム
 ヘシ

別表

等	旅 費 額	
	汽 車 貨	汽 船 貨
一 等 親 任 官	一哩毎ニ一海里毎ニ一里毎ニ一日毎ニ	管外車馬賃 管内車馬賃 管外日當 管内日當
一 等 勅 任 二 等 官	金拾五錢金拾五錢金五拾六錢金三拾貳錢金 四 圓金 三 圓	金拾貳錢金拾貳錢金四拾貳錢金貳拾四錢金 三 圓金 貳 圓

三 等	委 任	
	一 等 官	二 等 官
三 等 委 任 試 補	金 九 錢 金 九 錢 金貳拾貳錢 金拾貳錢 金壹圓四拾錢 金 壹 圓	金 九 錢 金 九 錢 金貳拾貳錢 金拾貳錢 金壹圓四拾錢 金 壹 圓
四 等 判 任 四 等 以 上	金 六 錢 金 六 錢 金拾四錢 金 八 錢 金 九 拾 錢 金 七 拾 錢	金 六 錢 金 六 錢 金拾四錢 金 八 錢 金 九 拾 錢 金 七 拾 錢
五 等 判 任 五 等 以 下	金 六 錢 金 六 錢 金 八 錢 金 六 錢 金 七 拾 錢 金 五 拾 錢	金 六 錢 金 六 錢 金 八 錢 金 六 錢 金 七 拾 錢 金 五 拾 錢

○閣令第十五號

三等郵便局長ハ判任官官等俸給令ニ依ラス一箇年四百圓以下ノ手當ヲ適宜支給ス

明治十九年六月十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

○閣令第十六號

北海道土地拂下規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年六月二十九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

北海道土地拂下規則

第一條 北海道官有未開ノ土地ハ本規則ニ依リ北海道廳ニ於テ之ヲ拂下クヘシ
 第二條 土地拂下ノ面積ハ一八十萬坪ヲ限リトス但盛大ノ事業ニシテ此制限外ノ土地ヲ要シ其目
 的確實ナリト認ムルモノアルトキハ特ニ其拂下ヲ爲スコトアルヘシ
 第三條 土地ノ拂下ヲ請ハントスル者ハ其書面ニ地名坪數并事業ノ目的著手ノ順序及成功ノ程度
 ヲ詳悉シ先ツ其土地ノ貸下ヲ北海道廳ニ願出ヘシ但耕宅地ニ爲サントスル者ハ其坪數ヲ毎年ニ
 配當シ其成功期限ヲ詳記スヘシ
 北海道廳ニ於テ其方法確實ナリト認ムルトキハ其土地ヲ貸下クヘシ但借地料ヲ徴收セス

第四條 貸下期限十年以内トシ土地ノ景況ト事業ノ難易トニ依リ之ヲ定ム但牧場ハ貸下年期ノ
 滿限ニ際シ更ニ貸ト延期ヲ必要トスルトキハ其願ニ依テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條 耕宅地ハ毎年其配當坪數ノ成功ヲ點檢シ又海産乾場及牧場ハ隨時其事業ノ現況ヲ點檢ス
 ヘシ

第六條 耕宅地ハ其年配當ノ事業成ラサルトキハ其成功シタル土地ヲ除キ其他ハ總テ返納セシメ
 海産乾場及牧場ハ第三條願出書ノ如ク成ラサルトキハ悉皆之ヲ返納セシムヘシ

第七條 天災地變其他避クヘカラサル事故アリテ成功セサルトキハ北海道廳ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ
 第七條 貸下地ヲ返納セシメタルトキハ其地内ノ樹木ニシテ既ニ伐採シタルモノアレハ相當ノ樹
 木代價ヲ納メシムヘシ

第八條 貸下地ハ公益ノ爲メ必要アルトキハ其期限中ト雖モ之ヲ返納セシムルコトアルヘシ但此
 場合ニ於テハ其事業ノ爲メ既ニ費シタル費用ハ之ヲ辦償スルモノトス

第九條 貸下地ハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス若シ不得已事故アリテ讓渡サントスルトキハ讓渡人讓
 受人連署ノ上北海道廳ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ但讓受ケタル土地ノ貸下期限ハ更ニ之ヲ定ム
 ルコトアルヘシ

第十條 素地代價ハ千坪ニ付金壹圓トシ成功ノ後之ヲ拂下ケ地券ヲ下付スヘシ但其土地ハ拂下ノ
 翌年ヨリ十箇年ノ後ニアラサレハ地租及地方稅ヲ課セス

第十一條 本規則施行手續ハ北海道廳長官之ヲ定ム

附則

第十二條 明治五年第三百四號公布北海道土地買貸規則ニ依リ土地ノ拂下ヲ受ケ或ハ拂下人ヨリ
 買受ケタル土地ニシテ其事業未ダ成ラサルモノハ本規則第三條第一項ニ準シ明治二十年ヨリ向

フ十年以内ニ成功ノ目的ヲ以テ方法書取調本年十二月迄ニ北海道廳ヘ申出ヘシ若シ其申出ヲ忘
 リ又ハ申出ノ後天災地變其他避クヘカラサル事故アルニ非シテ該方法書ノ如ク成功セサルト
 キハ其成功シタル土地ヲ除キ其他ハ當初ノ拂下代價ヲ以テ之ヲ買戻スヘシ

第十三條 明治五年第三百四號公布北海道土地買貸規則明治七年開拓使第四號布達明治十一年開
 拓使甲第四號布達ヲ廢止ス

○閣令第十七號

明治十六年五月 太政官第貳拾貳號達第四條及明治十八年五月第拾九號達同但書中驛遞局ヲ官報局ト改
 明治十九年六月二十九日 內閣總理大臣伯爵伊藤博文

○閣令第十八號

明治十八年八月 太政官第拾八號布達中驛遞總官ヲ官報局長ト改ム
 明治十九年六月二十九日 內閣總理大臣伯爵伊藤博文

各官廳

○閣令第十九號

明治十六年九月二十九號達勳章年金褫奪及停止取扱手續ヲ改正スルコト左ノ如シ

各官廳

明治十九年七月一日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勳章年金褫奪及停止取扱手續

第一條 勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ル、トキハ榮譽ヲ汚辱シタル者トス

第一項 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者

但輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者ハ其所犯ノ情狀ニヨル

第二項 賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

第三項 懲戒例及免黜條例ニヨリ免官セラレタル者

第四項 素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

第二條 第一條第一項ニ觸ル、者輕罪ヲ犯シタル者ナルトキハ裁判確定ノ後裁判管轄長官ヨリ司

法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ宣告書寫ヲ添ヘ其旨ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ其重罪ノ刑ニ

處セラレタル者ハ普通刑法第三十一條第三十二條陸軍刑法第二十八條第二十九條海軍刑法第十

七條ニ依リ處分ス

第三條 第一條第二項第三項第四項ニ觸ル、者アルトキハ所轄長官又ハ地方官ヨリ其情狀ヲ賞勳

局總裁ヘ具申スヘシ

第四條 賞勳局總裁ハ其具申ヲ審査シ重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ直ニ上奏シ其輕禁錮以下ノ

刑ニ處セラレタル者及ヒ第一條第二項第三項第四項ニ觸ル、者ハ議定官ノ會議ニ於テ其褫奪ノ

當否ヲ論定シ褫奪スヘキ者ハ奏請ス

第五條 褫奪ノ裁可アリタルトキハ賞勳局總裁ハ褫奪狀ヲ作り褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヲ經由

明治十九年七月 閣令 第十九號

シテ本人へ傳達セシム

第六條 勳位進級セシ者ナルトキハ前級ノ勳章勳記ヲモ褫奪スヘシ年金票モ亦同シ

第七條 褫奪シタル勳章勳記年金票ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局へ還納スヘシ但其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ係ルトキハ其宣告書寫ヲ添フヘシ

第八條 勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタルトキハ其年月日及ヒ事由ヲ裁判管轄長官ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ賞勳局總裁へ具申スヘシ

但公訴權消滅シタルトキ若クハ放免ノ言渡ヲ爲シタルトキハ亦其事狀ヲ詳記シテ之ヲ申告スヘシ

第九條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ其訴ヲ受ケスト雖モ現ニ拘留セラレタルトキハ檢察官ヨリ前條ノ手續ニ從ヒ賞勳局總裁へ具申スヘシ

第十條 外國勳章佩用免許狀ヲ沒收スルトキモ亦總テ此手續ニ準據スヘシ

○閣令第二十號

稅關鑑定吏ニハ俸給ノ外一箇年九百圓以下ノ手當ヲ支給スルコトヲ得

明治十九年七月一日

內閣總理大臣 伯耆伊藤博文

○閣令第二十一號 (官報七月二日)

小野濱造船所官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年七月一日

內閣總理大臣 伯耆伊藤博文

小野濱造船所官制

第一條 小野濱造船所ハ吳鎮守府開廳マテ海軍省艦政局ノ管理ニ屬シ作業費ヲ以テ艦船機關及其

屬具ヲ製造艤裝シ并ニ之ヲ改造修理スル所トス

第二條 小野濱造船所ニ製造科及計算課ヲ置ク

第三條 小野濱造船所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人	技師
製造科長	一人	技師
製造科主幹	二人	技師
製造科工場總長	一人	技手
製造科工場長	十一人以内	技手
計算課長	一人	大主計
主庫	一人	製造科長ヲ以テ之ヲ兼ネシム

第四條 所長ハ艦政局長ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス

第五條 製造科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、艦船機關及其屬具ヲ製造艤裝シ并ニ之ヲ改造修理スル事

二、前項ニ係ル費用ノ概算書ヲ調整スル事

三、購入ス可キ材料ヲ検査シ及貯藏ノ材料ヲ調査スル事

四、各工場及諸機械ヲ管理スル事

五、艦船及其屬具ヲ管理スル事

六、本所所屬ノ水陸諸標等ヲ管理スル事

七、艦船ヲ繋維シ又ハ之ヲ堀内ニ出入スル事

八、本所所屬ノ船臺及諸建物ノ建築修繕其他土木工事ニ關スル事

九、前項ニ係ル仕様帳并ニ其概算書ヲ調整スル事
 十、本所所屬ノ土地建物ヲ管理スル事
 第六條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一、作業費金ノ收支出納及豫算決算ヲ整理スル事
 二、艦船機關及其屬具ノ製造艤裝并ニ改造修理ニ關スル費用ノ概算書ヲ調整スル事
 三、建築修繕ニ關スル費用ノ概算書ヲ調整スル事
 四、材料物品ノ購買賣却ニ關スル事
 五、材料物品ノ出納簿ヲ調査スル事
 六、工夫以下ノ出場退場ヲ調査シ及其賃銀ヲ支給スル事
 七、定入足ヲ支配スル事
 八、本所所屬ノ地券ヲ管守スル事
 第七條 倉庫ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一、材料物品ヲ貯藏シ其供給出納ヲ爲ス事
 二、購入スヘキ物品ヲ檢査シ及貯藏ノ物品ヲ調査スル事
 第八條 科長課長主庫ハ所長ノ命ヲ承ケ各其主務ヲ整理ス
 第九條 主幹ハ科長ヲ助ケ主務ノ事業ヲ分擔ス
 第十條 工場總長ハ所長科長又ハ主幹ノ命ヲ承ケ工場ニ係ル工事を擔任ス
 第十一條 工場長ハ科長主幹又ハ工場總長ノ命ヲ承ケ主務ノ工事を分擔ス
 第十二條 所長ニ判任官若干名ヲ專屬セシメ左ノ事務ヲ掌ラシム
 一、所長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付ニ關スル事

二、官印ヲ監守スル事
 三、監護ヲ支配スル事
 四、所内ノ警護ヲ監督スル事
 五、所内一般ノ報告統計ヲ調整スル事
 六、他ノ主管ニ屬セサル事務ニ關スル事
 第十三條 第三條ニ掲グル職員ノ外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク
 ○閣令第二十二號(官報 七月三日)
 海軍主計學校官制ヲ定ムルコト左ノ如シ
 明治十九年七月一日
 海軍主計學校官制
 第一條 海軍主計學校ハ海軍大臣ノ管理ニ屬シ主計官トナルヘキ生徒ヲ教育スル所トス
 第二條 主計學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長 一人
 主計大監
 教授 八人
 主計官或屬專務五人兼務三人
 監事 三人
 教授ノ内之ヲ兼ヌ
 計算課長 一人
 屬
 第三條 校長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ總理ス
 第四條 教授ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル
 第五條 監事ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督ス
 第六條 計算課長ハ校長ノ命ヲ承ケ校内ノ會計及庶務ヲ掌ル

内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文

第七條 第二條ニ掲クル職員ノ外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

○閣令第二十三號

各官廳

官吏准官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手當金ヲ給ス

明治十九年七月十三日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

一手當金ヲ分チ吊祭料救助料療治料ノ三種トス

一救助料ハ感染者又ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス

一療治料ハ感染者治療看護ノ雜費トシテ之ヲ給ス

一吊祭料ハ年俸十二分ノ一若クハ月俸一箇月分若クハ日給三十日分ヲ給ス但官ヨリ埋葬スル者ハ之ヲ給セス

一救助料ヲ分テ二等トス

一等 俸給五箇月分日給百五十日分

二等 俸給三箇月分日給九十日分

一感染者死亡シタルトキハ一等救助料ヲ給シ死亡セサルトキハ二等救助料ヲ給ス

一療治料ハ一日壹圓ヲ給ス但官ヨリ治療スル者ハ之ヲ給セス

○閣令第二十四號

中山道鐵道工事既ニ前後數里ノ間竣功ヲ告ケ漸ク其中部ニ着手セントスルニ當リ之カ實測ヲ經ルニ其地形タル峻峻崎嶇ニシテ之ヲ東海道ノ平夷ニ比スレハ管ニ迂路ヲ取ルノ不利アルノミナラス其工費ノ如キモ自ラ多キヲ加ヘ隨テ竣功ノ期亦太タ遲速ノ差アルヲ發見シタル旨別紙甲乙號ノ通鐵道局長官ヨリ具狀シタルヲ以テ今般中山道鐵道敷設ヲ廢シ更ニ工事ヲ東海道ニ起スニ決定ス依

テ明治十六年十二月第四十七號布告ノ中山道鐵道敷設ノ爲ニ募集シタル公債ノ現在殘額ハ轉シテ之ヲ東海道鐵道工事ニ使用スヘシ

明治十九年七月十九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

甲號

中山道鐵道ノ儀ニ付上申

中山道鐵道布設ノ令出シヨリ其建築工事ノ順序ヲ經畫シ之ヲ東西二部ニ分チ高崎大垣ノ兩端ヨリ相進ンテ中央ニ會シ速カニ之ヲ聯絡セントス乃チ尾ノ半田港ニ一線ヲ布設シテ資材運搬ノ便ヲ海運ニ藉リ進ンテ名古屋ニ出テ又更ニ越ノ直江津ニ着手シ工事嚴キトシテ大ニ進ミ今ヤ將サニ其中部ニ着手セントスルニ先チ其實測ヲ竣リ別紙圖面ノ線路ヲ得タリ而シテ其經由スヘキ中部ノ地形タル峻峻崎嶇抗谷ヲ填メ山嶽ヲ截ル等非常ノ工事前後相踵ク且數里ノ洞道鑿鑿ヲ要スルモノ亦少シトセス而シテ其成功ノ期ヲ計ルニ風雨災害等工事ノ停頓ヲ算セスシテ今後猶七八年ヲ要スヘシ若シ其日子ヲ除却セハ更ニ多キヲ加ヘン既ニシテ其成功ニ及ヒ車輛ヲ通スルニ至テハ線路ノ傾斜峻急道ハ三十分ノ一以上ニ至ルモノアリナルカ爲メニ保全修理ノ費用必ス意想ノ外ニ超過スルモノアラシキ度モ亦必ス遲緩ナルヘシ嘗テ試ミニ之ヲ測算スルニ或ハ從來海運汽船ノ速度ニ及ハサルモノアラシキ度モ亦必ス遲緩ナルヘシ然ラハ實ニ勞シテ功ナク鐵道布設ノ常理ニ背クモノト謂フヘシ本線路ハ群峰疊嶂崎嶇嶮岫ニシテ工事ノ容易ナラサルハ始メヨリ之ヲ知ルト雖トモ今其實測ヲ得ルニ及ヒ傾斜ノ峻急ナル實ニ度外ニ出ツ若シ其レ之ヲ普通ノ度ニ置カンカ線路隧道亦隨テ之ヲ延長セサルヲ得ス是皆當初意料ノ及ハサル所タリ抑中山道ニ鐵道ヲ布設セント欲スル目的ハ蓋主義ノ大ナル者アラシカ然レトモ先ツ東京ト京阪間トノ聯絡ヲ通スルニ在リ而シテ沿道從來偏僻ノ地ニ運輸ノ便ヲ與ヘ兼ネテ荒蕪ヲ墾キ物産ヲ繁殖セントスルニ在リ今測量ノ實蹟ニ據リ之ヲ熟考ス

ルニ線路ノ經由スル所山腹ヲ洞シテ行クニ非レハ必ス窮谷ニ沿フテ走ル之ヲ概言スレハ全部隧道ト稱スルモ亦可ナリ加旃其土地タル礫礫不毛ニシテ到處窮僻邑ナラサルハナク接近ノ村落ニタモ相往來交通スルノ便少ナク地形ノ險工事ノ難キハ固ヨリ避ケサル所ナリト雖モ其大ノ鉅額ヲ費ヤシテ之ヲ經營スルモ竟ニ徒勞ニ歸シ曾テ其功用ヲ見ス併セテ鐵道ノ價格ヲ失フ之ヲ譬フルニ聾者ニ鐘鼓ヲ與ヘ覽者ニ利器ヲ借スト異ナルコトナシ況ンヤ殖産開墾ノ業固ヨリ言ヲ待タサル所ナリ然ラハ則チ東西兩京ノ聯絡ヲ通スルハ何レノ日ニ在ルヲ知ラス是ヲ以テ退テ其目的ヲ達スルカ爲メニ之ニ代用スヘキモノヲ求ムレハ則チ東海道ニ出テサル可ラス即チ東海道ニ出ルモノトセンカ其實況ヲ一應具陳セサルヘカラス嘗テ雇外國工師ノ實踐調査セシ報告書及ヒ頃者局員ヲ派出シテ調査セシメタルモノ等ヲ蒐集シテ之ヲ參互考覈スルニ西部ハ既ニ名古屋ニ達セリ今東京ヨリ名古屋ニ達スルトキハ之ヲ中山道ニ比スレハ凡ソ二十哩ヲ短縮シ而シテ其線路ノ地勢ハ函嶺ノ險峻ナル天龍富士大井等ノ巨川アリト雖トモ之ヲ除クノ外ハ概ネ平坦ニシテ中山道ニ比較スレハ工事ノ難易迥カニ別ナルヲ知ル又其經費ノ點ニ至テ中山道ハ尙一千五百万圓ヲ要セサルヘカラス東海道ハ一千萬圓ニ上ラスシテ中山道ヨリ長キ線路ヲ成就スルヲ得ヘク其比較上ニ於テ孰レモ豫算外ニ出スシテ成功ヲ奏スヘシ唯恐ル中山道建築成功ノ期ハ今後七八年ヲ要シ費額ハ一千五百万圓ヲ用ヒテ線路僅カニ七八十里ヲ得其運輸ヲ通スルニ至リ線路曲折上下傾斜ノ度峻急隨テ速力モ亦遲緩ニシテ東京名古屋間二十時ヲ費サン東海道ハ歲月其半ハヲ要セス費額モ亦寡少ニシテ線路殆ント百里ヲ得ヘク傾斜緩慢速力充分ナルヲ以テ東京名古屋間十五時以內ニ達スルヲ得ン其利害得失如斯明瞭ナリ是ヲ以テ目下中山道中部ノ起工ニ臨ミ危懼逡巡頗ル躊躇セサルヲ得ス若シ將タ費用ニ關セス歲月ヲ惜マス得失利害ヲ省ミス斷行直前必ス當初ノ目的ヲ貫徹セントスルハ爲サハルノミ能ハサルニ非ス但恐ル世ノ識者ヲシテ之ヲ觀セシメハ其レ之ヲ得タリト爲ス乎將タ失フト爲サン

乎是某ノ最モ恐ル、所ナリ願フニ中山道工事着手以來殆ント二年半其間許多ノ勞費ヲ累ネ今將サニ漸ク緒ニ就ントスルニ及ンテ其方向ヲ變更セサルヲ得サルニ至ルモノハ私心竊カニ慊カラサル所アリト雖トモ其得失ノ係ル所遠且大ナルヲ以テ敢テ衷情ヲ吐露シテ閣裁ヲ請ハントス乃チ御參考ノ爲メニ各事項ヲ擧ケテ兩道ヲ比較シ別表ヲ調表シテ之ヲ附呈ス

右比較上ニ於テ線路建築ノ難易ヲ考フレハ一目シテ東海道ノ優レルヲ知ルヘシ然リト雖トモ兩道採擇ノ如キハ本局ノ奉承スル所ニ非レハ敢テ擬議セス但中山道實檢ノ結果ヲ上申スルニ當リ其經路ノ險惡ト布設期限ノ彌久ナルトハ豫想外ニ出ルヲ以テ默止ニ忍ヒス兩道事情ヲ具シテ御覆審ノ料ニ供シ此段上申候也

乙號

鐵道建設費額概算調書

一金貳千萬圓

內

金四百貳拾七萬圓

差引殘額

金千五百七拾三萬圓

內

金五百七拾三萬圓

金千萬圓

但東海道線建設費概算高

右中山道線資金ノ内譯列記ノ如ク大垣半田高崎橫川及直江津線ノタメニ既ニ本月迄ニ金四百貳拾

中山道鐵道公債ヲ以テ募集セラレタル資金

大垣半田高崎橫川及直江津線建設ノタメ額收シタル金額

領收未済ニシテ大蔵省ニ現在スル金額

大垣半田上田直江津及橫川線ノ殘工事ニ充ツヘキ金額

殘額

七萬圓ヲ領收セリ今此金額ヲ資金貳千萬圓ヨリ扣除スレハ金壹千五百七拾三萬圓ノ殘額トス而ルニ本線ノ事業高崎橫川間ハ既ニ竣功シ大垣半田間ハ十ノ八九ヲ竣功セリ目下直江津上田及ヒ橫川以西ヲ以テ重ナル殘工事ノ在ル所トス因テ其費額ヲ概算スルニ凡ソ金五百萬圓餘ヲ要スヘシ而シテ猶壹千萬圓餘ヲ殘ス資金支用ノ内譯前記ノ如シ因テ之ヲ考フルニ今新ニ東海道線ヲ起工シ其全部竣功ニ至ルマテノ費用ヲ概算スルニ壹千萬圓ヲ充テハ以テ足レリトス而シテ五百七拾三萬圓ヲ以テ專ラ上田直江津及ヒ橫川以西ノ殘工事ニ充テハ萬々不足ヲ告クルノ慮無ルヘシ乃チ全額金貳千萬圓ヲ折半シ壹千萬圓ヲ以テ東海道線ニ充テ工事ノ緩急ヲ量リ其宜キニ從ヒ漸次歩ヲ進メハ之レカ爲メニ別ニ資本ヲ募集スルヲ要セスシテ餘裕アルモ不足ヲ生セサルヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ

○閣令第二十五號

明治十六年四月太政官第拾號布達ヲ廢止ス

明治十九年七月二十二日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

(參照)明治十六年四月太政官第拾號布達

北海道(轉籍移住者手續別紙)通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス

但明治十五年五月第拾號同年七月第拾五號布達及同七年七月第拾號使第貳號第一第二第三條ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

(別紙略ス)

○閣令第二十六號

帝國大學其他文部省所轄諸學校ノ教官ハ其授業ノ時間及學科ノ輕重難易等ニ依リ勅令第六號高等官官等俸給令官等相當俸給以下ノ額ヲ支給スルコトアルヘシ

明治十九年七月二十二日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

○閣令第二十七號

勅令第五十七號發布ニ付明治十一年月十二太政官第五拾貳號達ヲ廢ス

明治十九年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

(參照)明治十一年月十二太政官第五拾貳號達

監軍本部被置候條此旨相違候事

各官廳

官省院府縣

○閣令第二十八號（官報 十月七日）
勅令第五十四號地方官官制第四十六條ニ依リ東京府管下小笠原島ニ島司ヲ置ク
明治十九年十月六日
内閣總理大臣伯爵伊藤博文

明治十九年十月 閣令 第二十八號

○閣令第二十九號
 明治十五年十一月二十五日
 第二十六號布達徵發事務條例第二十五條左ノ通改正シ同條例附錄第四號離形ヲ増加ス

明治十九年十一月五日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ附錄第四號一三三第五號一三三第五號ニ依リ西洋形船舶器械製造修履場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表船舶表汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ヘ送付スヘシ但其管内ニ於テ新タニ構造シ若クハ買入タル汽船アル時ハ第五號三ノ離形ニ依リ汽船表ヲ製シ其時々同省ヘ送付スヘシ

附錄第四號ノ一

西洋形船舶器械製造修履場表		道廳何(府)縣	
持	主	何國何郡(區)何町(村)何番地	何某(土)族(平民)何某
所在地	名	何國何郡(區)何町(村)何番地	何港(河)東(南)西(北)岸
創業	年月	何年何月	
造	第一	長サ	何尺
船	第二	盤木ノ廣サ	何尺
登	第三	水中深サヨリ深サ	何尺
修	第一	盤木上最大ノ長サ	何尺
渠	第二	渠口最大ノ廣サ	何尺
	第三	平時滿潮面ヨリ渠口底ニ至ル	何尺
		同	同
		同	同
		同	同

明治十九年十一月 閣令 第二十九號

旋盤	何「インチ」
器械	類一「汽(水車)風車(人力)」
馬	力一「何馬力」
職工	數一「何人」
一 職工ノ數ハ場内最大事業ニ要スル一日ノ總數ヲ記スヘシ	
一 旋盤(輾轉)ノ如キモノ(眞隔トハ旋軸ト盤面ノ間隔即チ其處ニ迴轉スル物體ノ半徑ナリ)	

○閣令第三十號 (官報十一月十七日)

第一條 地方郵便局及電信分局ハ土地ノ情況ニ依リ便否ヲ斟酌シテ之ヲ合併シ其事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二條 郵便局及電信分局ヲ合併シタルトキハ郵便電信局ト稱シ局長ハ郵便電信局長、書記ハ郵便電信書記ト稱ス

第三條 郵便局及電信分局ヲ合併シタルトキ其局ノ等級ハ郵便局及電信分局ノ高キモノニ依ル
明治十九年十一月十六日
内閣總理大臣 伯耆伊藤博文

○閣令第三十一號 (官報十二月一日)

勅令第七十三號ヲ以テ明治十六年布告徵兵令中改正追加ノ處今十九年徵兵適齡者並目下在役中ノ現役兵豫備兵後備兵取扱方左ノ通之ヲ定ム

明治十九年十一月三十日

内閣總理大臣 伯耆伊藤博文

一 今十九年徵兵適齡者ニシテ現役兵當籤ノ者ハ明治二十年四月二十日ヨリ五月二十日迄ノ間ニ入營セシメ其服役年期ハ同年四月二十日 徵兵令第四十一條ニ當ル者ハ入營ノヨリ起算シ補充員當籤ノ者ハ明治二十年四月二十日ヨリ起算シ滿一箇年ノ後第一豫備徵員ニ編入ス
一 現役兵服役年期ハ入營年ノ四月二十日ヨリ起算シ豫備兵後備兵服役年期ハ其編入年ノ四月二十日ヨリ起算ス

○閣令第三十二號 (官報十二月一日)

勅令第七十五號警備隊條例第一條ニ依リ對馬國ニ警備隊ヲ置ク

明治十九年十一月三十日

内閣總理大臣 伯耆伊藤博文

○閣令第三十三號 (官報十二月二日)

假留監官制ハ勅令第七十七號集治監官制ニ準據スヘシ

明治十九年十二月一日

内閣總理大臣 伯耆伊藤博文

○閣令第三十四號

各官廳

明治十九年六月閣令第十四號内國旅費規則ニ附則ヲ追加スルコト左ノ如シ
明治十九年十二月二十二日
内閣總理大臣 伯耆伊藤博文

内國旅費規則附則

第一條 北海道廳、沖繩縣、東京府、小笠原島廳、長崎縣、對馬島廳、鹿兒島縣、大島島廳所轄地及東京府管

○閣令第三十五號 轉伊豆七島内ハ管内巡回ト雖モ管外旅行ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第二條 北海道廳沖繩縣管轄内ハ車馬賃ニ限リ管外額ノ五割以内ヲ増給スルコトヲ得

但北海道廳管轄内ハ毎年十一月ヨリ翌年三月マテ五箇月間車馬賃ニ限リ管外額ノ二倍以内ヲ増給スルコトヲ得

第三條 各省大臣ハ前二條ニ據リ旅費額ヲ定メタルトキハ大藏大臣ニ通知スヘシ

○閣令第三十五號

公立學校職員ノ名稱ハ尋常中學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ於テハ學校長教諭助教諭書記トシ小學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ於テハ學校長訓導トシ總テ判任ヲ以テ待遇スヘシ

明治十九年十二月二十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

○閣令第三十六號

朝鮮國駐在公使館領事館附警部ノ官等俸給ハ勅令第四十二號警視廳官制判任官四等以下ニ準據スヘシ

明治十九年十二月二十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

○閣令第三十七號

北海道廳函館根室支廳ヲ廢ス

明治十九年十二月二十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

法令全書

達

内閣

○第一號

農商務省所轄三池佐渡生野三嶺山ノ事務自今大藏省ノ管理ニ付ス

省院廳府縣

明治十九年一月六日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

○第二號

修史館ヲ廢シ内閣ニ臨時修史局ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ編修ノ事ヲ掌ラシム

省院廳府縣

明治十九年一月九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

奉勅

編修長 一人

奏任

編修 四人

同上

掌記 三十人

判任

省廳府縣

○第三號

明治七年^四太政官第五拾七號達ヲ廢ス

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

明治十九年一月二十三日

(參照)明治七年^四太政官第五拾七號達
水路寮ニ於テ各港海上現象記事本年ヨリ以後年々編譯候ニ付各廳所轄并人民所恃西洋形船艦ハ航行及碇泊中ノ晴雨寒

明治十九年一月 達 内閣第百號 第三號

暖針路方向鐵道建設部ヲ別表ノ通記載セシメ毎年六月十二月兩度管轄廳ヨリ同察ヘ可差出此旨相達候事
但航行并碇泊日歸ノ用紙登ミノ者有之候ハ、同察ヘ可申出申 (別表略ス)

○第四號

明治十八年七月太政官第三拾四號達警視廳職制官等表中左ノ通追加ス

省院廳府縣

明治十九年一月二十六日

奉 勅

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

奏任以上ノ月給云々ノ次へ

巡查奉職滿九年以上十二年以下ハ月給拾貳圓滿十二年以上ハ月給拾五圓ヲ給スルコトヲ得ノ
一項ヲ加フ

○第五號

明治十七年十二月百貳號達判事登用規則第二條及ヒ第九條中左ノ通改正ス

省院廳府縣

明治十九年一月二十六日

奉 勅

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

第二條 一項 法學士代言人及ヒ試験及第者ヲ登用スルトキハ先ツ判事試補ヲ命シ一箇年以上
始審裁判所ニ試用シ判事定員ノ缺アルニ隨ヒ其本官ニ任スルモノトス

同 條 三項 判事試補服務一箇年以上ノ者ハ檢事ニ登用スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲クル者ハ試験及ヒ判事試補ノ例ヲ用ヒス補缺ノ爲メ直ニ判事ニ任スルコトアル
ヘシ

○第六號

北海道廳官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

省院廳府縣

明治十九年一月二十六日

奉 勅

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

理事官

副

第二條 北海道廳ニ左ノ警察官ヲ置ク

警部長

警部

警部補

第三條 北海道廳ニ左ノ郡區官ヲ置ク

郡區長

郡區書記

第四條 北海道廳ニ左ノ監獄官ヲ置ク

典獄

副典獄

書記

看守長

第五條 北海道廳ニ左ノ技術官ヲ置ク

技長

技手

第六條 北海道廳ニ左ノ學務官ヲ置ク

農學校長

農學校幹事

農學校教授

農學校助教

第七條 長官ハ勅任トス北海道拓地殖民ニ關スル一切ノ事務ヲ總判シ廳中奏任官ノ進退ハ内閣ニ具狀シ判任以下ハ之ヲ專行ス

第八條 長官ハ一般ノ法律命令北海道ニ施行シ難キモノアリト思量スルトキハ其意見ヲ具ヘ内閣ニ上申スルコトヲ得又北海道ニ須要ナリト認ムル所ノ法律命令ノ案ヲ具ヘ内閣ニ上申スルコトヲ得

第九條 長官ハ各省主任ノ事務ニ就テハ各省大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第十條 長官ハ屯田兵開墾授産ノ事務ヲ監督ス

第十一條 長官ハ毎年度末ニ於テ其處務ノ方法及功程ヲ具ヘ内閣ヘ報告スヘシ

第十二條 理事官ハ奏任トス事務ヲ長官ニ受ケ各其主務ヲ幹理ス

第十三條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ受ケ各庶務ニ從事ス但支廳ニ於テハ各課長ニ充ツルコトヲ得

第十四條 警部長及警部ハ事務ヲ長官又ハ支廳長ニ受ク其職制ハ明治十一年第三拾貳號太政官達府縣官職制ニ依ル

第十五條 郡區長ハ事務ヲ長官又ハ支廳長ニ受ケ部内ノ事務ヲ掌リ併セテ町村戸長ヲ監督ス

第十六條 郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ受ケ各庶務ニ從事ス

第十七條 典獄以下職制ハ明治十四年拾九號太政官達内務省所轄集治監職制ニ依ル但典獄ハ事務ヲ長官ニ受ク

第十八條 技長ハ事務ヲ長官ニ受ケ技術ノ事ヲ幹理ス

第十九條 農學校長ハ事務ヲ長官ニ受ケ學校ノ事務ヲ掌リ及職員ヲ管理ス

第二十條 農學校幹事ハ校長ノ命ヲ受ケ學校ノ庶務ヲ管理ス校長事故アルトキハ其事務ヲ代理スルコトヲ得

第二十一條 農學校教授ハ生徒ノ教授ヲ掌ル

第二十二條 農學校助教ハ教授ノ職掌ヲ助ク

○第七號

省院廳府縣

元函館札幌根室三縣及農商務省北海道事業管理局樺戸空知釧路三縣治監ノ事務ハ北海道廳開闢迄ノ間從前ノ通取扱フヘシ

明治十九年一月二十六日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

宮内省

○號外

一品大勳位藏仁親王殿下薨去ニヨリ宮中ニ於テ今二十四日ヨリ五日間服喪 仰出サレタルニ付勅任官及ヒ宮内奏任官近衛將校并ニ右日限中參 朝ノ輩ハ左記ノ通り喪服着用可致事

一 喪服ハ大禮服着用ノ節ハ左ノ袖釧ノ柄帽ノ飾章ニ黒紗ヲ纏フ

一 通帯禮服通帯服襟紐等黒色ヲ用ヒ帽ニハ黒羅紗ノ帶ヲ附ス

明治十九年一月二十四日

宮内大臣伯爵伊藤博文

○號外

故一品大勳位熾仁親王殿下御遺骸來ル二十九日送葬ニ付當日會葬者ハ大禮服用用之事

一大禮服用用ノ者ハ左ノ袖劔ノ柄帽ノ飾章ニ黒紗ヲ纏フ

一通常禮服用用ノ者ハ襟紐等黒色ヲ用ヒ帽ニハ黒羅紗ノ帶ヲ附ス

明治十九年一月二十六日

宮内大臣伯爵伊藤博文

内務省

○甲第壹號

警視廳 府 縣

陸海軍軍法會議ニ於テ輕重懲役及ヒ劊官ヲ附加シタル禁錮ノ刑若クハ普通刑法ニ依リ懲役禁錮ノ處斷ヲ受ケ官職ヲ失ヒ軍籍ヲ除カレタル囚徒ニ係ル費用ハ來ル二十年以後軍法會議所在地方ノ地方稅ヲ以テ支辨ス可シ

但從前陸海軍軍律ニテ處斷セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ明治十四年三月第拾七號公布ニ依リ區分シ陸海軍刑法ニテ徒刑流刑禁錮ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ國庫費ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ

右相達候事

明治十九年一月二十九日

内務大臣伯爵露山縣有朋

大藏省

○第壹號

府 縣

明治十七年第八拾九號公達ヲ以會計年度改正相成候ニ付テハ國稅金ノ内營業稅ノ如キ一箇年前後

半期ツ、區分シ上納及ヒ申報致シ來リ候分來十九年度ヨリ右區分ヲ要セス、何年度分何年何月何日限收入又ハ隨時收入ト記載取扱フヘシ

但納稅切符ハ從前ノ通

右相達候事

明治十九年一月八日

大藏大臣伯爵松方正義

○第貳號

府 縣

諸公債名証書ノ元金共條例ニ定メアル拂渡期限ヲ經過シ受取方申出テス所有主ノ損失ニ歸シタル証書ハ當省ニ於テ該証書ノ無効タルヘキ旨ヲ告示スヘキニ付右ノ証書コレアルホハ公債簿冊ニ據リ該証書ノ種類金高記號番號等其年十二月末日ノ現狀ヲ以テ取調翌年一月三十一日限リ其地發遣當省ヘ届出ヘシ

右相達候事

明治十九年一月九日

大藏大臣伯爵松方正義

○第三號

警視廳 府 縣

當省管理三池佐渡生野鑛山ニ各工業所ヲ置ク

明治十九年一月十三日

大藏大臣伯爵松方正義

○第四號

警視廳 府 縣

當省中ニ官房及ヒ金庫局ヲ置キ議案局ヲ廢シ調査局ヲ主計局ト改稱ス

明治十九年一月十六日

大藏大臣伯爵松方正義

○第五號

府 縣

明治十五年二月十四日當省第五號同年六月十六日同第十六號同年七月六日第二十四號及同十七年

一月二十六日同第五號及同年十月三日同第六十八號達中出納局トアルハ自今總テ金庫局ト改ム
明治十九年一月二十日 大藏大臣伯爵松方正義 府 縣

○第六號 當省國債局大坂出張所本月二十日限り廢止ス
明治十九年一月二十日 大藏大臣伯爵松方正義 府 縣

○第七號 諸貸下金及繰替貸其他返納金等ノ事務自今當省書記局整理課ニ於テ管理セシム
明治十九年一月二十一日 大藏大臣伯爵松方正義 府 縣

○第八號 當省出納局大坂出張所ヲ廢シ金庫局大坂出張所ヲ置ク
明治十九年一月二十一日 大藏大臣伯爵松方正義 府 縣

○第九號 諸貸下金未納證書及ヒ受拂勘定帳調成方ノ儀十九年度以降左ノ通心得ヘシ
未納證書ハ四月一日ノ現狀ニ依ルヘシ
受拂勘定帳ハ會計年度一回トスヘシ
追補勘定帳ハ調製ニ及ハス
明治十九年一月二十一日 大藏大臣伯爵松方正義 府 縣

○第十號 明治十七年當省第八十九號地租ニ關スル諸帳簿樣式及明治十八年當省第七十四號地租表樣式中左ノ通更正ス
大藏大臣伯爵松方正義 府 縣
縣 前所領札根室
縣 前所領札根室
縣 前所領札根室
縣 前所領札根室

十七年當省第八十九號達別冊

- 一 第十五項免租地臺帳ノ腹書中(公立學校)ノ割註ヲ刪除ス
 - 一 第十六項公立學校地臺帳ノ一項ヲ刪除ス
 - 一 第一號地租臺帳樣式第四段地價ノ區畫及ヒ欄外ノ凡例第三項(宅地及ヒ町村計)ヲ刪除ス
 - 一 第十四號免租地臺帳樣式凡例第二項中(公立學校)ノ割註ヲ刪除シ(種目)ノ區畫中へ公立學校地ノ一種目ヲ增加ス
 - 一 第十五號學校地臺帳樣式ヲ廢ス
 - 一 十八年當省第七十四號達別冊
 - 一 稅表ノ部第一號地租表樣式第三段中地價ノ一畫及ヒ學校ノ四欄ヲ刪除ス
 - 一 同上第二號地租增減表樣式增ノ部有租地成ノ内拂下ノ註釋中學校地トシテ拂下ノ下割註ヲ(敷地トナシ直チニ免租)ト更正シ減ノ部免租地成ノ内學校敷ノ註釋中前略學校敷地トナシノ下割註ヲ刪除シ未項内引學校段別增減ノ部ノ全部ヲ刪除ス
 - 一 報告表ノ部第壹號免租地段別表樣式備考第二項ヲ刪除ス
- 明治十九年一月二十二日 大藏大臣伯爵松方正義

陸軍省

○達甲第壹號

府 縣 前所領札根室
縣 前所領札根室
縣 前所領札根室
縣 前所領札根室

昨十八年十二月達甲第五拾號ヲ以テ本年各兵現役滿期ノ者歸休ノ儀相違置候處尙詮議ノ次第有之
騎輜重兵ノ儀ハ右歸休差止メ定例ノ通歸郷爲致候條爲心得此旨相違候事
明治十九年一月十二日 陸軍大臣伯爵大山 殿

○通乙第壹號

戰時編制概則別冊之通改正相成候條此旨相達候事 (前册略之)

明治十九年一月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○通乙第貳號

輜重兵卒及輸卒假教則別冊之通相定候條此旨相達候事

明治十九年一月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

輜重兵卒及輸卒假教則

總則

第一條 此教則ハ輜重兵卒及輸卒一般ノ事業ヲ生兵入營ヨリ現役滿期ニ至ルマテニ修得セシムルヲ以テ目的トス

第二條 本則ヲ分テ學期區分各隊長ノ責任檢査並ニ各期學術科目授業ノ注意トス

第三條 上等兵ノ教育ハ別ニ成規アルヲ以テ本則ニ準據スヘキモノニアラス

學期區分

第四條 中隊ノ内輜重兵卒ハ初年兵二年兵三年兵ノ三部トシ輸卒ハ更ニ一部トシ中隊長ハ之ニ部下ノ小隊長一名及下士若干名ヲ屬シ專ラ各部ノ學術教育ニ任セシムルモノトス

第五條 輜重兵卒一部ノ學期ハ分テ三期トス即チ生兵入營ノ期ヨリ同年八月三十一日迄ヲ第一期トシ九月一日ヨリ翌年一月三十一日迄ヲ第二期トシ二月一日ヨリ同年四月生兵入營ノ期迄ヲ第三期トス

第六條 輸卒ノ學期ハ分テ二期トス即チ入營ヨリ二ケ月間ヲ第一期トシ後二ケ月間ヲ第二期トス

第七條 前二條ノ各期內ニ於テ教授スヘキ學術科目ハ第十五條ニ之ヲ掲ケ

各隊長ノ責任

第八條 大隊長ハ專ラ部下各隊ノ教育ヲ總理シ學術進步ノ程度及熟否ヲ監視スルモノトス

第九條 中隊長ハ教育ノ基本ナルヲ以テ學術教育ハ專ラ中隊長ノ任トス故ニ各期內ノ學術科目ニ就テ彼是斟酌スルハ此官ノ適宜ニ任ス

第十條 中隊長ハ各期ニ示ス學術科目ノ外ト雖モ特ニ有益ト認ムルモノハ之ヲ施行スルヲ得

第十一條 中隊長ハ專ラ學術ノ教育ニ任スルヲ以テ其成績上ニ就テハ又其實ニ任スルモノトス

第十二條 各部ノ小隊長ハ中隊長ノ命ヲ奉シ一部ノ教育ヲ掌ルモノトス故ニ其成績上ニ就テハ中隊長ニ對シ其實ニ任スルモノトス

檢査

第十三條 各期ノ終リニ於テ中隊長ハ部下各部學術兩科ノ檢査ヲ行ヒ各科目ニ就テ自己ノ意見ヲ加ヘ大隊長ニ報告スヘシ

第十四條 大隊長ハ輜重兵卒第一期ヲ終リテ生兵卒業ノ期ニ至レハ細密ナル學術檢査ヲ行ヒ第二期ノ終リニ至レハ一般ニ細密ナル學術檢査ヲ行ヒ又輸卒第二期ノ終リニ至レハ學術檢査ヲ行ヒ

組長ニ適當スヘキモノハ之ニ適任證書ヲ與フヘシ
前項ノ成績ハ之ヲ所管長官ニ報告シ又各隊ノ優劣ヲ審判シ之ヲ部下隊長ニ諭告スヘシ

各期學術科目

第十五條 各期間ニ施行スヘキ學術科目概テ左ノ如シ

輜重兵卒各期學術科目

明治十九年一月 陸軍省通乙第貳號

第二		第一												
車 上 駕 馭 術	徒 步 駕 馭 小 隊	馭 馬 小 隊	車 輛 修 置 作 業	射 術	荷 造 作 業	徒 步 駕 馭 生 兵	馭 馬 生 兵	乘 馬 生 兵	徒 步 小 隊	徒 步 生 兵	初 年 兵	科		
												初 年 兵	二 年 兵	
同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ
同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ
同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ
同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ

輜重輸卒各期學術科目

第一		第二		第三		第四	
車 上 駕 馭 術	徒 步 駕 馭 小 隊	馭 馬 小 隊	車 輛 修 置 作 業	射 術	荷 造 作 業	徒 步 駕 馭 生 兵	馭 馬 生 兵
同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ
同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ
同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ
同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ	同 シ

期	第	行軍演習	車輜修置法	獸馬車輛ノ積載法及積載量目
二		野外演習	行軍演習ノ心得	
			野外演習ノ心得	
			運送法ノ心得	
			戰時隊屬及隊列ノ心得	

第十六條 前條科目ノ外喇叭卒ハ喇叭長ヲシテ之レニ緊要ナル學術ヲ教授セムヘシ
 授業ノ注意

第十七條 凡テ輜重兵ノ諸演習ハ輸卒ノ幹部タル能力ヲ養成セムルヲ旨トスルモノナレハ務メテ實地ノ活用ニ熟シ戰時發生スル諸種ノ事變ニ適シテ輸卒ヲ指揮シ輜重ノ目的ヲ誤ラサラシムルヲ要ス

第十八條 輜重兵卒ハ學科及乘馭駕馭ノ術ハ最モ熟練セサルヘカラスト雖モ其他ノ術科ハ輸卒ノ教導及其統御ニ要スルモノニシテ射的及軍刀使用法ノ如キハ護身ト實地不虞ノ警戒ニ供スルニ止ルモノナレハ此技ノ練習ハ各自ノ信認ヲ得セシムルノミニシテ可ナリ

第十九條 輸卒ノ諸演習ハ戰時隊屬或ハ縦列トナリ軍需諸品ヲ運搬スルモノナレハ務メテ實地ノ活用ヲ旨トシ戰時ノ眞勢ニ則トリ實際ニ遭遇スヘキ諸種ノ困難ニ馴レ勞働ニ堪ヘシムルヲ要ス

第二十條 第十五條ニ掲クル各期ノ科目ハ尙ホ左ノ諸項ニ注意シ之ヲ教練訓導スヘシ
 第一期
 一 体操ハ志氣ヲ振起シ筋骨ヲ軟ケ諸動作ヲ活潑ナラシムルニ緊要ナリトス

一 徒歩生兵ハ兵事故訓ノ基礎軍紀確立ノ根據ナルヲ以テ精密ニ着意シ姿勢ノ保持歩度ノ調制武器ノ用法等ニ習得セムヘシ
 但輸卒ニ在テハ軍刀及騎銃拳銃ノ用法ヲ教授セス

一 徒歩小隊ハ操典ニ則トリ集合運動ヲ習業セシム
 一 乘馬生兵ハ生兵學ニ示ス獨乘法及各種障礙物ノ飛越法及兵器ノ用法ヲ修業セシム專ラ單騎馭法ニ習熟セシムヘシ
 但輸卒ニ在テハ之ヲ教授セス

一 馱馬及徒歩駕馭生兵ハ操典ニ則トリ物品ノ積載及運動ニ習熟セシムヘシ
 但輸卒ニ在テハ特ニ熟練ヲ要スヘキモノトス

一 荷造作業ハ物品ノ損傷錯雜ヲ防キ且堅牢緊結ニシテ作業迅速ナルニ習熟セシムヘシ
 一 射的ハ射的教程ニ則トリ獨立射撃ノ第一表及第二表ニ依リ習業セシムヘシ
 但輸卒ニ在テハ之ヲ教授セス

第二期

一 車輛修置作業ハ急備補救ノ要ニシテ忽ニスヘカフサルモノナレハ其法ニ則トリ迅速且堅牢ナルニ習熟セシムヘシ
 但輸卒ニ在テハ第一期中ニ教授ス

一 馱馬及徒歩駕馭小隊ハ操典ニ則トリ連續行進ノ運動ニ習熟セシムヘシ
 但輸卒ニ在テハ第一期中ニ教授ス

一 車上及鞍上ノ駕馭術ハ時機須用ノモノナレハ該操典ニ則トリ各種ノ車輛ニテ其馭法ヲ習業セシムヘシ

但輸卒ニ在テハ二輪車ノミニシテ第一期中ニ教授ス
 一乘馬小隊ハ操典ニ則トリ密集ノ運動ヲ習業セシムヘント雖モ蓋シ乘馬ニテ儀仗或ハ觀兵等ニ
 出場セシトノ運用ニ過サルナリ
 但輸卒ニ在テハ之ヲ教授セス

第二期

一第三期ノ演習ハ極メテ實地ノ應用ヲ旨トシ難路不齊地等ニ就キ諸種ノ運動及動作ニ熟セシム
 ヘシ

○達乙第三號

陸軍大學校條例第一章第九條第十條左之通改正候條此旨相達候事

明治十九年一月七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第九條 學生修學期限ハ三年トス而シテ其第一期ハ豫科ヲ教習シ第二期ヨリ本科ヲ修學セシム
 第十條 本科修學期限中毎年二ヶ月間其本科ニアラサル兵隊ニ附屬セシメ練兵及其隊務ヲ修習セ
 シム可シ

○達乙第四號

陸軍給與概則中左之通改正候條此旨相達候事

明治十九年一月七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第二章第十二條ヲ左ノ如ク改ム
 第十二條 隊附下士服役七ヶ年ヲ經過シタル者ニハ俸給ヲ增加ス之ヲ年功加俸ト云フ其官名及
 ヒ金額ハ第四表ノ如シ若シ隊外ノ官職ニ轉シ又ハ營外ニ居住スルハ之ヲ止ムヘシ
 第四表ヲ左ノ如ク改ム

第四表

隊附下士年功加俸表

官名	現役中七ヶ年ヲ經過シタル者 均平月額	現役中十ヶ年ヲ經過シタル者 均平月額		
			額日	均平月額
曹長	貳圓四拾三錢三厘	拾	錢	三圓〇四錢貳厘
一等工長	壹圓五拾貳錢壹厘	七	錢	貳圓拾貳錢九厘
二等工長	九拾壹錢三厘	五	錢	壹圓五拾貳錢壹厘

備 考
 ○此加俸ハ現役七ヶ年又ハ十ヶ年ヲ竣リタル翌日ヨリ給ス
 ○此加俸ハ近衛親衛及ヒ各兵種ノ別アルナシ

○達乙第五號

騎兵科下士卒ハ從來給與スル短靴ヲ廢シ半長靴ト爲シ長靴ハ黑革製ニ改造シ來ル十九年度ヨリ別
 表ノ通支給スヘシ此旨相達候事

但在庫品ハ勿論既ニ給與ノ分ハ當分取交使用スル儘ト心得ヘシ

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別表)

騎兵隊改正長靴給與表

品目名	稱	服役中									
		給與數	初年	次年	三年	四年	五年				
		四	月	五	月	五	月	五	月	五	月

考備	牛 長 靴	長 靴	騎兵下士卒			
			卒 三足	下 士 五足	卒 三足	下 士 五足
○表中初年次年三年ト附スルモノハ給與年期ニシテ新任入官ノ月ヨリ翌年其前月迄乃チ十二ヶ月間ヲ云フ而シテ其年 期中給與スヘキ員數ヲ示スモノナリ ○其初年ノ區段ハ新任入官下士卒ノ給與數ヲ示スモノニシテ從來在役ノ下士卒ハ次年以下ノ給與數ニ繼ルモノトス			○	○	○	○
			○	○	○	○
			○	○	○	○
			○	○	○	○

○達乙第六號

去ル十七年達乙第三十九號達中砲兵各中隊第二小隊ノ幹部ハ當分設ケ置カサル管ニ候處本年ヨリ該幹部中二等軍曹ニ限リ過剩ノ人員ヲ各隊ニ割合漸次附屬爲致候條此旨相達候事

明治十九年一月十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○達乙第七號

鐵兵東裝器具配當表昨十八年達乙第三十一號ヲ以テ相達候處右表中綿布製卷尺ノ壹點ハ自今廢止候條此旨相達候事

明治十九年一月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○達乙第八號

兵卒ニ精勤證書ヲ附與スル儀ハ三年ヲ以テ率トスルノ成規ニ有之候處雜卒諸工ノ服役年七ケ年ノ者并服役年期ノ定メナキ者ハ病前日數計算方等總テ下士ノ率ニ準據可致此旨相達候事但服役年期ノ定メナキ者ニハ服役七ケ年ニ滿ル毎ニ證書附與候儀ト心得ヘシ

明治十九年一月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○達乙第九號

昨十八年^七月達乙第百五號ヲ以テ軍人軍屬ノ罪犯遞傳護送ノ儀相達置候處右發途ノ節別紙ノ通添書ヲ附スヘシ此旨相達候事

明治十九年一月二十七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別紙)

傳遞狀

兵種隊號(所管)

罪名

職官位勳氏名

當何月何年何ケ月

右頭書之犯罪ニ依リ何鎮臺(營所等)ヘ送附スヘキ者ニ付傳遞護送有之度候也

年月日

何鎮臺(何營所)

印

沿道警察署

御中

所持品アル者ハ其目錄ヲ添フヘシ

○達乙第十號

師團番號ノ儀左ノ通被相定候條此旨相達候事

明治十九年一月二十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

東京鎮臺ヲ

第一師團

仙臺鎮臺ヲ

第二師團

明治十九年一月 達 陸軍省達乙第九號 達乙第十號

名古屋鎮臺ヲ
大阪鎮臺ヲ
廣島鎮臺ヲ
熊本鎮臺ヲ

第三師團
第四師團
第五師團
第六師團

海軍省

府 縣

○乙第壹號

百噸以上ノ西洋形船舶所有者ニ限リ航海及碇泊記事自今左表ノ通記載セシメ毎年六月十二月兩度
管轄廳ヨリ直ニ當省水路局ヘ差出スヘシ

明治十九年一月二十五日

海軍大臣伯爵西鄉從道

時	天候	羅針偏差	晴雨儀	寒暖儀	鐘錶	記	
						前	後
辰一時							
辰二時							
辰三時							
辰四時							
辰五時							
辰六時							
辰七時							
辰八時							
辰九時							
辰十時							
辰十一時							
辰十二時							
正午							
一時							
二時							
三時							
四時							
五時							
六時							
七時							
八時							
九時							
十時							
十一時							
十二時							

記事トハ出港入港及航海中鐘錶何方ニ折リ島嶼岬角ヲ其
向ニ望ムコト或ハ風雲雷雨ノ發起消息或ハ暗礁淺灘ノ變
發發明或ハ蒸汽機關ノ破損帆樑諸部ノ毀折其他沖掛リノ
模様等ニ至ルマテ總テ航海者ノ注意ニ係ル所ノ者ヲ取リ
其時分秒ニ因テ之ヲ細記スヘシ

時	航 程		航 候	風 力
	里	分		
辰一時				
辰二時				
辰三時				
辰四時				
辰五時				
辰六時				
辰七時				
辰八時				
辰九時				
辰十時				
辰十一時				
辰十二時				
正午				
一時				
二時				
三時				
四時				
五時				
六時				
七時				
八時				
九時				
十時				
十一時				
十二時				

○丙第壹號

石川丸第一回漕丸ヲ航海練習艦ニ充テ艦位七等ニ準ス

海軍一 般

明治十九年一月十五日

海軍大臣伯爵西鄉從道

○丙第貳號

畝傍外七艦乘員各別表ノ通相定ム

海軍一 般

明治十九年一月二十一日

海軍大臣伯爵西鄉從道

(別表)

畝傍艦定員表

官 名	職 名	人員	官 名		人員	職 名	人員
			大佐	中佐			
艦長	一等	一	艦長	一等	一	水兵	三十
副艦長	二等	一	副艦長	二等	一	水兵	三十
第一長	二等	一	第一長	二等	一	水兵	三十
第二長	三等	一	第二長	三等	一	水兵	三十
第三長	三等	一	第三長	三等	一	水兵	三十
第四長	三等	一	第四長	三等	一	水兵	三十
第五長	三等	一	第五長	三等	一	水兵	三十
第六長	三等	一	第六長	三等	一	水兵	三十
第七長	三等	一	第七長	三等	一	水兵	三十
第八長	三等	一	第八長	三等	一	水兵	三十
第九長	三等	一	第九長	三等	一	水兵	三十
第十長	三等	一	第十長	三等	一	水兵	三十
第十一長	三等	一	第十一長	三等	一	水兵	三十
第十二長	三等	一	第十二長	三等	一	水兵	三十
第十三長	三等	一	第十三長	三等	一	水兵	三十
第十四長	三等	一	第十四長	三等	一	水兵	三十
第十五長	三等	一	第十五長	三等	一	水兵	三十
第十六長	三等	一	第十六長	三等	一	水兵	三十
第十七長	三等	一	第十七長	三等	一	水兵	三十
第十八長	三等	一	第十八長	三等	一	水兵	三十
第十九長	三等	一	第十九長	三等	一	水兵	三十
第二十長	三等	一	第二十長	三等	一	水兵	三十

合計 百十五人														
主計	大主計或中主計	大軍醫或中軍醫	機關工長	機關士	中機關士	大機關士	兵曹長	少尉	大尉或中尉	少佐	少尉	大尉或中尉	少佐	少尉
補	主計	軍醫					長	分隊士	航海士或	艦長	航海士或	艦長	艦長	艦長
一	一	一	二	一	一	一	一	一	三	一	一	三	一	一
主計	筆記	看手	火夫長	火夫長	機關工手	兵工長	兵工長	二等木工長	二等木工長	二等木工長	二等木工長	二等木工長	二等木工長	二等木工長
厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨
宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰
一	一	一	二	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
艦長從僕	厨	厨	一等若火夫	四等若火夫	三等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫
一	五	五	二	五	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二
			九	十										

合計 百十五人														
主計	大主計或中主計	大軍醫或中軍醫	機關工長	機關士	中機關士	大機關士	兵曹長	少尉	大尉或中尉	少佐	少尉	大尉或中尉	少佐	少尉
補	主計	軍醫					長	分隊士	航海士或	艦長	航海士或	艦長	艦長	艦長
一	一	一	二	一	一	一	一	一	三	一	一	三	一	一
主計	筆記	看手	火夫長	火夫長	機關工手	兵工長	兵工長	二等木工長	二等木工長	二等木工長	二等木工長	二等木工長	二等木工長	二等木工長
厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨
宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰	宰
一	一	一	二	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
艦長從僕	厨	厨	一等若火夫	四等若火夫	三等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫	二等若火夫
一	五	五	二	五	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二
			九	十										

烏海艦定員表

官	名	職	名	人員	官	名	職	名	人員	職	名	人員
少	佐	艦	長	一	一等	砲	長	一	一	一等	砲	長
大尉	或中尉	分隊	長	三	二等	砲	長	二	二	二等	砲	長
少	尉	航海	士	一	三等	砲	長	一	一	三等	砲	長
兵	曹	砲	長	一	醫	長	一	一	一	醫	長	一
大	機	機	長	一	二等	木	工	一	一	二等	木	工
中	機	機	長	一	三等	木	工	一	一	三等	木	工
中	機	機	長	一	醫	長	一	一	一	醫	長	一
大	軍	醫	長	一	火	夫	長	一	一	火	夫	長
大	主	計	長	一	看	手	一	一	一	看	手	一
主	計	補	長	一	主	計	長	一	一	主	計	長
合計	百十五人											

赤城艦定員表

官	名	職	名	人員	官	名	職	名	人員	職	名	人員
少	佐	艦	長	一	一等	砲	長	一	一	一等	砲	長
大尉	或中尉	分隊	長	三	二等	砲	長	二	二	二等	砲	長
少	尉	航海	士	一	三等	砲	長	一	一	三等	砲	長
兵	曹	砲	長	一	醫	長	一	一	一	醫	長	一
大	機	機	長	一	二等	木	工	一	一	二等	木	工
中	機	機	長	一	三等	木	工	一	一	三等	木	工
中	機	機	長	一	醫	長	一	一	一	醫	長	一
大	軍	醫	長	一	火	夫	長	一	一	火	夫	長
大	主	計	長	一	看	手	一	一	一	看	手	一
主	計	補	長	一	主	計	長	一	一	主	計	長
合計	百十五人											

○丙第三號

各艦船萬國信號符字ノ備今般左ノ通改正シ來ル二月一日ヨリ施行ス
明治十九年一月二十三日 海軍大臣伯爵西鄉從道

海軍一般

信號符字	艦名	砲數	信號符字	扶桑	砲數
g q b c	龍驤 Riu-jō	六	g q b w	扶桑 Fusō	六
g q b d	東 Adzuma	三	g q c b	肇敏 Chō-bin	四
g q b f	筑波 Tsuku-ba	八	g q c d	蒼龍 Sō-ryō	〇
g q b h	日進 Nis-shin	八	g q c f	碓津 Set-sun	八
g q b j	春日 Kasuga	一	g q c h	比叡 Hi-yei	九
g q b k	雷電 Rai-den	四	g q c j	淺間 Asa-ma	十四
g q b l	鳳翔 Hō-shō	四	g q c k	迅鯨 Jin-gei	二
g q b m	石川 Ishi-kawa	一	g q c l	磐城 Ban-jō	四
g q b n	富士山 Fuji-yama	十二	g q c m	天龍 Ten-ryū	六
g q b p	天城 Ama-ki	六	g q c n	海門 Kai-mon	七
g q b r	孟春 Moshun	四	g q c p	筑紫 Tsuku-shi	六
g q b s	清輝 Sei-ki	四	g q c r	浪速 Naniwa	八
g q b t	千代田形 Chiyoda-gata	三	g q c s	高千穂 Taka-chi-ho	八
g q b v	金剛 Kon-gō	九	g q c t	畝傍 Une-bi	十一
			g q c v	大和 Yamato	五

信號符字	艦名	砲數	信號符字	信號符字	砲數
g q c w	葛城 Katsura-gi	五	g q f e		
g q d b	武藏 Musashi	五	g q f d		
g q d c	愛宕 Atago	二	g q f h		
g q d f	摩耶 Ma-ya	二	g q f j		
g q d h	赤城 Aka-gi	二	g q f k		
g q d j	鳥海 Ō-hai	二	g q f l		
g q d k	高雄 Taka-o	五	g q f m		
g q d l	第一回漕 Dai-ichi-kuwai-sō	〇	g q f n		
g q d m			g q f p		
g q d n			g q f r		
g q d p			g q f s		
g q d r			g q f t		
g q d s			g q f v		
g q d t			g q f w		
g q d v			g q h b		
g q d w			g q h c		
g q f b			g q h d		

○丙第四號

海軍一般

客年七月丙第四拾壹號達艦船乘員上陸規則第七條左ノ通改正ス

明治十九年一月二十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

第七條 下士卒前條ノ上陸願ヲ爲サス六箇月精勤ノ者ハ褒賞トシテ艦務ノ支障ナキ時十八日以内六箇月間一回ノ上陸願ヲ爲シタル者ハ七日以内一回ノ上陸願ヲ爲シタル者ハ三日以内ノ上陸ヲ許ス可シ

○丙第五號

海軍 一般

横須賀鎮守府所轄天龍艦今般常備小艦隊ニ編入ス

明治十九年一月二十七日

海軍大臣伯爵西郷從道

司法省

○丙第壹號

大審院 裁判所 警視廳 府縣

司法省中從前ノ局課ヲ廢シ官房總務局民事局刑事局會計課書記課記錄課翻譯課ヲ置ク右相達ス

明治十九年一月二十日

司法大臣伯爵山田顯義

○丁第壹號

大審院 裁判所

明治十八年太政官第六十三號達ヲ以テ沒收物件ハ都テ地方廳ニ引繼クヘキ旨被相定候ニ付テハ自今該物件ハ書記局ニ於テ會計主任ヘ引渡スヲ要セス直ニ地方廳ニ引繼クヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

明治十九年一月四日

司法大臣伯爵山田顯義

○丁第貳號

大審院 裁判所

明治十五年五月丁第三拾貳號達特赦表ハ自今具申書類ニ就キ本省於テ直ニ編纂候條昨十八年分ヨリ差出スニ及ハス此旨相達候事

但自今特赦具申ノ時々該囚徒氏名ノ頭上ニ其所在監名(何府縣)ヲ附記スヘシ

司法大臣伯爵山田顯義

明治十九年一月十五日

農商務省

府 縣

○第壹號

明治十六年七月當省第八號達第十五項左ノ通改正候條此旨相達ス

農商務大臣子爵谷干城

明治十九年一月二十六日

第十五項施行ノ後本省ヘ報告スヘキ件

諮問會員ノ人名

開會ノ筆記

勸業委員ノ人員

各會設置ノ位地及名稱

已上ニ關スル諸費用ノ豫算決定額

遞信省

警視廳 府 縣

○第壹號

今般東京府下京橋區木挽町八丁目一番地ニ本省設置候條此旨相達候事

明治十九年一月四日

遞信大臣榎本武揚

内閣

○第八號

明治七年^六太政官第七拾九號達ヲ廢ス

明治十九年二月三日

〔參照〕明治七年^六太政官第七拾九號達

明治六年^五第三百三十三號達職員月給減差出方ノ儀詮議ノ次第有之自今相廢シ候尤雇入外國人ノ儀八月給其外別紙書式ニ照シ一箇年ヲ六月十二月兩度ニ仕切取調各省ハ七月一日共三十一日開拓使府縣ハ二月八月十五日ヲ限リ正院并大蔵省(可差出此旨相違候事(別紙書式略ス))

○第九號 (官報 二月四日)

明治十八年^七太政官第二拾四號達警視廳職制中各局ノ課長及ヒ警察署署長ノ項左ノ通改正ス

明治十九年二月一日

奉 勅

課長 警視廳ヲ以テ之ニ充ツ

警察署

署長 三等警視四等警視五等警視若クハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

○第十號

統計ノ材料ヲ改良シ其調査ノ整頓ヲ速ニスル爲メ各省院廳ノ統計或ハ報告ヲ主管編製スル局課ノ長一名ヲ以テ統計主任トナシ常ニ内閣統計局ト協議シ事務ノ便利ヲ計ルヘシ

明治十九年二月十五日

○第十壹號

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

省院廳府縣

省院廳府縣

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

省院廳府縣

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

省院廳

明治十六年八月太政官達第三拾五號ヲ廢ス

明治十九年二月十七日

内閣總理大臣伯喬伊藤博文

奉 勅

(參照)明治十六年八月太政官達第三拾五號
海軍省中教官ヲ置キ其名稱等級俸給別表ノ通相定候條此旨相達候事 (別表略ス)

省院廳府縣

○第拾貳號 (官報 二月十八日)

臨時建築局ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ諸官衙及議院等建築ノ事ヲ掌ラシム

明治十九年二月十七日

内閣總理大臣伯喬伊藤博文

奉 勅

總裁 一人

勅任

事務官

奏任

屬

判任

北海道廳 府縣 東京府 除ク

○第拾三號 (官報 二月二十五日)

明治十四年十二月十二日太政官第百拾壹號達ヘ左ノ但書ヲ追加ス

明治十九年二月二十四日

内閣總理大臣伯喬伊藤博文

奉 勅

但巡查奉職滿九年以上十二年以下ハ月給拾貳圓滿十二年以上ハ月給拾五圓ヲ給スルコトヲ得

宮内省

省院廳府縣

○第壹號 (官報 二月五日)

宮内省官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年二月四日

宮内大臣伯喬伊藤博文

奉 勅

宮内省官制

宮内大臣 帝室ノ事務ヲ總判シ宮中職員皇族職員ヲ統督シ華族ヲ管理スルコトヲ掌ル

宮内次官 一人 勅任

大臣ヲ輔ケ省務ヲ整理ス大臣事故アルトキハ之ヲ代理スルコトヲ得

書記官 六人 奏任

秘書官 一人 奏任

屬 判任

内事課

課長 一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

省内庶務ヲ掌ル

課次長 一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

外事課

課長 一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

帝室外交ノ事ヲ掌ル

課次長 一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

侍從職

侍從長 一人 勅任

明治十九年二月 達 宮内省第一號

常侍奉仕シ及侍從内暨ヲ監督スルコトヲ掌ル	奏任
侍從	奏任
常侍奉仕ス	奏任
侍從試補	奏任
内暨	奏任
屬	判任
式部職	
長官	一人 勅任
帝室ノ祭典儀式雅樂ノ事ヲ總掌ス	
次官	一人 勅任
式部官	奏任
禮式ヲ掌ル	
屬	判任
掌典長	一人 勅任
掌典	奏任
祭典ヲ掌ル	
掌典補	判任
雅樂長	一人 式部官掌典ノ内ヨリ之ヲ兼ヌ
式部長官ニ屬シ雅樂師長以下ヲ監督ス	
雅樂師長	一人 奏任

雅樂師副長	一人 奏任
雅樂師	判任
雅樂手	判任
雅樂生	等外
皇太后宮職	
大夫	一人 勅任
亮	一人 奏任
屬	判任
皇后宮職	
大夫	一人 勅任
亮	一人 奏任
屬	判任
大膳職	
大夫	一人 勅任
御膳及宴饗賜饌ノ事ヲ掌ル	
亮	一人 奏任
屬	判任
内藏寮	
頭	一人 勅任
帝室財務ノ事ヲ掌ル	

權頭	奏任	頭アレハ之ヲ置カス
助	一人 奏任	
權助	奏任	助アレハ之ヲ置カス
屬	判任	
主殿寮		
頭	一人 勅任	
權頭	奏任	宮殿洒掃鋪設器具及宮門管鑰防火警戒ノ事ヲ掌ル
助	一人 奏任	
權助	奏任	
屬	判任	助權助ノ内一人京都出張所長ニ充ツ
舍人	判任	省中判任官ノ内ヨリ之ヲ兼ヌ
式場ノ使役ニ服ス		
内舍人	判任	
宮中ノ使役ニ服ス		
仕人	等外	
門監	判任	
宮門ノ開閉ヲ監ス		
門監補	判任	

門部	等外	
門監ノ指揮ヲ受ケ宮門ノ出入ヲ檢察ス		
消防監	判任	
宮中防火ノ事ヲ掌ル		
消防監補	判任	
消防嚮導	等外	
消防手	等外	
圖書寮		
頭	一人 勅任	
帝室ノ記録圖書及寶器美術保存ノ事ヲ掌ル		
權頭	奏任	頭アレハ之ヲ置カス
助	一人 奏任	
權助	奏任	助アレハ之ヲ置カス
屬	判任	
内匠寮		
頭	一人 勅任	
帝室ノ土木工匠及庭園ノ事ヲ掌ル		
權頭	奏任	頭アレハ之ヲ置カス
助	一人 奏任	
權助	奏任	助アレハ之ヲ置カス

馬	權助	助	權頭	諸陵ノ事ヲ掌ル	頭	諸陵寮	馬醫	馭者	屬	權助	助	權頭	馬匹ノ調習飼養車駕乘具ノ事ヲ掌ル	頭	主馬寮	匠手補	匠手	匠師	屬
奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任
助アレハ之ヲ置カス													助アレハ之ヲ置カス						

守長	守部	御料局	長官	帝室財産ノ事ヲ掌ル	主事	主事補	屬	侍醫局	長官	侍醫	侍醫局ノ事務ヲ總掌ス	診候及宮中衛生ノ事ヲ掌ル	醫員	藥劑師	屬	調度局	局長	御服調度及宮中需用物品ノ事ヲ掌ル	次長
等外	等外		一人 勅任	一人 奏任	一人 奏任	二人 奏任	判任	一人 勅任	一人 勅任	勅任又ハ奏任			判任	判任	判任	一人 奏任	一人 奏任	一人 奏任	一人 奏任

華族局	判任
長官	一人 勅任
主事	一人 奏任
主事補	二人 奏任
屬	判任
皇族職員	
親王家別當	一人 勅任
親王ノ家事ヲ掌ル	一人 奏任
家令	判任
家扶	判任
家從	判任
○第貳號	
華族女學校職員及官等俸給ヲ改定スルコト左ノ如シ	
明治十九年二月十日	
奉 勅	
第一條 華族女學校ニ左ノ職員ヲ置ク	
學 長	
學 監	
宮内大臣伯爵伊藤博文	

幹 事	長 勅任 三千圓	二千五百圓
教 授	學監奏任 同 一千八百圓	一千五百圓
助 教	幹事奏任 同 七百圓	六百圓
書 記	教授奏任 同 一千八百圓	一千五百圓
	助教判任 同 四百圓	三百五十圓
	書記判任 月俸 二十四圓	十五圓 十二圓

第二條 長一人勅任トス宮内大臣ノ命ヲ受ケ學校ノ事ヲ總理ス
 第三條 學監一人奏任トス長ノ命ヲ受ケ教授及校中ノ事務ヲ監督ス
 第四條 幹事二人奏任トス長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ幹理ス
 第五條 教授ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル
 第六條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ助ク
 第七條 書記ハ判任トス長及幹事ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス
 第八條 女學校職員等級及俸給ハ左ノ表ニ依ル

内務省

明治十九年二月 達 大藏省第十一號

明治十九年二月二十日

內務大臣伯爵山縣有朋

五十二

大藏省

府 縣 沖繩縣

○第拾壹號
客年十一月當省第七拾四號達別冊報告表維形第貳拾三號貳拾四號貳拾八號貳拾九號三拾壹號三拾四號別冊ノ通改正候ニ付明治十八年度ヨリ右ニ照準調製翌年度四月十五日限リ主稅局へ差出スヘシ
右相違ス

明治十九年二月十二日

大藏大臣伯爵松方正義

(別冊)

何縣府明治何年度煙草印紙受拂計算表

區別	受				册				差引
	越	高	受取高	共納入總額	交	換	計	發	
計									
五									
四									
三									
貳									
計									
拾									
八									
計									

區別	受				册				差引
	越	高	受取高	共納入總額	交	換	計	發	
計									
拾									
九									
六									
計									
貳									
八									
計									
三									
壹									
計									
拾									
貳									
計									
四									
貳									
計									
拾									
五									
計									
貳									
計									
三									
計									
五									
計									
貳									
計									
三									
計									

明治十九年二月 達 大藏省第十一號

五十三

明治十九年二月 遠 大藏省第十一號

五十四

區別	用 匁	用 匁 拾 八			用 匁	區別	越 高	受 取 高	受 換 計	費 下 匁 高 延	納 損 傷 交 換 毀 損 其 外 交 換 計	差 引
		三 匁 貳 匁	四 匁 八 匁	六 匁 四 匁								
計	計	計	計	計	計							
九 匁												
八 匁												
六 匁												
四 匁												
三 匁												
貳 匁												
計	計	計	計	計	計							
八 匁												
六 匁												
四 匁												

合 計	形											合 計
	八 錢	六 錢 四 匁	六 錢	四 錢 八 匁	四 錢	三 錢 貳 匁	三 錢	貳 錢 四 匁	貳 錢	壹 錢 八 匁	壹 錢 六 匁	

明治十九年二月 遠 大藏省第十一號

五十五

右之通候也

年 月 日

主稅官長宛

何縣府收稅長名印

何縣府明治何年度烟草舊印紙受拂計算表

差引發高	拂						受				區別	
	計	交換	毀損其外	損傷交換	延納	費下高	計	交換	其他返納	受取高		越
												壹
												貳
												參
												肆
												伍
												陸
												柒
												捌
												玖
												拾
												計

右之通候也

年月日

主稅官長宛

何縣府收稅長名印

差引發高	拂						受				區別	
	計	交換	毀損其外	損傷交換	延納	費下高	計	交換	其他返納	受取高		越
												三
												錢一五
												錢一拾
												錢一五拾
												錢一壹
												圓一五
												圓一拾
												圓一拾五
												圓一貳拾
												圓一貳拾四
												計

右之通候也

明治十九年三月 達 大藏省第十一號

五十九

何縣府明治何年度訴訟用印紙受拂計算表

年月日

主税官長宛

何縣府收稅長名印

何縣府明治何年度賣藥印紙受拂計算表

區別	越		受取高	交				拂				計
	長	角		計	交	損傷	延納	資下	毀損	其他		
壹												
貳												
參												
肆												
伍												
陸												
柒												
捌												
玖												
計												

計

差引發高

右之通候也

年月日

主税官長宛

何縣府收稅長名印

備考

- 一 越高欄内ニハ前年度ノ計算表差引發高ヲ記入スヘシ
- 一 受取高欄内ニハ其年度中主税局ヨリ受取タルモノヲ記入スヘシ
- 一 賣捌入廢業其他返納ノ欄内ニハ印紙賣捌規程取扱手續第十九項ニ款及日十七年十月當省第七拾三號達ニ據リ買上ケタルモノヲ記入スヘシ
- 一 受之部交換欄内ニハ賣捌入所持ノ分不捌ニ付同種類ノモノト交換返納シタルモノヲ記入シ拂ノ部欄内ニハ同下渡シタルモノヲ記入スヘシ
- 一 賣下ケ高欄内ニハ其年度中賣捌入ニ拂下ケタルモノヲ記入スヘシ
- 一 但印紙賣捌規程取扱手續第十九項ニ款ニ據リ返納ノ分ハ除去スヘシ
- 一 延納欄内ニハ印紙賣捌規程取扱手續第十二項ニ據リ其期限年度ニ涉ルモノヲ記入スヘシ
- 一 損傷交換欄内ニハ印紙賣捌規程取扱手續第十二項ニ據リ交換返納シタルモノヲ記入スヘシ
- 一 毀損其外ノ欄内ニハ印紙賣捌規程取扱手續第十三項及郡區役所等燒失ニ罹リ損失拂出届ケタルモノヲ記入スヘシ

○第拾貳號

收稅課職員左ノ書式ニ倣ヒ本年三月以降毎月末日ノ總現員取調翌月十日限り該地差立主税局へ報告スヘシ

但明治十八年三月當省第拾三號達ハ自今廢止ス

明治十九年二月十七日

大蔵大臣伯耆松方正義

一燒却濟ノ上ハ種類枚數年月日ヲ記載シ長官名印ヲ以テ申報スヘシ

○第拾四號

府 縣 沖繩縣

府縣徵稅費ノ出納ニ要スル補助簿様式別冊ノ通り相定候條十九年度ヨリ施行スヘシ

但別冊ハ主稅局ヨリ送付ス (別冊略ス)

明治十九年二月十七日

大藏大臣伯耆松方正義

○第拾五號

府 縣 沖繩縣

明治十八年十一月當省第七十四號達租稅表及報告表調理順序附屬諸表様式及進達期限一覽表中別冊ノ通更正又ハ増加ス

但別冊ハ主稅局ヨリ送付スヘシ (別冊略ス)

明治十九年二月二十三日

大藏大臣伯耆松方正義

陸軍省

○甲第貳號

府 縣 沖繩縣

近衛下士滿期又ハ家事故障ニ依リ豫備役及ヒ後備軍驅員ニ入籍ノ者ハ自今近衛驅員ニ相定候就テハ從前近衛下士ニシテ既ニ本籍地方所管鎮臺ノ豫備役及ヒ後備軍驅員ニ編入シ今猶在役ノ者ハ此際更ニ近衛豫備役及ヒ後備軍驅員ニ編入替爲致在郷中ハ本籍地方所管鎮臺ノ管理ニ屬シ候條爲心得此旨相達候事

明治十九年二月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○甲第三號

府 縣

昨十八年十一月達甲第四拾四號ヲ以テ陸軍獸醫部講習生召募ノ儀相達置候處詮議ノ次第有之右召

募本年ノ儀ハ差止メ候條此旨相達候事

明治十九年二月二十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○達乙第拾壹號

軍用乘馬資格別紙ノ通相定候條此旨相達候事

明治十九年二月十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別紙)

軍用乘馬資格

要領

軍用乘馬ニ供スヘキ馬匹ハ左ノ六項ニ適合スルモノヲ撰定スルモノトス

第一 軀幹

頭ハ頂部廣ク先キ細ク兩耳凛立眼目清澄口ハ適度ニ開裂シ唇ハ密閉シ厚薄宜ニ適ヒ頤ハ大ニ開キ鼻孔潤大嚙受ハ形正ク腮ハ腮鎖感シ易ク頭毛ハ柔軟ニシテ頭付ハ斜向ナルヲ要ス頸ハ上縁薄ク下縁厚クシテ稍、弓状ヲ爲シ其上端ハ細クシテ頭ト能ク接合シテ凹陷ヲ顯スヘシ下端ハ太クシテ身幹ト好ク接著スヘシ鬚甲ハ高ク長ク前方ヨリ漸ク後方ニ低下スヘシ背部ハ水平ニシテ長短廣狹宜ヲ得テ鬚甲ト接スルヲ要ス腰部ハ廣ク短ク臀トノ接合親密ナルヘシ尾根ハ高クシテ力アリ其毛質柔軟且行歩ニ於テハ臀角ヨリ離ル、ヲ要ス胸前ハ狭小ナラス胸骨突出シ肋ハ圓形ニシテ其幅廣大腋ハ隆起シ腹ハ大小宜ヲ得脇肋ト相合シテ半圓形ナルヲ要ス生殖器ハ容積垂下共ニ其度ニ適シ就中莖ハ常ニ筒口ニ微現シ放尿ノトキ共一部筒外ニ出ルヲ良トス肛門ハ常ニ能ク緊縮シアルヲ要ス

第二 四肢

肩ノ長短傾斜ハ中庸ニシテ臂ハ短キニ失セス肘ハ體幹ニ密接セサルヲ要ス膝ハ長厚廣大正直ナル

ヘシ管狀部ハ短クシテ垂直ナルヘシ腿ハ直ニシテ管狀部ト離隔シ球狀部ハ幅廣クシテ厚ク繫繩部ハ傾斜其度ニ適シ蹄ハ下部大其實堅強ニシテ滑澤アルヲ要ス臀ハ長廣ニシテ腿ハ長ク斜ニ鳥頭ハ廣厚ニシテ角度宜ニ適スルヲ要ス總テ乘馬ハ最モ錘直ノ正シキ馬ヲ撰フヘシ

第三 年齡

年齡ハ五歲ニ至レハ軍用ト爲フ得ヘシ然レトモ四歲ヨリ採用スルコアリト雖トモ四歲ハ最下限ヲ示スモノニシテ五歲以下ニテハ發育充分ナラサルヲ以テ軍用ニ堪ヘ難シ而シテ除役ノ年齡ハ一定シ難シト雖トモ十三歲乃至十四歲トス

第四 身幹

身幹ノ高サハ四尺七寸ヨリ五尺ニ至ル馬匹ヲ選用ス

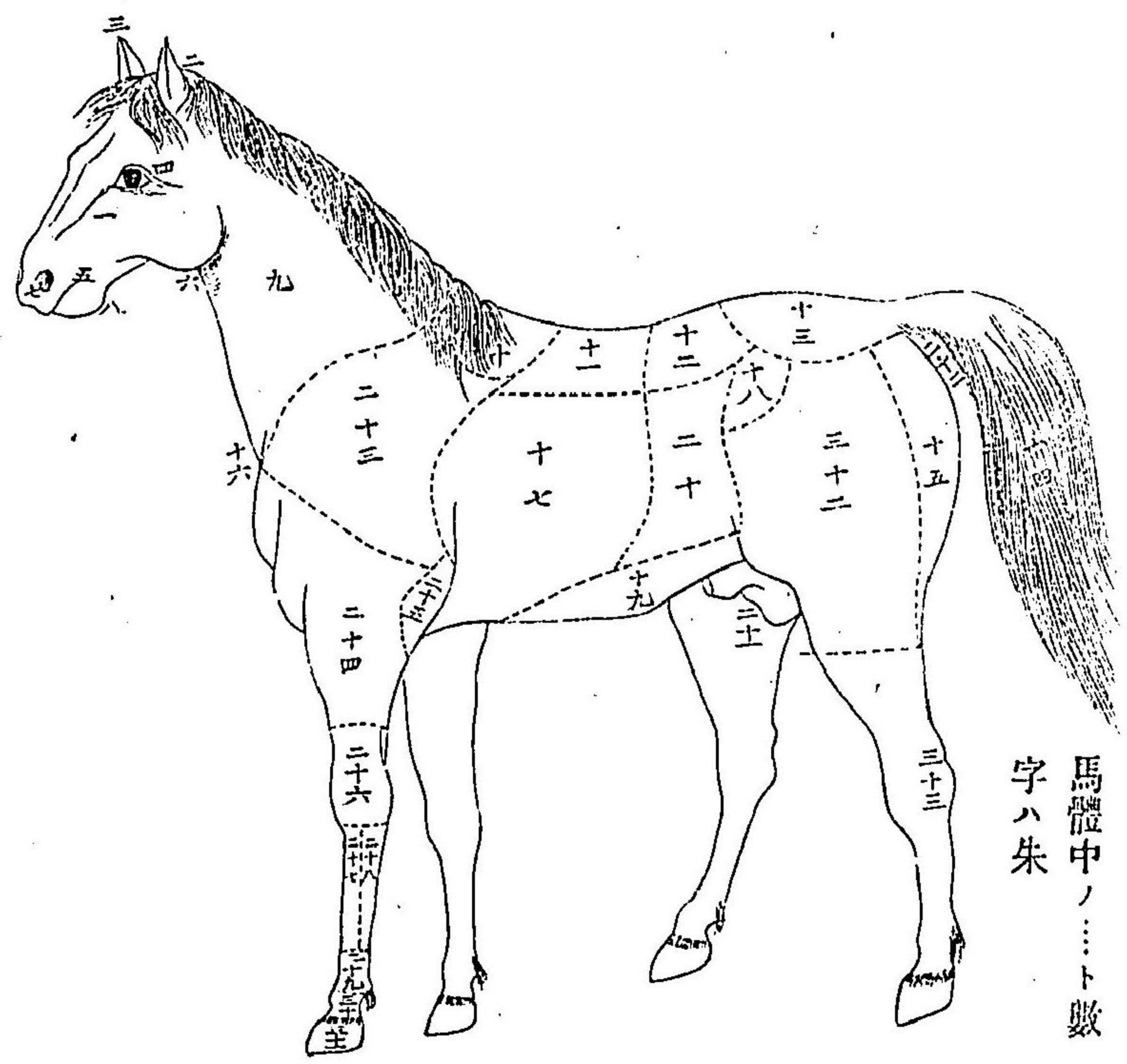
第五 性質

性質ハ從順活潑ニシテ馬具ノ裝置、荷擔、裝鍊等ニ馴從シ音響物体等ニ驚クコナク又蹴嚙或ハ狂躁ナラサルヲ要ス

第六 肥瘠

肥瘠ノ度ハ中庸ナルヲ要ス肥ニ過クレハ身体倦懶馳驅奔走スルヲ嫌ヒ呼吸困難消化不良ナリ此等ノ馬ハ疾病ニ罹ルコ多シ又瘠ニ過レハ滋養不洽或ハ疾病アルノ徵ナリ然ラサレハ神經性ニシテ使役ニ堪ヘ難シ

稱名	之	貌	外	四	馬
一	頭	十八	頭	二	頭
二	項部	十九	項部	三	項部
三	耳	二十	耳	四	耳
四	眼	二十一	眼	五	眼
五	口	二十二	口	六	口
六	鼻	二十三	鼻	七	鼻
七	頤	二十四	頤	八	頤
八	腮	二十五	腮	九	腮
九	頸	二十六	頸	十	頸
十	管狀部	二十七	管狀部	十一	管狀部
十一	背	二十八	背	十二	背
十二	腰	二十九	腰	十三	腰
十三	球狀部	三十	球狀部	十四	球狀部
十四	臀	三十一	臀	十五	臀
十五	尾	三十二	尾	十六	尾
十六	髻角	三十三	髻角	十七	髻角
十七	助	三十三	助	十八	助



馬體中ノ...ト數字ハ朱

○達乙第拾貳號

陸軍 一般

今般千葉縣下東葛飾郡國府臺へ教導團砲兵大隊爲致移轉候條爲心得此旨相達候事

明治十九年二月十二日

陸軍大臣 伯耆大山 巖

○達乙第拾三號

罪犯取扱手續並書式中別紙之通加除改正候條此旨相達候事

明治十九年二月十八日

陸軍大臣 伯耆大山 巖

(別紙)

罪犯取扱手續

第二條第一項第二項「審問」ノ二字ヲ「審判」ニ改メ第三項左ノ通改正ス

審判ノ命令アリタル時ハ理事^主ハ錄事ヲシテ其事件及ヒ所管隊號氏名等ヲ帖簿ニ登記セシメ審

問若クハ判決ニ付スルノ手續ヲ爲ス可シ

第三條以下各條中「審事」ノ二字ヲ「理事」ニ改ム

第八條第一項「理事」ヲ經由シ「六」字ヲ削リ更ニ左ノ一項ヲ增加ス

常人ニ係ル被告人ニ收禁ヲ命_レ若クハ之ヲ解タル時ハ現住所ノ區戸長ニモ之ヲ通報ス可_レ

第九條ノ末ニ左ノ一項ヲ增加ス

證人鑑定人通事呼出ニ應セスシテ罰金ヲ科セラレタル者正當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサ

リシコトヲ證明シタル時ハ理事罰金ノ宣告ヲ解ク可シ

第十條明瞭ナルモノ_ノ下若クハ理事ニ於テ問フコトヲ要セスト認ムルモノ_ノ二十二字ヲ加フ

第十一條改正

理事被告事件裁判管轄ニ非ス若クハ不問ニ付ス可キノ具申ヲ爲シ司令官ノ認可アリタル時ハ言

渡書ヲ作り錄事ト共ニ法廷ニ臨ミ之ヲ被告人ニ讀示シ管轄違ニ係ルモノハ其事件ヲ管轄軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ係ルモノハ上告期限盡ク

ルノ後其事件ヲ管轄裁判所ノ檢察官ニ送致ス可シ

普通裁判所ノ公判ニ付ス可キ共犯ノ審問終リタル時ハ其事件ヲ管轄裁判所ノ檢察官ニ送致シ之

ヲ司令官ニ具申ス可シ

被告人ノ護送ヲ要スル時ハ第六條ニ從フ可シ

若シ送致ス可キ地遠隔ナル時ハ地方警察署ニ遞傳護送ヲ囑托ス可シ

第十二條第二項「報告書」ノ二字ヲ削リ更ニ左ノ一項ヲ增加ス

理事法廷ニ於テ被告人證人ノ訊問ヲ要スル時ハ判士長ニ訊問ヲ求メ若クハ判士長ノ許諾ヲ得テ

自カラ之ヲ訊問スルコトヲ得

第十五條末項「軍法會議ニ移シテ之」ノ九字ヲ「司令官ニ移シテ傳達」ノ九字ニ改ム

第十九條第五項「其他」ノ下ニ「陸軍檢察官普通裁判所」ノ十字第六條ノ下ニ「第十一條末項」ノ六字ヲ

加ヘ第四項第五項ノ間ニ左ノ一項ヲ增加ス

管轄違ノ宣告アリタル時ハ其事件ヲ管轄軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ軍法會議ト普

通裁判所トノ管轄違ノ宣告アリタル時ハ上告期限盡クルノ後其事件ヲ管轄裁判所ノ檢察官ニ送

致ス可シ

第二十條改正

主刑ヲ免シテ止メ監視ニ付シタル時ハ理事其宣告書ノ原本ヲ添ヘ犯人ヲ地方警察署ニ交付ス可

シ

第二十一條第一項ノ末「闕席裁判及ヒ常人ニ係ル時ハ被告人本籍ノ區戸長ニモ亦之ヲ通報ス可シ」

ノ三十一字ヲ加フ

第三十二條改正

理事録事ノ職務ハ理事ハ被告人證人ヲ訊問シ證據ヲ拾收シ意見書ヲ作り録事ハ口供其他犯罪ニ關スル一切ノ書類ヲ作り及ヒ之ヲ保存シ軍法會議ノ庶務ニ服ス可シ

第三十四條ノ一條左ノ通增加ス

軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ノ言渡ニ對シ上告スル者アル時ハ理事辨明書ヲ作り訴訟文書

ニ添ヘ司令官ヲ經由シテ之ヲ大審院ニ送致ス可シ

書式

第六號審問ノ二字ヲ審判ニ改ム

第七號以下各號中審事ノ二字ヲ理事ニ改ム

第十六號削除

第十七號改正

理事意見書

兵種隊號(所管)

職官位勳氏名

右被告ハ何々犯罪何々懲ニ依リ明瞭ナリ又何々陳述スト雖モ據ニ依レハ何々ノ所爲アリタルコト明瞭ナリトス之ヲ法律ニ照スニ何々ニ揭クル所ノ罪ヲ犯シタル者因テ同條ニ依リ何刑ニ處シ(剝官若クハ罰金ヲ附加シ)(沒收品何々法律ニ於テ禁制シタル物件ナルヲ以テ之ヲ沒收シ)(贓物犯人ハルハ)何々ハ盜品ニシテ犯人ノ手ニ在ルヲ以テ沒收シテ被害者ニ還付シ(損害物ハ)何々ノ損害ハ金若干ヲ賠償セシメ)沒收沒收ノ事項ハ別項可然候也

年月日

第十八號改正

理事具申書

兵種隊號(所管)

職官位勳氏名

右之折被告事件ヲ審按スルニ何々ノ所爲ハ何々ニ依リ罪トナラス(何年月ヲ經ルヲ以テ公訴期滿免除ニ屬ス)(確定裁判ヲ經)(法律ニ於テ其罪ヲ全免スヘキ者)依テ免訴被告人收禁留且放免(何所ニ於テ犯シタル者ナルヲ以テ當軍法會議ノ管轄ニ非ス依テ某軍法會議若クハ某普通裁判所ヘ移シ)可然此段具申候也

年月日

理事氏名印

某鎮臺(營所)司令官氏名殿

第十九號削除

第二十號審事ノ二字ヲ削ル

第二十三號改正

免訴及ヒ管轄違言渡書

兵種隊號(所管)

職官位勳氏名

右之者何々ノ件罪トナラス(法律ニ於テ其罪ヲ全免ス)(期滿免除ヲ經)因テ免訴收禁留且放免スル(何々ニ因リ當軍法會議ノ管轄ニ非サルヲ以テ某軍法會議若クハ某裁判所ニ移ス)者也

某鎮臺(營所)軍法會議

年月日

第二十五號(宣旨其方)ノ一欄ヲ削リ又何々陳述ノ下(閣席裁判ニ閣席シテ事實ヲ陳述セスト雖也)

ノ一欄ヲ加ヘ理事氏名印ノ一行ヲ削リ判士氏名印ノ一行ヲ增加シ又錄事ノ右ニ(宣旨ノ時)理事氏名印ノ一行ヲ加フ

第三十三號「理事」ヲ「少尉」ニ改メ判士ノ肩斜メニ〇「理事」ヲ加フ

〇達乙第拾四號

(本文ハ甲第三號ニ同シ但シ達甲第四十四號ヲ達乙第百四十五號ニ作ル)

明治十九年二月二十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

〇達乙第拾五號

今般東京陸軍病院ヲ東京鎮臺ヘ屬シ東京鎮臺病院ト換稱シ近衛東京鎮臺諸隊及東京陸軍部内患者ノ治療ヲ管掌セシメ候條此旨相達候事

明治十九年二月二十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

〇達乙第拾六號

軍醫本部所轄東京陸軍病院今般東京鎮臺ヘ屬シ東京鎮臺病院ト換稱候ニ付テハ病院長以下職名ノ儀モ換稱爲致候條爲心得此旨相達候事

明治十九年二月二十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

海軍省

〇乙第貳號

下士卒ノ結婚ノ儀ハ自今届出ルニ及ハス

府 縣

明治十九年二月五日

海軍大臣伯爵西郷從道

〇乙第拾號

明治十八年七月乙第拾壹號達海軍艦内教授役警吏筆記採用規則中左ノ通改正刪除ス

明治十九年二月十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

第二條 海軍艦内教授役海軍警吏海軍筆記ハ鎮守府ニ徵募ス但徵募ヲ要スルトハ鎮守府豫メ之ヲ廣告ス

第三條 但書ヲ廢ス

第八條 學科試験ノ科目ハ左ノ如シ

艦内教授役

講義 漢文 歷史 類

作文 漢文

數學 算術

書法 楷行

警吏

讀書 漢文 歷史 類

作文 漢文

算術 算除

法律 講義 刑法

筆記

讀書 漢文 歷史 類

作文 漢文

算術 算除

書法 楷行

第九條 身體検査ハ鎮守府或ハ東京ニ於テ海軍尉官一名會同シ海軍醫官之ヲ行フ

第十條 學科試験ハ鎮守府或ハ東京ニ於テ海軍尉官一名會同シ之ヲ行フ

第十一條 海軍部内ノ志願者ハ第一號ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所轄長ヲ經テ之ヲ鎮守府ニ出ス可シ

第十二條 華士族平民ノ志願者ハ第二號ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所轄府縣廳ヲ經テ之ヲ鎮守府ニ出ス可シ

第一號書式中主計本部長ノ五字ヲ刪除ス

第二號書式中海軍主計本部長ノ七字ヲ刪除ス

〇乙第拾四號

丙第拾三號

府 縣

明治十九年二月 達 海軍省乙第百三十二號 乙第百四號

七十二

明治十五年九月乙第九號及丙第六拾七號達海軍兵學校條例ヲ廢止ス

明治十九年二月十七日

海軍大臣伯喬西郷從道

○乙第五號

海府 海軍一 般 縣

海軍准卒中將官從僕司令官從僕艦長從僕裁縫夫剃夫ヲ廢ス

明治十九年二月十九日

海軍大臣伯喬西郷從道

○乙第六號

海府 海軍一 般 縣

艦船營備夫規則左ノ通定ム

明治十九年二月十九日

海軍大臣伯喬西郷從道

海軍艦船營備夫規則

第一條 艦船營備夫ハ艦船營ニ於テ檢査ノ上備入スルモノトス

第二條 艦船營備夫ハ左ノ職務ニ使役ス

從僕 裁縫夫 剃夫

第三條 備夫ハ年齡十九歲(從僕ハ十五歲)ヨリ三十五歲迄ノ者トス

第四條 艦船營ニ於テ備夫ヲ要スルトキハ廣告其他ノ方法ヲ以テ徵募ス

第五條 備夫二箇年以内ハ自己ノ都合ヲ以テ解備ヲ請フコトヲ許サス又戰時事變及航海中ハ二箇年以外ト雖モ之ヲ許サ、ルコトアル可シ

第六條 志願人ハ父兄其他親族或ハ後見人ヲ以テ身元引受人ト爲ス可シ但願出ノ地ニ親族後見人ナキトキハ其地ニ本籍アリ身元正確ナル者ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第七條 身元引受人ハ第壹號書式ノ願書ニ本人ノ履歷書ヲ添ヘ各艦船營ニ出ス可シ

第八條 左ニ掲クル者ハ備夫ニ採用セズ

一 陸海軍諸兵ノ豫備後備兵役ニ在ル者及ヒ先入兵タル者

二 陸海軍兵ノ補充員タル者

三 刑事被告人トナリ裁判未決ノ者

四 公權停止中ノ者

五 重罪ノ刑ニ處セラレタル者

第九條 備夫ニ採用セラレタルトキハ身元引受人ヨリ第貳號書式ノ戶籍明細書ヲ出ス可シ

第十條 備中食料被服ハ總テ官給トス

第十一條 備中ハ相當ノ日給ヲ支給ス

第十二條 傷痍疾病ヲ受ケタル者備中ハ官費ヲ以テ治療セシム

第十三條 艦船營ノ都合ニ依リ身元引受人ナキ地ニ於テ解備スルトキハ相當ノ旅費ヲ給ス

第十四條 備中公務ノ爲メ死傷スルトキハ左ノ區別ニ依リ給助金ヲ支給ス

一 重傷死ニ至ル者ノ寡婦又ハ相續ノ孤兒ニハ一時賜金五拾圓ヲ給ス但寡婦アレハ孤兒ニ給セ

二 寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受クル者ナク祖父父母又ハ二十歲未滿ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依

リ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時賜金四拾圓ヲ給ス

三 重傷死ニ至ラサルモ終身自用ヲ辦シ能ハサル者ニハ一時賜金四拾圓ヲ給ス

四 自用ヲ辦シ得ルモ終身事業ヲ營ムコト能ハサル者ニハ一時賜金三拾圓ヲ給ス

五 事業ヲ營ムコトヲ得ルモ職務ニ堪ヘサル者ニハ一時賜金貳拾圓ヲ給ス

第十五條 備中死没シタル者ハ卒ニ準シ官費ヲ以テ埋葬ス若シ親族故舊ヨリ遺骸下渡ヲ願出ルト

キハ埋葬料トシテ金拾圓ヲ下附ス
第十六條 艦船營ニ於テ傭夫ヲ傭入又ハ傭止ヲ爲シタルトキハ所管長官ニ届出所管長官ハ之ヲ海軍省軍務局及會計局ニ通報ス可シ
第一號書式 用紙 濃紙 美

何艦(船營)傭夫願

何縣何國何町何番地 寄留者ハ寄留地モ
華士族平民

何某男或ハ弟又ハ何々

某

年何月何日於
何國何郡何町何村何生

年何月何日何年何月何日

右ノ者御艦(船營)何從僕或ハ何々志願ニ付御検査ノ上御採用被下度然ル上ハ本人身元一切引受可申此段奉願候也

何縣何國何町何番地
華士族平民

右何某父或ハ兄又ハ何々

某印

年月日

前書之通相違無之候也

右戸長

某印

何艦(船營)長何某殿

第貳號書式

戸籍明細書

本管族籍

氏名 戸籍ニ戸主カニ三男カ
容子カ明記スヘシ

出生ノ年月日

生國地名

本籍住所

寄留住所 全戸カ單身カ
明記スヘシ

家族人名及其誕辰 父母妻兄弟等全戸ノ者總テ之ヲ
記ス但父母ノ實養ヲ詳ニス可シ

父氏 年何月何日生 母同上

其他右ニ準ス

前書之通相違無之候也

年月日

右戸長

某印

○乙第七號

丙第貳拾七號

明治七年八月記三套第四拾四號同十年九月乙第七號及丙第百七號同十一年十月乙第八號及丙第百拾九號
艦内教授役三上長及下士以下移籍改名等戸籍ニ係ル届方ノ達ヲ廢ス

明治十九年二月十九日

○乙第八號

海軍下士卒 除クハ戸籍上異動アルトキハ其都度下士ハ當省軍務局へ卒ハ横須賀鎮守府へ届出ツヘシ

但本年乙第二號達下士卒結婚ノ儀ハ此限ニ在ラス

明治十九年二月十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○乙第九號
丙第三拾五號

明治十五年乙第八號及丙第九號達海軍機關學校條例ヲ廢ス

明治十九年二月二十四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○丙第六號

明治十五年丙第五拾四號達海軍志願生徒身體検査手續書第二條中(海軍軍醫海軍)ヲ(海軍醫監一名軍醫其他)ニ(同會一座ニ於テ)ヲ(共ニ志願人ノ身體ヲ)ニ(スヘシ)ヲ(セシム)ニ改メ(第五條第六條第七條)ヲ削リ(第八條)ヲ(第五條)ニ改ム

明治十九年二月二日

海軍大臣伯爵西郷從道

○丙第七號

停年名簿編纂例左ノ通相定ム

明治十九年二月二日

海軍大臣伯爵西郷從道

停年名簿編纂例

第一條 凡ソ准士官以上實役停年ノ最下期限ヲ終リタル者ヲ停年名簿ニ記列スルニハ各其實役停年ノ多少ニ從ヒ之ヲ次第スルヲ法トス但實役停年及ヒ海上勤務ノ兩最下期限ヲ終リタル者ハ其停年ノ多少ニ拘ハラズ海上勤務最下期限ヲ終ラサル者ノ先ニ記列ス可シ
第二條 實役停年ハ就職辭令ノ日ヲ以テ起算ス可シ但官等昇進シテ尙ホ前職ニ在ル者ハ宣言若クハ辭令ノ日ヲ以テ起算ス可シ

第三條 實役停年ノ計算ハ日數ヲ以テス但明治五年十二月二日ハ一箇月ニ算ス可シ

第四條 實役停年同キ者ハ總テ武官名簿ノ序次ニ從フモノトス

第五條 官名ノ改正ニ依リ更ニ任官シ前官ト同等即チ大醫監ノ軍醫大監トナルノ類ハ仍ホ前官ノ停年ヲ通算ス可シ

第六條 將校ヨリ准將校ニ或ハ准將校ヨリ將校ニ又ハ主計官ヨリ機關官ニ轉スルノ類ハ更ニ其官ヲ以テ就職ノ日ヨリ起算ス可シ

第七條 艦船ノ員外或ハ臨時乘組員又ハ通學ヲ命セラレタル士官并外國出張者待命者等ニ在テハ停年ノ算法新故ノ順序等總テ在職者ニ異ナルヲナシ但海上勤務日數ニ算入スルヲ得ス

第八條 停職又ハ解職ニ依テ非職ニ入リタル將校准將校或ハ品行不正等ノ故ヲ以テ非職ニ入リタル准士官ハ各官ノ末ニ其區域ヲ分テ記載ス可シ

第九條 停年名簿ハ毎年一月一日ヲ以テ改正スル者トス

停年名簿書式

停年	海上勤務	陸上勤務	非職	任官	所管及職務	姓名
何年何箇月何日	何年何箇月何日	何年何箇月何日	何年何箇月何日	何年何月何日	何領守府何々(何能隊何々)(何能何々)(非職)	何府縣華(士)族平民何位何等何人何年何箇月
何年何箇月何日	何年何箇月何日	何年何箇月何日	何年何箇月何日	何年何月何日	何本部何々(何學校何々)(何局何々)(非職)	同
何年何箇月何日	何年何箇月何日	何年何箇月何日	何年何箇月何日	何年何月何日	何々(非職)	上

非職

明治十九年二月 達 海軍省丙第十七號 丙第十八號 丙第十九號 丙第二十號 丙第二十一號 丙第二十二號 八十二

○丙第拾七號

兵庫海軍用所ヲ横須賀鎮守府倉庫兵庫分庫ト改稱ス

海軍一般

明治十九年二月十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

○丙第拾八號

横濱田ノ浦門司浦殿ノ浦鹿兒島巖原七尾函館室蘭小樽根室釜山浦元山津仁川ノ諸港ニ在ル石炭庫

海軍一般

及東京ニ在ル倉庫ハ自今横須賀鎮守府倉庫ノ分庫トシ横須賀鎮守府倉庫某地分庫ト稱ス

海軍大臣伯爵西郷從道

明治十九年二月十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

○丙第拾九號

海軍東京監獄署ヲ廢ス

海軍一般

明治十九年二月十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

○丙第貳拾號 (乙第三號ニ合載)

○丙第貳拾壹號

明治十七年^{十二}丙第百五拾八號達海軍機關部條例海軍主計部條例ヲ廢ス

海軍一般

明治十九年二月十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

○丙第貳拾貳號

海軍兵學校海軍機關學校小野濱海軍造船所ノ主計部ヲ計算課ト改稱ス

海軍一般

明治十九年二月十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

○丙第貳拾三號 (乙第四號ニ合載)

遊津艦ヲ廢艦トシ其船體ヲ兵學校ニ屬シ術業練習ノ用ニ供ス

海軍一般

明治十九年二月十七日

海軍大臣伯爵西郷從道

○丙第貳拾五號 (乙第五號ニ合載)

○丙第貳拾六號 (乙第六號ニ合載)

○丙第貳拾七號 (乙第七號ニ合載)

○丙第貳拾八號

明治十七年^十丙第百三拾八號達旗艦增員表ヲ廢ス

海軍一般

明治十九年二月十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○丙第貳拾九號

司令長官司令官司令次官乘艦中艦ノ構造ニヨリ左ノ人員ヲ定限トシ増員スルコトヲ得

明治十九年二月十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

司令長官司令官ノ乘艦

少軍醫

一人

少尉補

二人

機關士補

一人

主計補

一人

兵曹

一人

筆記

一人

水兵

十八人

主厨

一人

厨夫

一人

明治十九年二月 達 海軍省丙第二十五號 丙第二十六號 丙第二十七號 丙第二十八號 丙第二十九號 八十三

司令長官從僕或司令官從僕

司令次官ノ乘艦

一八

少尉補

一八

兵曹

一八

水兵

十八八

主厨

一八

厨夫

一八

司令次官從僕

海軍 一般

○丙第三拾號

明治十八年二月十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○丙第三拾壹號

明治十八年二月十九日

海軍 一般

○丙第三拾貳號

明治十九年二月十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○丙第三拾貳號

明治十九年二月二十日

海軍大臣伯爵西郷從道

第一條

本則ハ下士卒准卒及ヒ艦船營備夫給與ノ制限ヲ掲クルモノトス其目左ノ如シ

一 俸給

二 家族扶助金

三 雜給

第五條

下士以下ノ日給ハ第一第二第三及第三乙表ノ如シ而シテ其服務ノ區別ニ依リ給額ニ差等

アルコト第四第五第六表ノ如シ之ヲ下士ニ在リテハ在職俸卒以下ニ在リテハ在役俸ト稱ス

第八條

外國航海加俸ハ艦船外國航海中第七第八第九及第九乙表ノ金額ニ基キ第十表ノ經緯度ニ

應シ之ヲ給與ス其給與法左ノ如シ

一 加俸給與ノ分界ハ初メテ内地何レノ港ヲ出帆ノ日ヨリ内地何レノ港ヘ歸着初メテ投錨ノ

日迄之ヲ給與ス

二 在外國ノ甲艦船へ乗組ノ命ヲ奉シ乙艦船へ乗組渡航スル時ハ外國行艦船乗員ニ準シ加俸

ヲ給與ス

但乙艦船ニ於テ一時練替支給スヘシ

三 發向途中風波ニ遭遇或ハ彼ノ地ニ於テ需用品缺乏其他ノ事故ニ依リ内地各港へ寄艦中日

數三週日以上ニ至レハ外國航海加俸ヲ停止ス

第二十一條

下士以下ヲ海軍部外ノ各廳へ貸與スル時ハ其日ヨリ歸到ノ前日迄下士ハ本給貳分ノ

壹率以下ハ本給四分ノ壹ヲ給與ス

但先方ヨリ職役相當ノ給料ヲ受ル者トス

第二十二條

傷痍疾病ニ罹リ入院若クハ陸地治療ノ者ハ其艦船營及ヒ各廳ヲ離レタル日ヨリ歸到

ノ前日迄下士ハ本給貳分ノ壹率以下ハ本給四分ノ壹ヲ給與ス

第 在營下士以下日給表

六 職 課一定	員 員 外 就 業 者 員 外 無 業 者
---------	-----------------------

日 給 本 給 全 額 本 給 四 分 ノ 三 本 給 四 分 ノ 二
備考 海軍兵學校練習所ハ本表ニ準ス

傭夫日給表

第三		第三	
從	金貳拾貳錢	從	金貳拾錢
一	從	一	從
裁	夫	裁	夫
一	裁	一	裁
刑	夫	刑	夫
一	刑	一	刑
裁	夫	裁	夫
二	裁	二	裁
刑	夫	刑	夫
二	刑	二	刑
裁	夫	裁	夫
三	裁	三	裁
刑	夫	刑	夫
三	刑	三	刑
裁	夫	裁	夫
四	裁	四	裁
刑	夫	刑	夫
四	刑	四	刑

傭夫外國航海加俸表

第九		第九	
從	金拾壹錢	從	金拾錢
一	從	一	從
裁	夫	裁	夫
一	裁	一	裁
刑	夫	刑	夫
一	刑	一	刑
裁	夫	裁	夫
二	裁	二	裁
刑	夫	刑	夫
二	刑	二	刑
裁	夫	裁	夫
三	裁	三	裁
刑	夫	刑	夫
三	刑	三	刑
裁	夫	裁	夫
四	裁	四	裁
刑	夫	刑	夫
四	刑	四	刑

○丙第三拾三號 (官報二月二十一日)

艦船營備夫ハ下士卒ニ準シ食料及賜酒料ヲ給ス

明治十九年二月二十日

海軍大臣伯雷西鄉從道

海軍一般

○丙第三拾四號

明治十七年十一月二十日 丙第三百七拾壹號達海軍造船所條例ヲ廢ス

海軍大臣伯雷西鄉從道

海軍一般

明治十九年二月二十二日

○丙第三拾五號 (乙第九號ニ合載)

○丙第三拾六號

明治十六年九月 丙第八拾號達掌砲證狀規則左ノ通改定ス

明治十九年二月二十五日

海軍大臣伯雷西鄉從道

海軍一般

掌砲證狀規則

第一條 本則ハ砲術練習志願ノ兵曹及水兵ニシテ砲術練習艦ノ各教程ヲ卒業シタル者ニ授與ス可キ證狀ノ等種及之ニ屬スル細則ヲ掲グル者ナリ

第二條 證狀ハ一等掌砲二等掌砲ノ二級ニ區別シ官職ノ等級ニ關セス卒業ノ成績ニ據テ之ヲ授與スル者トス

第三條 一等掌砲證狀ヲ有スル者ノ中砲術教授ニ適任ノ者ニハ砲術教授適任證書ヲ授與ス

第四條 掌砲證狀ヲ得タル者ハ其等級ニ從ヒ左ニ記載ノ徽章ヲ右腕ニ付シ且其徽章ヲ附スル限リハ本給ノ外左表ノ金額ヲ支給ス但逃亡中ハ支給セズ

第五條 砲術教授適任證書ヲ有スル者艦船營砲術教授ノ職ヲ奉スル間ハ左表金額ノ外一日金三錢ノ加俸ヲ給ス

第六條 證狀有効ノ期限ハ證狀授與ノ日ヨリ滿五箇年トス不働年數ヲ算入ス故ニ滿五箇年ヲ過ルノ後ハ其證狀無効トシ之ニ屬スル徽章ヲ除キ金額ノ支給ヲ止ム但再練習志願ノ者ハ其期限中再ヒ砲術練習艦ニ乘組演習スルヲ許ス而シテ卒業スルトキハ更ニ證狀ヲ附與ス

第七條 證狀ヲ有スル者禁錮十一日以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其證狀ヲ還納セシメ之ニ屬スル徽章ヲ除キ金額ノ支給ヲ止ム但其證狀及之ニ屬スル徽章ハ軍法會議ニ於テ引上ケ砲術練習艦

ニ返付ス可シ

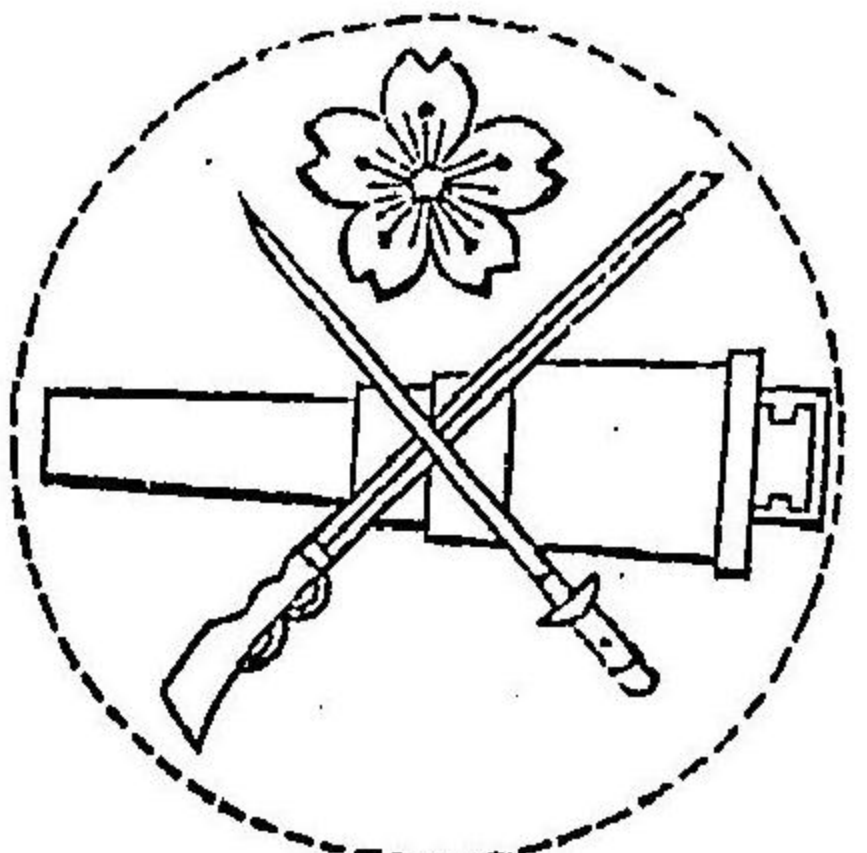
第八條 證狀ヲ有スル者艦船營ノ勤務ヲ免シタルトキハ砲術練習艦員外乗組ト爲ス
 第九條 證狀ヲ有スル者ヲ轉乘セシムルトキハ砲術練習艦ニ通知ス可シ

證狀ヲ有スル者ニ與フル徽章

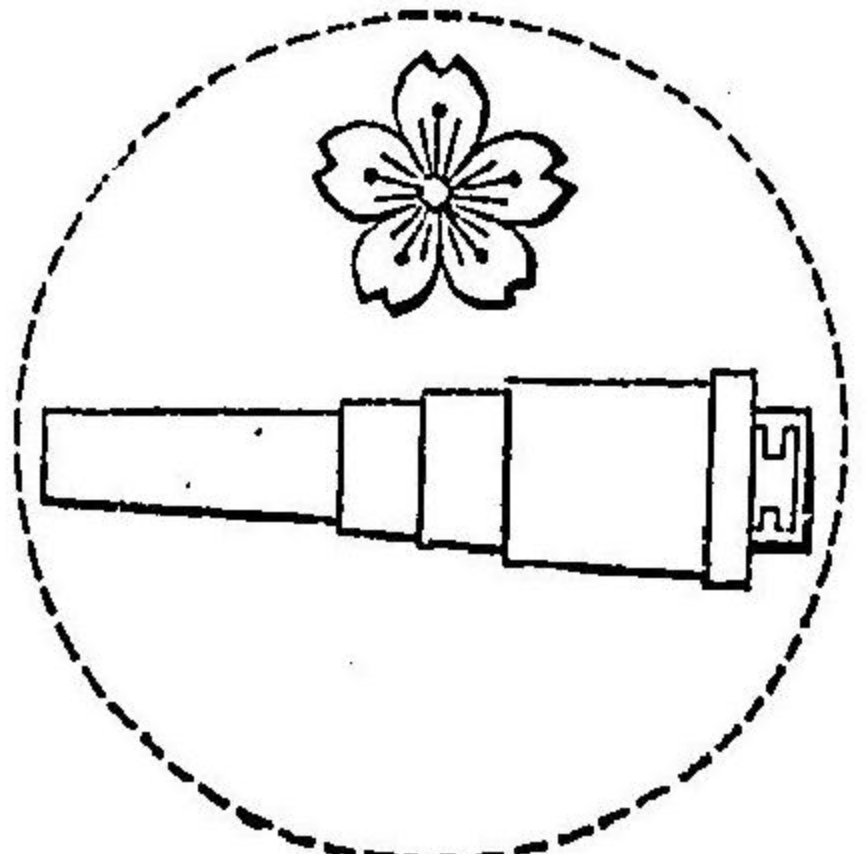
一等掌砲證狀ヲ有シ且砲術教授擔任證書ヲ有スル者

一等掌砲證狀ヲ有スル者

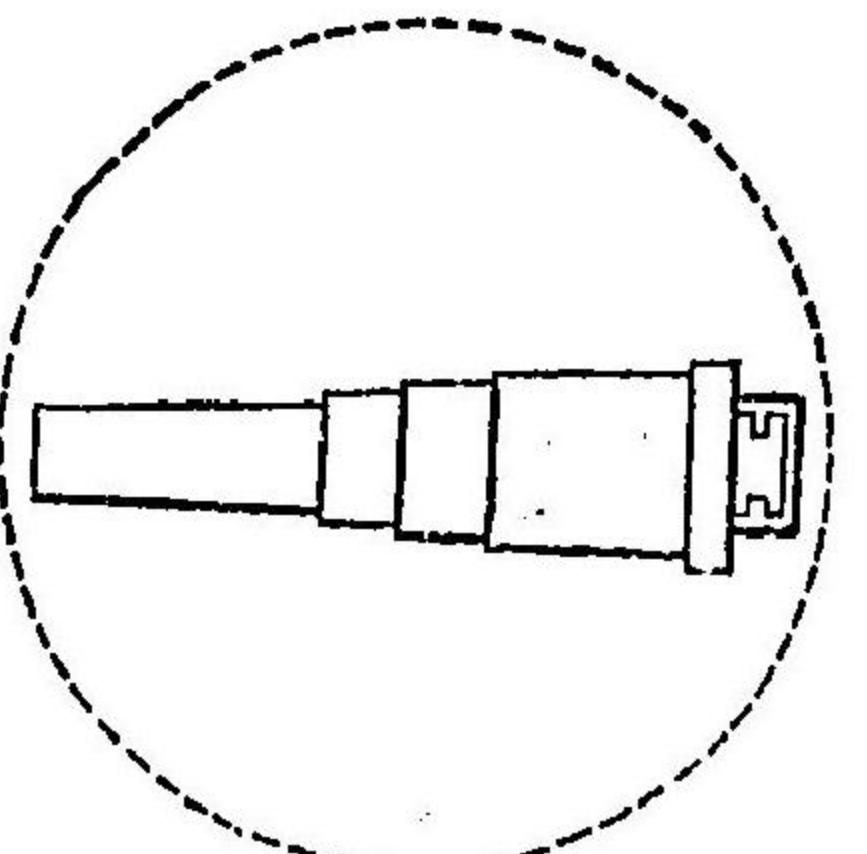
二等掌砲證狀ヲ有スル者



此章ハ冬服ニ紅色夏服ニ紺色



同上



同上

徑一寸三分

證狀ヲ有スル者ニ給スル日給金額表

一等掌砲證狀ヲ有スル者	金四錢
二等掌砲證狀ヲ有スル者	金貳錢

○丙第三拾七號

迅鯨艦ヲ自今水雷術練習艦ト定ム

明治十九年二月二十五日

海軍一般

海軍大臣伯爵西郷從道

○丙第三拾八號

長浦水雷營定員表及水雷術練習艦定員表左ノ通定ム

明治十九年二月二十五日

海軍一般

海軍大臣伯爵西郷從道

長浦水雷營定員表

官名	職名	人員	官名	職名	人員	職名	人員
大佐或中佐	營	一	兵曹	曹	三十四	一等以下水兵 水兵(喇叭雜務)	二百 四十九
少佐	副	一	股長	副吏	二	銀	六
大尉或中尉	分隊長	四	治長	長	一	塗工	四
兵曹上長或兵曹長		十六	砲工長	長	一	兵器工	二
木工上長或木工長		一	桶工長	長	一	桶工	五
機關少監	機關長	一	木工長	屬	二	木工	六
大機關士或中機關士		二	機關工手		八		
少機關士		四	火夫長或火夫長屬		十四	一等以下火夫 四等以上	二十六
或機關工上長		六					

明治十九年二月 達 海軍省丙第三十八號

軍醫少監	軍醫	長	一	看	醫	手	二	看	病	夫	三
大軍醫或中軍醫	主計	長	一	看	醫	手	二	看	病	夫	三
大主計或中主計	主計	長	一	看	醫	手	二	看	病	夫	三
少主計	主計	長	一	看	醫	手	二	看	病	夫	三
合計	四百八十七人										

水雷術練習艦定員表

官名	職名	人員	官名	職名	人員
大佐或中佐	艦長	一	一等水雷長	水雷長	一
少佐	副長	一	二等水雷長	水雷長	一
大尉或中尉	教官兼分隊長	八	三等水雷長	水雷長	一
少尉	航海士	一	四等水雷長	水雷長	一
兵曹上長	掌水雷長	一	水雷工長	水雷工長	一
兵曹長	掌水雷長	一	水雷工手	水雷工手	三
合計	四百八十七人				

木工長	木工長	一	木工長	木工長	一
機關少監	機關長	一	一等以上火夫	火夫	二
大機關士或中機關士	機關士	二	二等以上火夫	火夫	二
少機關士	機關士	二	三等以上火夫	火夫	二
機關工上長	火夫長	一	看病夫	看病夫	二
機關工長	火夫長	二	看病夫	看病夫	二
大軍醫或中軍醫	看護手	一	看病夫	看病夫	二
少軍醫	看護手	一	看病夫	看病夫	二
大主計或中主計	主計	一	看病夫	看病夫	二
少主計	主計	一	看病夫	看病夫	二
主計	主計	一	看病夫	看病夫	二
合計	百六十七人				

備考 水雷術練習員ハ准士官以上二十四名下士以下五十名ヲ定限トス

○丙第三拾九號

海軍一般

水雷術練習艦乗組員係給加俸等ハ當分航海練習艦ニ準シ支給ス

明治十九年二月二十五日

海軍大臣伯耆西郷從道

○丙第四拾號

明治十七年十一月丙第七拾六號達若水兵教育概則第一條第二條第三條第五條左ノ通改正ス
明治十九年二月二十七日 海軍大臣伯爵西郷從道

第一條 新募若水兵ハ屯營或ハ練習艦ニ於テ教育スルモノトス
第二條 新募若水兵入營或ハ乘艦ノトキハ之ヲ若干號ニ分チ各號凡ソ二十名ト假定シ讀書算術ノ能否ヲ區別シテ後之ヲ確定ス可シ而シテ每號兵曹又ハ適任ノ水兵一名ヲ附シ先ツ左ノ事項ヲ教授セシム

第一 軍人ノ姿勢及衣服ノ着裝法
第二 釣床及衣籠ノ取扱法
第三 武官ノ階級及敬禮式ノ要領
第四 屯營練習艦規則ノ要領

第三條 若水兵ノ學期ハ之ヲ四期ニ分チ一期ヲ三箇月トシ十二箇月ヲ以テ全學科卒業ノ期トス而シテ其課程ハ左ノ如シ

學期	學科	講義	演習
第一期	艦船各部ノ名稱 砲術ノ名稱 結索法	四輪砲本初換法 銃隊換式生兵第一部第一章第一部第二章第一第二教	四輪砲本初及實施換法 銃隊換式生兵第一部第二章第三第四第五第六教同生兵第一部第一章
第二期	艦船各部ノ名稱 結索法 砲術ノ名稱 動索通方及諸帆各部ノ名稱 マツト及センニツト編方	四輪砲本初及實施換法 銃隊換式生兵第一部第二章第三第四第五第六教同生兵第一部第一章	四輪砲本初及實施換法 銃隊換式生兵第一部第二章第三第四第五第六教同生兵第一部第一章
第三期	諸帆各部ノ名稱 結索法 砲術ノ名稱 動索通方及諸帆各部ノ名稱 マツト及センニツト編方	四輪砲本初及實施換法 銃隊換式生兵第一部第二章第三第四第五第六教同生兵第一部第一章	四輪砲本初及實施換法 銃隊換式生兵第一部第二章第三第四第五第六教同生兵第一部第一章

第五條 若水兵ノ課程履行中ハ適宜ノ時間ヲ定メ左ノ事項ヲ教授ス

- 第一 軍人ノ本分即チ勅諭ノ大旨
- 第二 善行章條例海軍刑法懲罰令ノ大旨
- 第三 海軍ノ官等及敬禮式
- 第四 屯營及練習艦ノ規則

司法省

大審院 裁判所

○丁第三號

明治十七年五月丁第拾貳號達自今廢止ス
右相達候事

司法大臣伯爵山田顯義

明治十九年二月五日
〔參照〕明治十七年五月司法省丁第拾貳號達
明治十四年十一月丁第貳拾貳號ヲ以テ相達候現員差用紙別紙ノ通改定候於本年五月ヨリ取調可差出此旨相達候事 (別紙 略ス)

文部省

府 縣

○第壹號

文部省明治十四年六月第貳拾壹號第貳拾貳號達ヲ廢ス

明治十九年二月二十三日

文部大臣 森 有禮

(參照)明治十四年^六文部省達第拾壹號

府縣ニ於テ學事ニ就キ諮詢講究等ノ爲メ教育會ヲ開設セントスルモノハ其規則等ヲ具シ可備出且右開會ノ都度議事ノ願未可届出此旨相違候事

但從來開設セルモノモ本文明様可相心得事

明治十四年^六文部省達第拾壹號

區町村ニ於テ學事ニ就キ諮詢講究等ノ爲メ教育會ヲ開設セントスルモノハ其規則等爲何出調査可致此旨相違候事

農商務省

府 縣

○第一號

明治十七年^三兩省第四號達ニ據リ茶業組合規約認可ノ上農商務省へ届出ノ處自今取締所ニ係ルモノ、外ハ届出ニ及ハス

同號達茶業組合準則第三條第二項、次へ左ノ一項ヲ追加シ第三項ヲ第四項トス

追加

第三項 製茶検査法ヲ設ケ其正否ヲ鑒別スルヲ

内務大臣 伯耆山縣有朋

明治十九年二月十五日

農商務大臣 齋谷干城

○第三號

府 縣

鑛山借區稅念納者及滿一箇年以上無故休業ノ者抗業禁止ノ儀並ニ試掘期限經過ノモノ證券引揚ノ儀ハ已來届出ニ不及其應限リ處分シ證券引揚ケ返納ノ節其事由具申スヘシ

明治十九年二月二十四日

農商務大臣 齋谷干城

○第四號

府 縣

明治十六年^七常省第八號達第一項中共三以下左ノ通更正ス

明治十九年二月二十四日

農商務大臣 齋谷干城

- 三 農商工水産山林鑛山ノ利害及改良保護ニ關スル事
- 四 農商工水産山林鑛山ニ關スル統計ノ事

内閣

○第拾四號(官報三月一日)

陸軍服制中下士以下服制別册ノ通改正ス

明治十九年二月二十四日

奉勅

(別册)

省院廳府縣

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

陸軍服制圖例 下士以下着具ノ部

名	第一種			稱	品質	色別	日章	眼鏡	頭紐	縱橫	草	頂上	章	形狀
	步兵	砲兵	工兵											
	歩兵	砲兵	工兵	曹長	革	黑	眞	草	黒金物	品質	式	品質	式	
				曹長		近衛隊、中央朱	眞	表	眞	品質	式	品質	式	
				軍曹		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	
				兵		眞	眞	眞	眞	品質	式	品質	式	

明治十九年三月 達 内閣第十四號

九十七

名		稱	品質色別	鈕	襟章	品質	線幅	式	肩章	製	式	形状
工砲兵監	砲兵監	工砲兵監	絨	大徑五分五厘銅	騎兵科萌黃絨	平織金線	二分線	騎兵科萌黃絨	全襟幅	長	同	同
	砲兵監	工砲兵監	絨	小徑五分五厘銅	砲兵科黃絨	平織金線	二分線	砲兵科黃絨	全襟幅	長	同	同
會計三等書記	會計三等書記	會計三等書記	同	同	同	平織銀線	二分線	同	同	同	同	同
	會計三等書記	會計三等書記	同	同	同	平織銀線	二分線	同	同	同	同	同
二等軍樂手	二等軍樂手	二等軍樂手	同	同	同	深織銀線	二分線	同	同	同	同	同
	二等軍樂手	二等軍樂手	同	同	同	深織銀線	二分線	同	同	同	同	同

砲兵	上等兵	二等卒	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	二等卒	二等卒										
大徑八分銅		大徑八分銅		大徑八分銅	大徑八分銅		大徑八分銅	大徑八分銅		大徑八分銅	大徑八分銅	
同		同		同	同		同	同		同	同	
同		同		同	同		同	同		同	同	
同		同		同	同		同	同		同	同	
同		同		同	同		同	同		同	同	

名			品質色別	卸	襟章	品質線種	式	肩章	製	式	形状	
職	階	名										
幼年生徒	士官生徒	緋	緋	大徑八分 小徑五分五厘 胸部ノ五個 ヲ大トシ肩 章及劍留ノ 三個ヲ小ト	士官生徒 緋絨	一分 緋ニ沿フテ表半 面陰出シニ附ス	緋	士官生徒 緋絨	長 腕骨上端ヨリ下 ノ四寸四分 全襟幅一寸四分 袖長一尺一寸四分 胸圍一尺一寸四分 肩幅一尺一寸四分 至袖口ヨリ尖頭ニ 至ル四寸兩脚ハニ 寸ニ至ル	如圖	同	
		緋										幼年生徒 黃絨
步兵科生徒	砲兵科生徒	工兵科生徒	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
騎兵科生徒	同	同	同	大徑八分 小徑五分五厘 後裂ノ二個 ヲ大トシ肩 章ノ二個ヲ 小トス	同	同	同	同	同	同	同	同

名			品質色別	卸	襟章	品質線種	式	肩章	製	式	形状	
職	階	名										
樂手補	樂生	同	同	大徑八分 小徑五分五厘 胸部及後裂 ノ七個ヲ大 トシ肩章及 劍留ノ三個 ヲ小トス	同	同	同	同	同	同	同	同
		同										
會計卒	二等等看馬卒	二等等看馬卒	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
上等騎馬卒	二等等看馬卒	二等等看馬卒	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二等等騎馬卒	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

名	稱	品	質	色	別	例	章	製	式	衣				
										靴	靴	靴	靴	靴
兵	兵	同	同	同	同	同	同	同	同	火銃	火銃	火銃	火銃	火銃
	工									工	工	工	工	
軍曹	軍曹	同	同	同	同	同	同	同	同	靴	靴	靴	靴	靴
	工									工	工	工	工	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	靴	靴	靴	靴	靴
	工									工	工	工	工	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	靴	靴	靴	靴	靴
	工									工	工	工	工	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	靴	靴	靴	靴	靴
	工									工	工	工	工	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	靴	靴	靴	靴	靴
	工									工	工	工	工	

名	稱	品	質	色	別	例	章	製	式	衣				
										靴	靴	靴	靴	靴
兵	兵	同	同	同	同	同	同	同	同	火銃	火銃	火銃	火銃	火銃
	工									工	工	工	工	
軍曹	軍曹	同	同	同	同	同	同	同	同	靴	靴	靴	靴	靴
	工									工	工	工	工	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	靴	靴	靴	靴	靴
	工									工	工	工	工	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	靴	靴	靴	靴	靴
	工									工	工	工	工	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	靴	靴	靴	靴	靴
	工									工	工	工	工	

名	稱	品	質	色	別	側	章	製	式	形狀
騎兵	軍曹長	絨		藍	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	如圖
屯田兵	軍曹長	絨		藍	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
砲兵	監工長	絨		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
砲兵	諸工長	絨		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
會計書記		同		同	同	幅一	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
看馬長		同		同	同	幅一	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
看馬長		同		同	同	幅一	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
軍樂次長		同		黃	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
軍樂次長		同		黃	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
步兵		同		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
砲兵		同		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
工兵		同		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
輜重兵		同		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
騎兵		同		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同

名	稱	品	質	色	別	側	章	製	式	形狀
屯田兵	兵卒	同		藍	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
士官生徒		同		紺	紺	幅一	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
幼年生徒		同		紺	紺	幅一	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
步兵科生徒		同		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
砲兵科生徒		同		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
工兵科生徒		同		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
騎兵科生徒		同		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
樂手		同		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
會計		同		紺	紺	幅一	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
看馬卒		同		紺	紺	幅一	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
看馬卒		同		紺	紺	幅一	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
騎馬卒		同		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同
建築卒		同		紺	紺	幅五	分絨	長靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	同

袴								名		
踏 鐵 工 生 徒	火 銃 銃 木 鍛 工 生 徒	縫 靴 工	踏 鐵 工	鞍 銃 木 鍛 工	科 騎 兵 團 喇叭 卒	科 工 兵 團 喇叭 卒	校 工 兵 團	監 操 卒	體 操 卒	稱
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	品
同	同	同	同	紺	青	同	紺	紺	同	質
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	色
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	別
幅 五 分	幅 五 分	幅 一 分	幅 五 分	幅 五 分	幅 五 分	幅 五 分	幅 五 分	幅 五 分	幅 五 分	側
同	物入 長 兩股各一個ヲ附ス	物入 長 靴踵ノ上際ニ止ル 草 靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	同	物入 長 靴踵ノ上際ニ止ル 物入 兩股各一個ヲ附ス	長 襟上ニ止ル 器口ヲ裂クテ五寸之三角釦各二 個ヲ附ス 物入 兩股各一個ヲ附シ切隠トス	同	同	同	同	製
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	式
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	形
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	狀

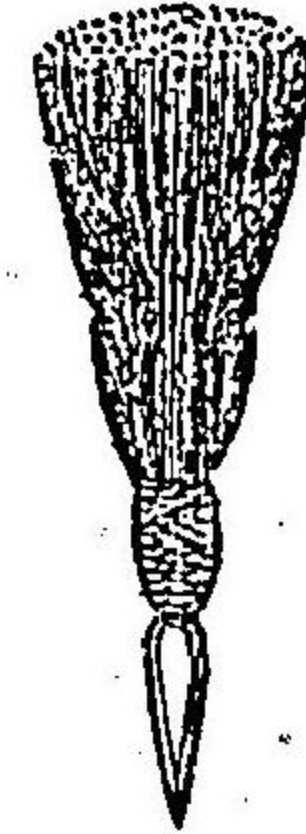
夏							名		
幼 士 年 官 團 生 徒	屯 田 兵 兵 兵 兵 兵 兵	輜 工 兵 兵 兵 兵 兵	工 砲 兵 兵 兵 兵 兵	砲 騎 兵 踏 工 長 同 下 長	工 砲 兵 監 證	屯 田 兵 兵 兵 兵 兵 兵	輜 工 砲 騎 歩 曹 長	曹 長	稱
同	同	同	同	同	同	同	同	同	品
同	同	同	同	同	同	同	同	同	質
同	同	同	同	同	同	同	同	同	色
同	同	同	同	同	同	同	同	同	別
長 腕骨上端ヨリ下ルテ二寸	同	同	同	長 腕骨上端ヨリ下ルテ二寸 襟幅 一寸二分 袖長 腕骨上端ヨリ下ルテ二寸 袖口ヨリ尖頭ニ至ル四寸兩脚ハ二寸之ニ浴テ テ表半面一分幅陰出シノ章ヲ附ス	同	長 腕骨上端ヨリ下ルテ二寸 襟幅 一寸二分 袖長 腕骨上端ヨリ下ルテ二寸 袖口ヨリ尖頭ニ至ル四寸兩脚ハ二寸之ニ浴テ テ表半面一分幅陰出シノ章ヲ附ス	同	同	側
同	同	同	同	同	同	同	同	同	製
同	同	同	同	同	同	同	同	同	式
同	同	同	同	同	同	同	同	同	形
同	同	同	同	同	同	同	同	同	狀

夏		名	衣
看會樂樂教幼士軍軍看會砲騎工砲 導團步年官樂計諸監 步年官樂馬謀工長同下 計手他工兵科生 卒卒生補徒徒徒手長長長記長護	屯繕工砲步志 田重兵兵兵兵兵 兵軍曹	諸諸監監校調建看會樂樂 工重 職的操喇馬築馬謀計手 生輪 叭	徒工卒卒卒卒卒卒卒卒補
襪	品	同	
襪	質		
物入 兩股各一個ヲ附ス	製	長 膝上ニ止ル 靴口ヲ裂クヲ五寸之ニ角卸各二個ヲ附ス 物入 兩股各一個ヲ附シ切捨トス	襟幅 一寸二分 袖長 腕關節ニ止ル 袖口ヨリ尖頭ニ至ル四寸兩脚ハ二寸 物入 左腕部ノ裏面ニ一個ヲ附ス
如	形	同	同
同	狀		

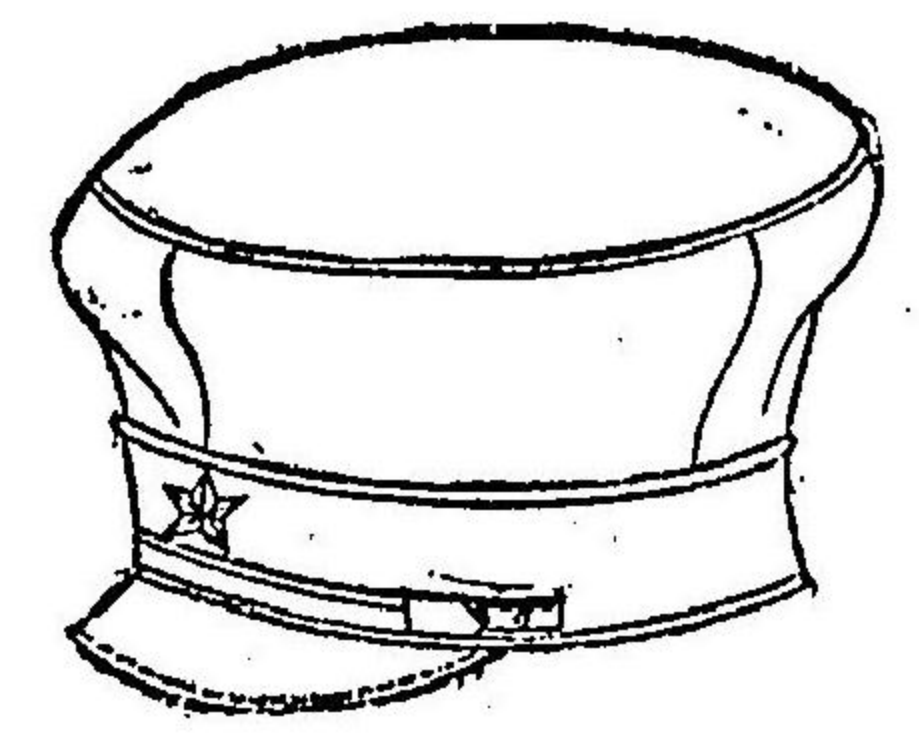
外		名	覆	袴
也工歩 田兵兵兵	騎砲騎 兵兵兵	諸諸下 職生士	開校教 團導團 騎騎 兵兵 科科 喇喇 叭叭	諸諸監監校建看 工重 職的操喇馬築馬 生輪 叭
曹長	曹長	稱	卒卒卒	卒卒卒卒卒卒卒卒
同	絨	品質	同	
同	紺	色別	同	
小大黒 ヲトシ後裂及側部ノ七個ヲ二個 胸部及側部ノ五分八分角	小大黒 ヲトシ後裂及側部ノ五分八分角 胸部及側部ノ五分八分角	鈕	二種帽ニ適合ノ裁縫トス	長 膝上ニ止ル 靴口ヲ裂クヲ五寸之ニ角卸各二個ヲ附ス 物入 兩股各一個ヲ附シ切捨トス
同	絨毛絨	品質線		
同	分	製		
同	物入 前環ニ附ス	長 袖長幅 腕關節ヲ延ルコト一寸 袖口ヨリ四寸ヲ上リ 左右各一個ヲ		
同	如	形狀	同	

明治十九年三月 陸 內閣第十四號

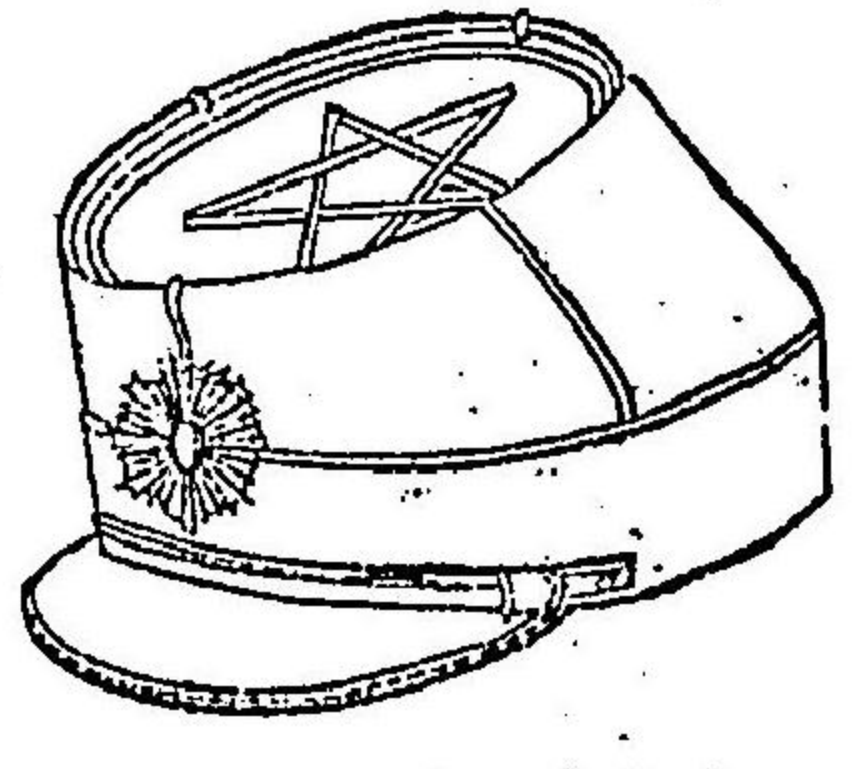
立 前
 近衛隊 步兵騎砲工輜屯教技建
 步兵騎砲工輜 重田團
 兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵
 曹軍兵 生叭
 長曹卒 徒卒



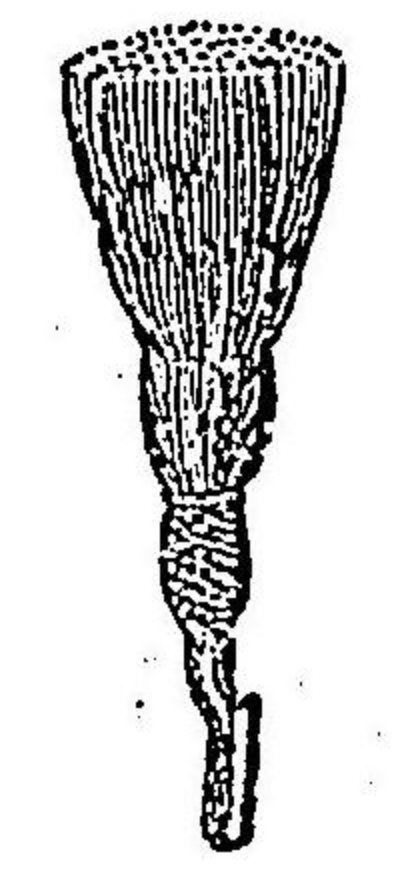
帽 種 二 第
 近衛隊
 步兵騎砲工輜
 兵兵兵兵兵
 曹軍兵
 長曹卒



帽 種 一 第
 軍軍樂樂
 樂手
 次
 長手補生

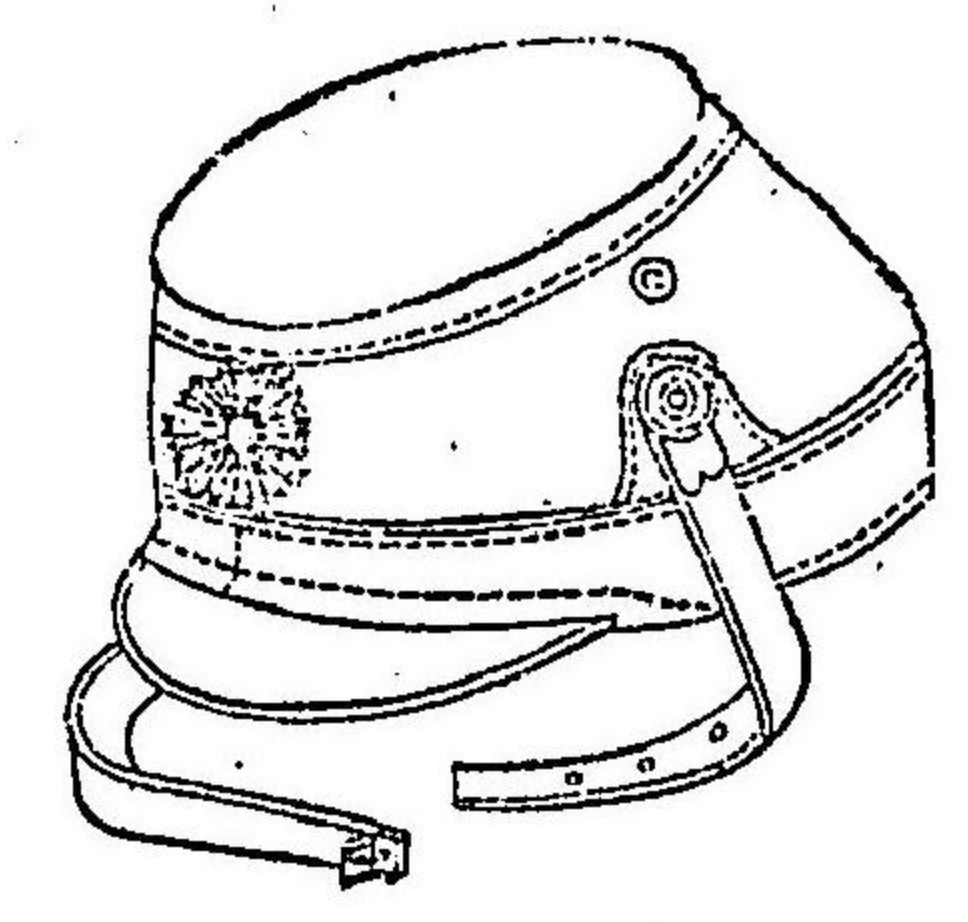


立 前
 憲工砲砲會看軍樂樂會看
 兵兵兵
 兵監計諸
 兵軍曹
 工卒卒生補手長長長記長 曹長

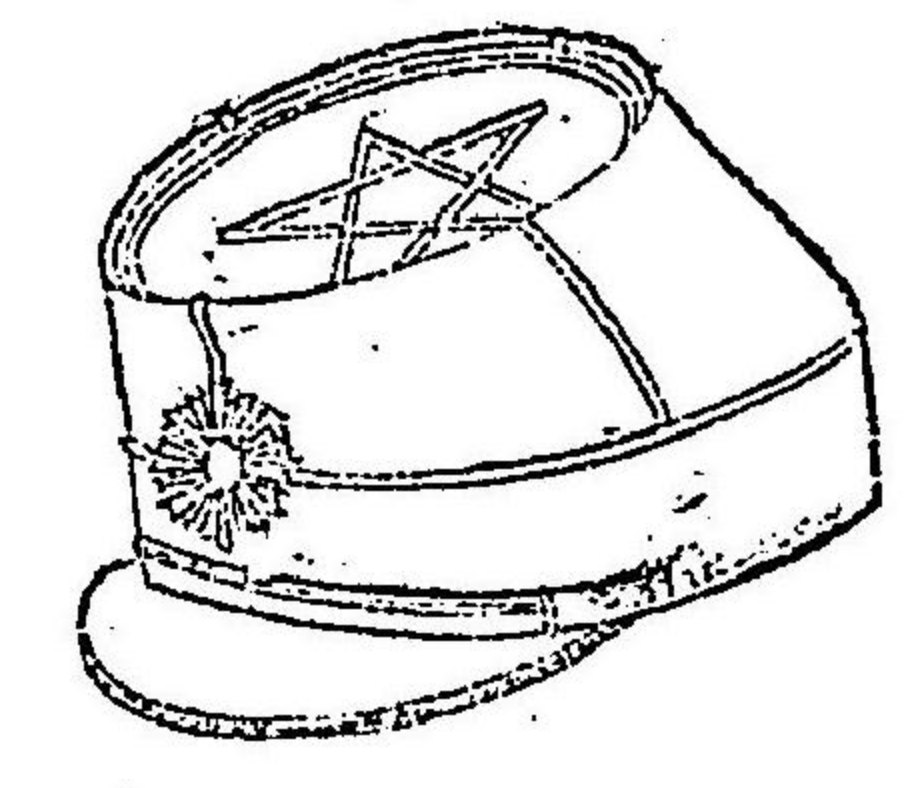


百十七

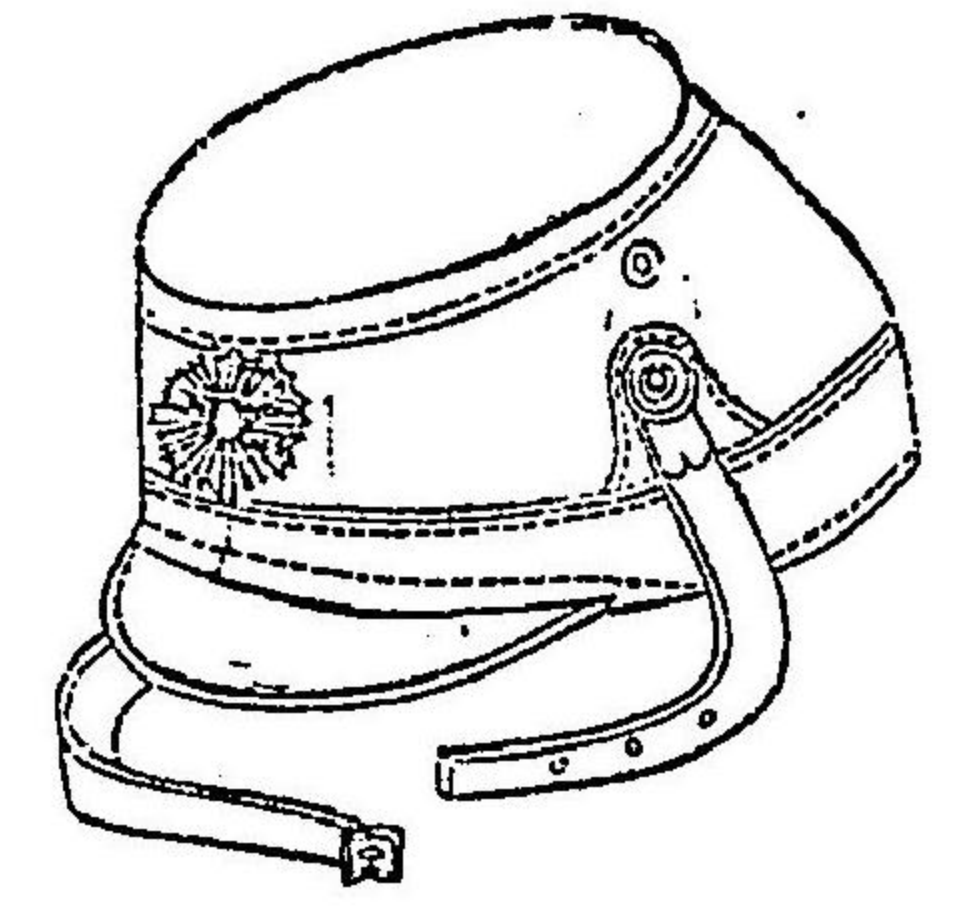
帽 種 一 第
 步兵騎砲工輜屯教技建
 步兵騎砲工輜 重田團
 兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵
 曹軍兵 生叭
 長曹卒 徒卒



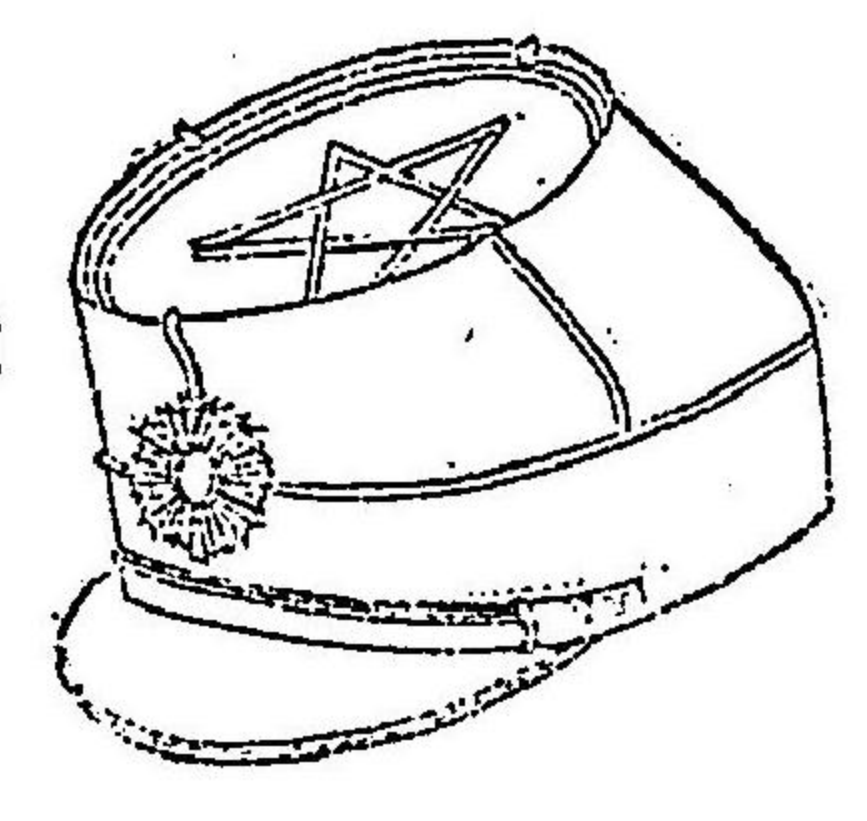
憲工砲砲會看軍樂樂會看
 兵兵兵
 兵監計諸
 兵軍曹
 工卒卒生補手長長長記長 曹長



近 衛 隊
 步兵騎砲工輜
 兵兵兵兵兵
 曹軍兵
 長曹卒



兵
 兵軍曹
 長曹卒



陸軍服制圖 下士以下者具ノ部

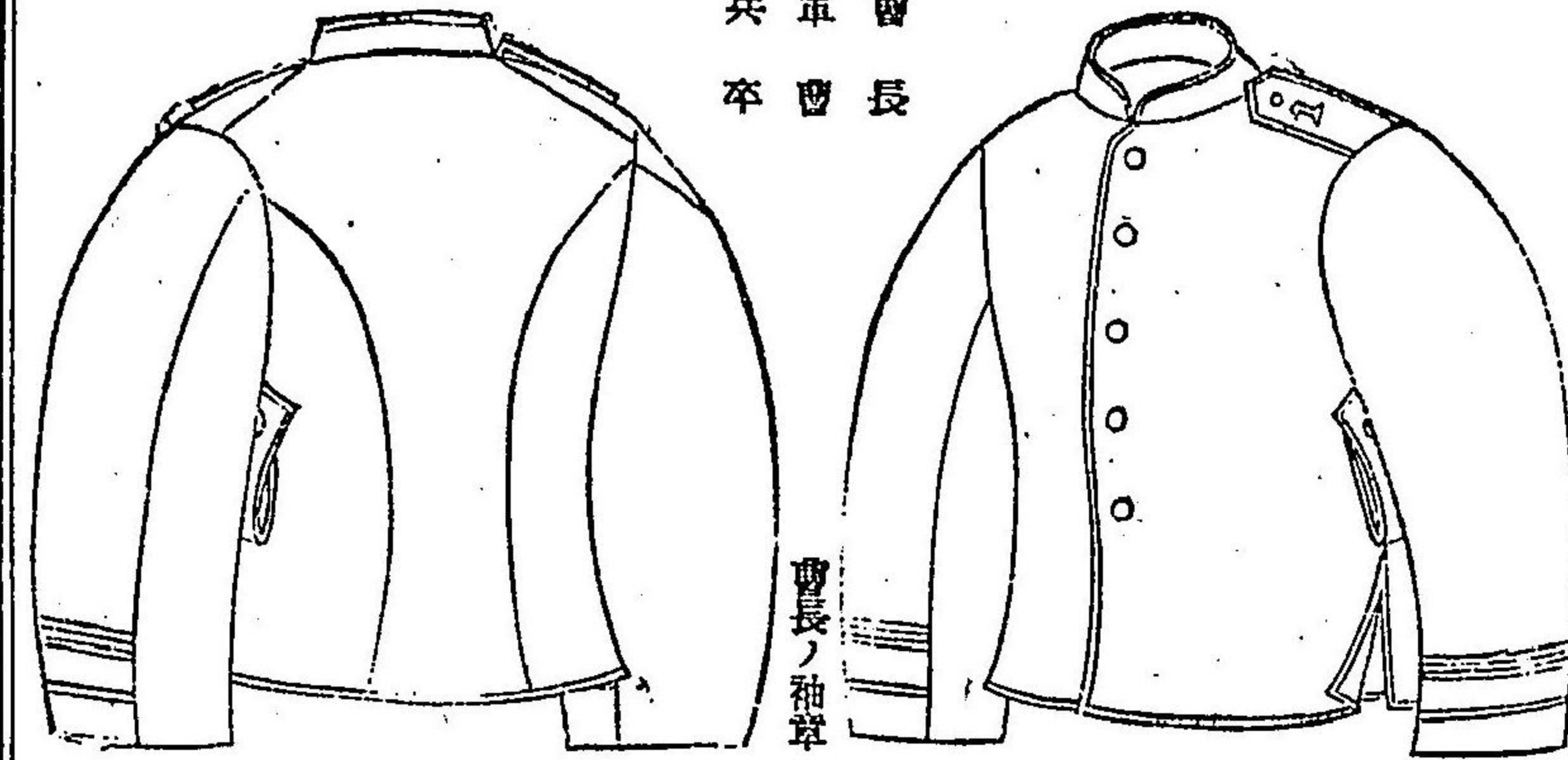
明治十九年三月 陸 內閣第十四號

百十六

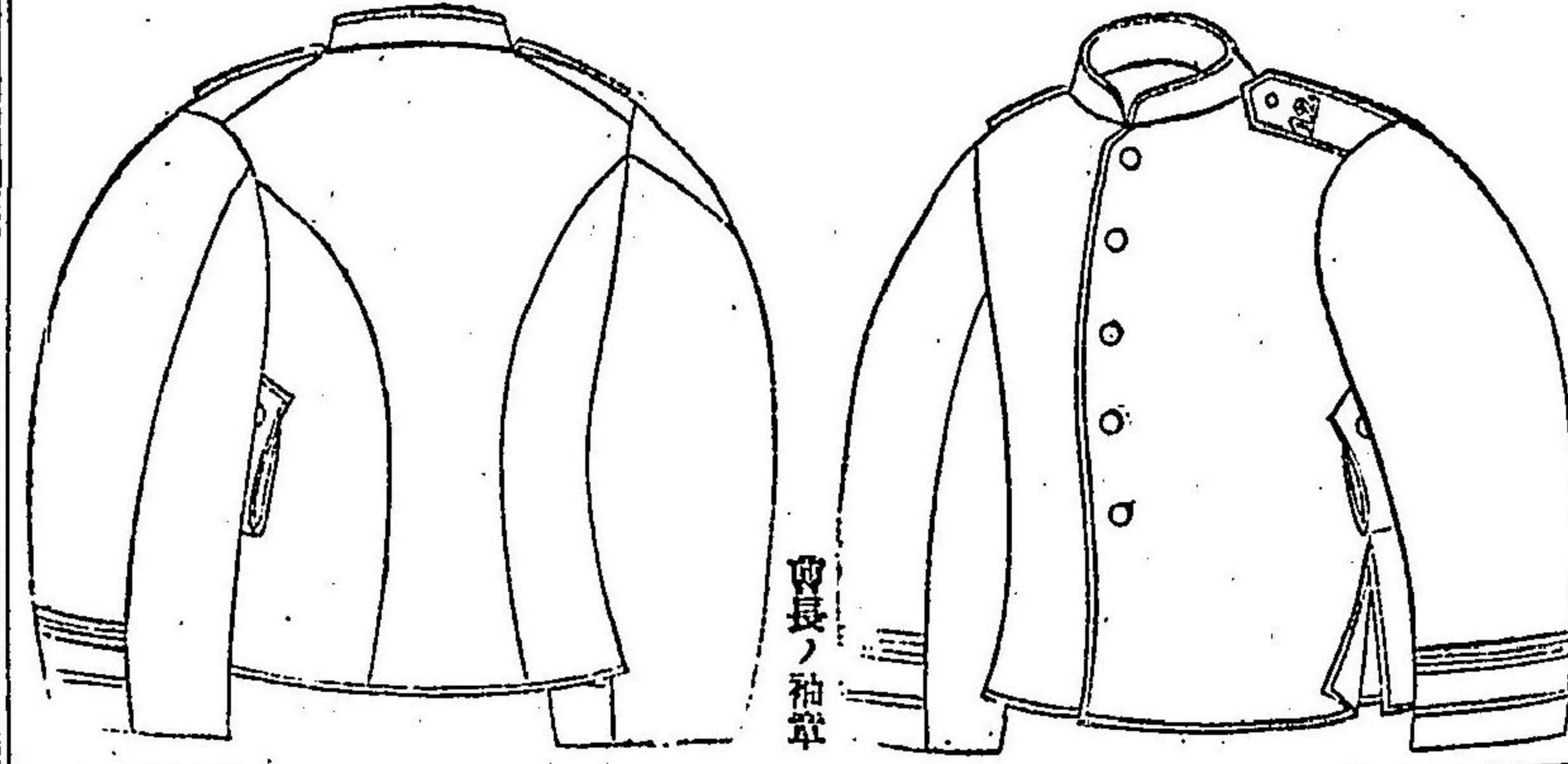
明治十九年三月 達 內閣第十四號

衣

隊 衛 近
轄工砲步
兵兵兵兵
兵軍曹
卒曹長



諸諸監監看看會開建校團導教幼士看看會砲騎工砲屯轄工砲步
工 砲步 田重
砲兵兵兵年官 計兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵
砲的操馬護計馬築上科科科 馬護 諸工監兵軍曹
生 科 生 生 書 長同下
徒工卒卒卒卒卒卒 徒 徒徒長長記長 護 卒曹長

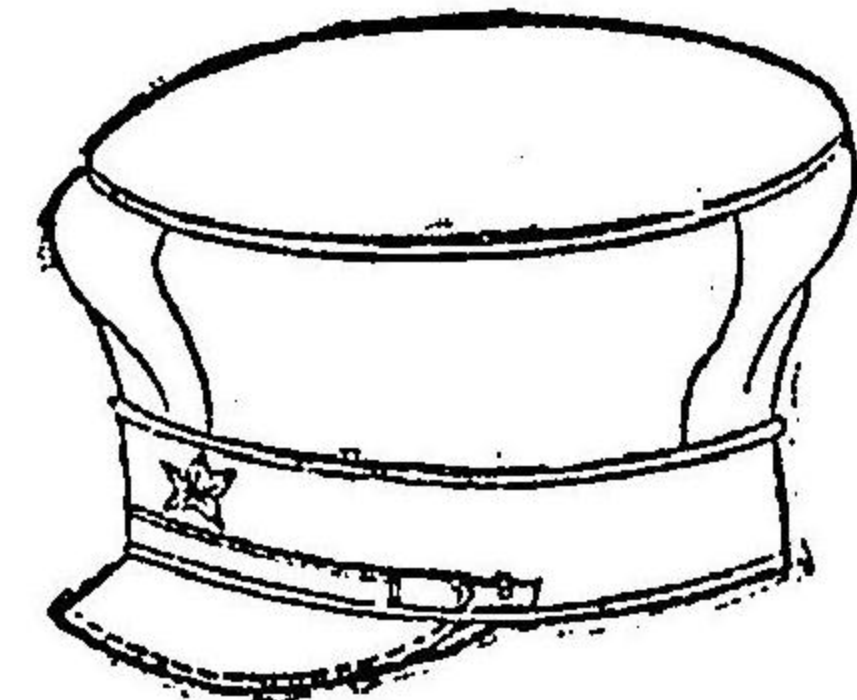
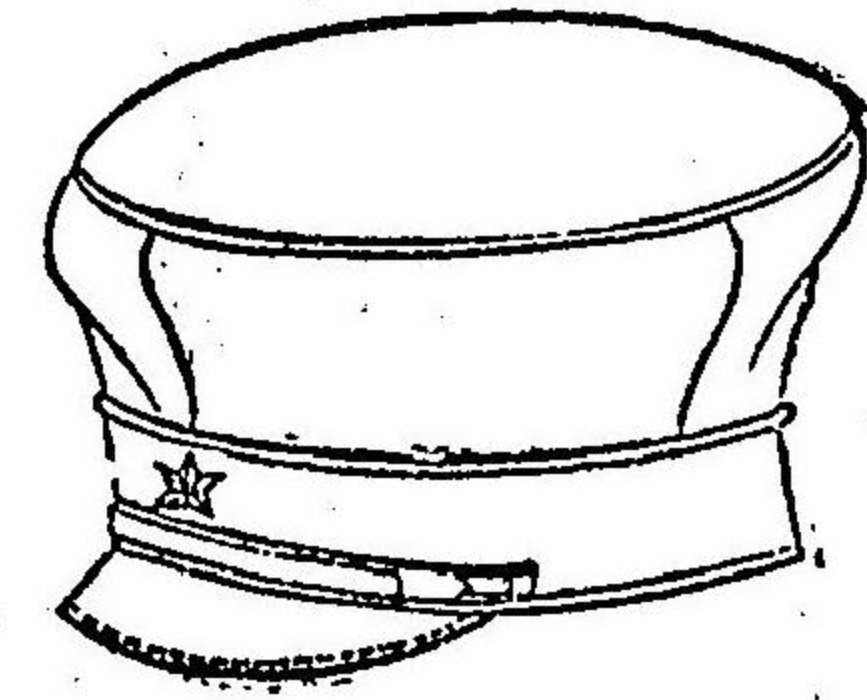


百十九

帽 種 二 第

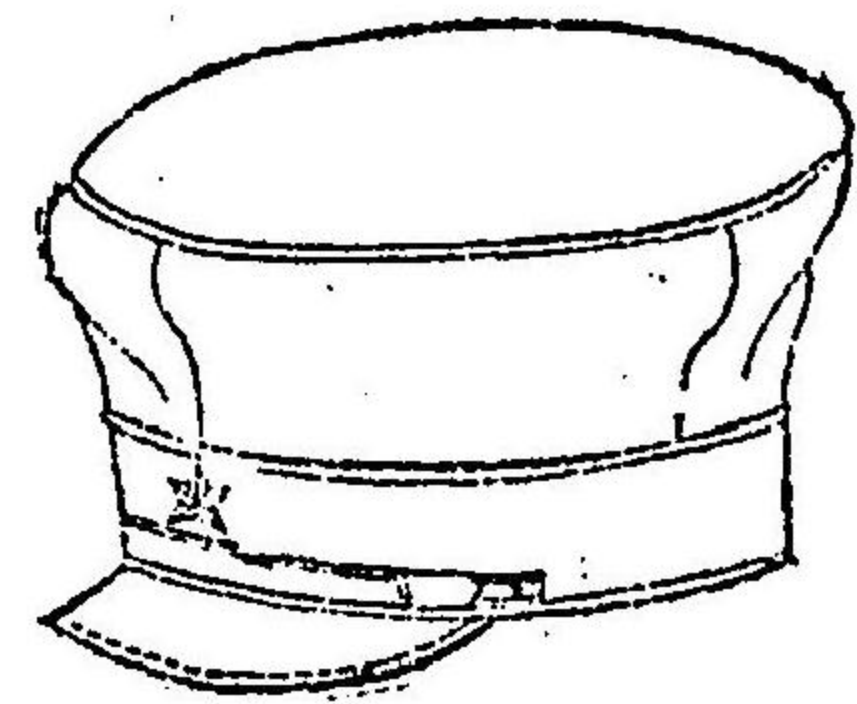
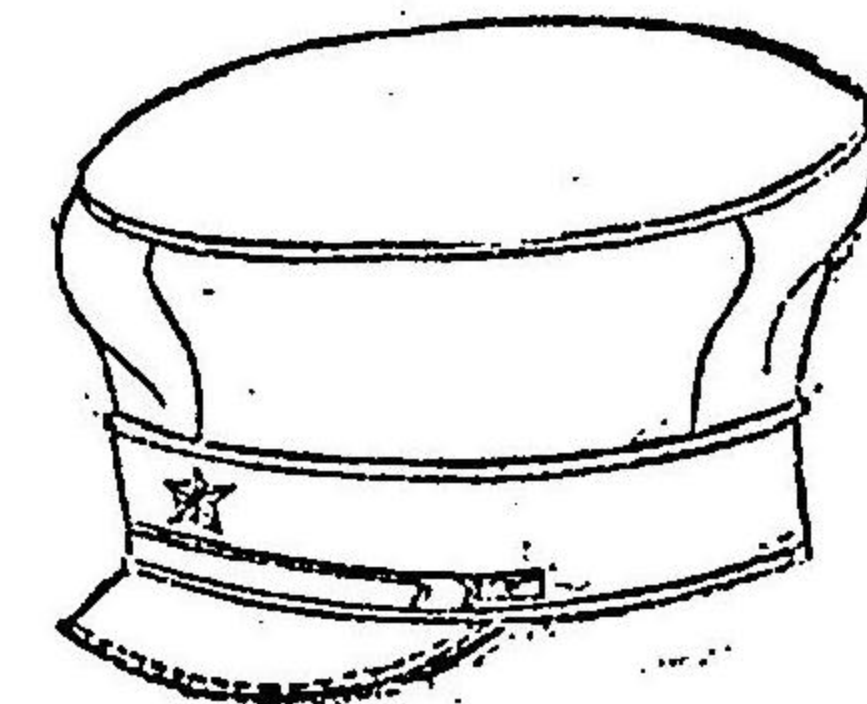
隨 會 會
靴 計 計
工 卒 記

諸隨鞍轄監禮團建校教砲騎工砲屯轄工砲騎步
工 銃重 團導 諸工監兵兵兵兵兵兵
鐵木 的操馬築喇團 兵長同下
生 銀 叭生 徒工工卒卒卒卒卒卒徒 長 護 卒曹長



幼 士
年 官
生 生
徒 徒

看 看 看 看
馬 隨 馬 隨
卒 卒 長 長

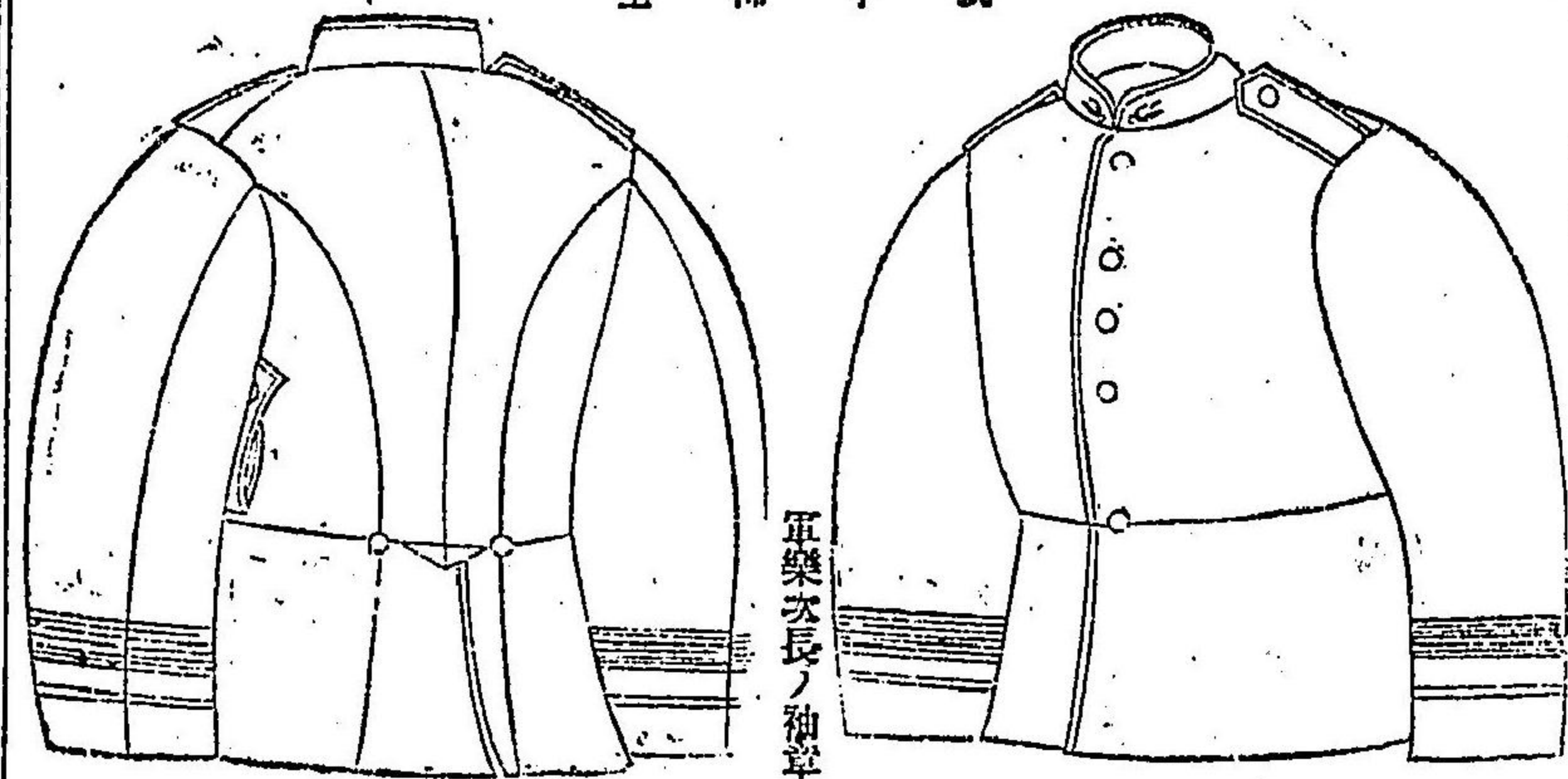


明治十九年三月 達 內閣第十四號

百十八

衣

樂 樂 軍 軍
 甲 樂 樂 樂
 主 初 手 長

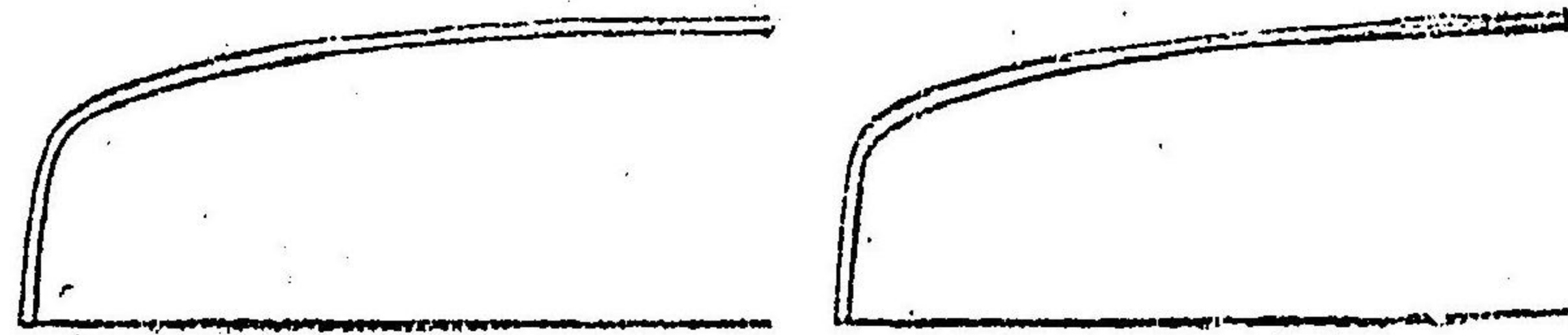


軍樂次長ノ袖章

章 襟

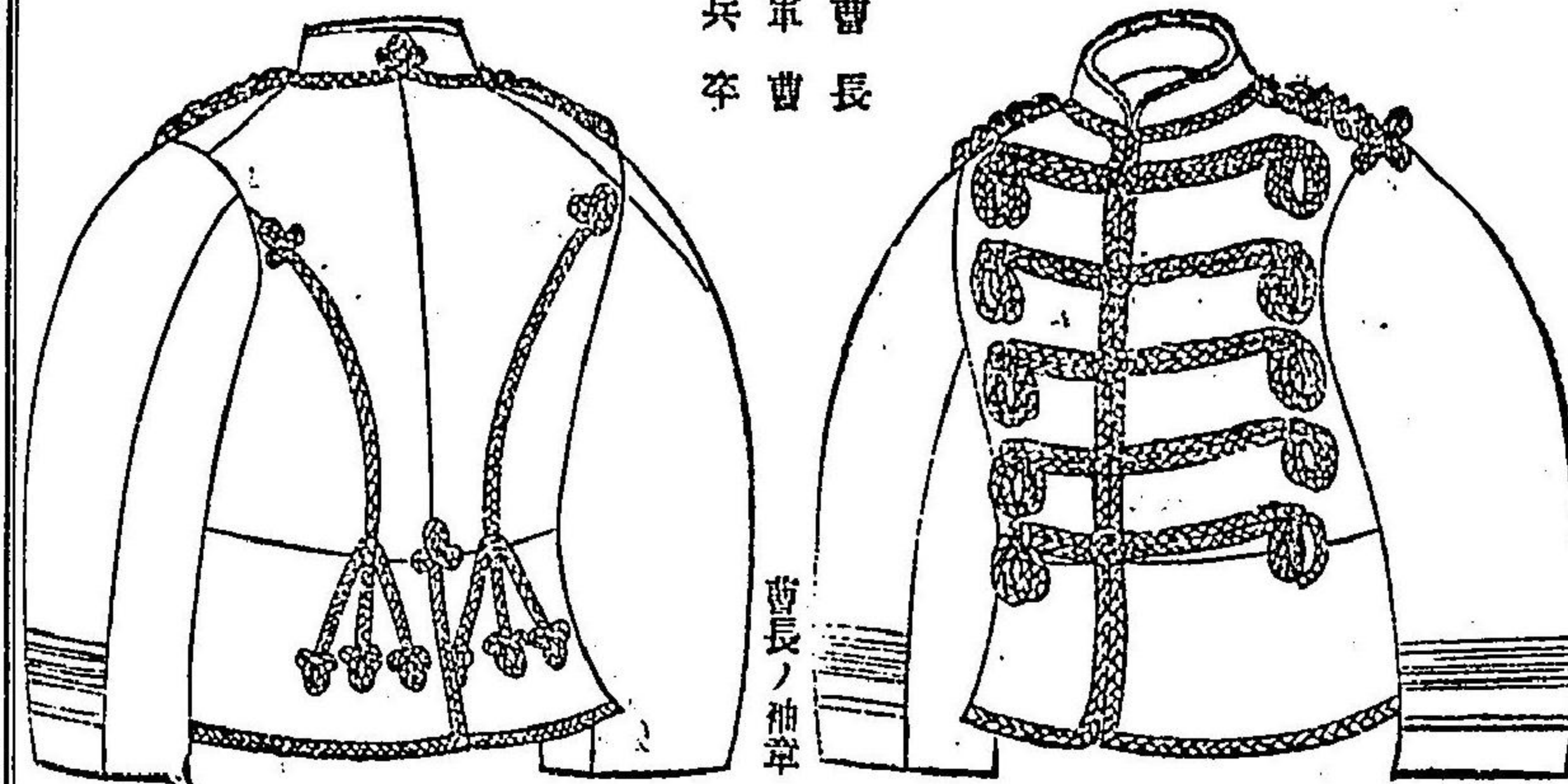
近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵

近衛隊步兵 近衛隊步兵
 近衛隊步兵 近衛隊步兵
 近衛隊步兵 近衛隊步兵
 近衛隊步兵 近衛隊步兵
 近衛隊步兵 近衛隊步兵
 近衛隊步兵 近衛隊步兵
 近衛隊步兵 近衛隊步兵
 近衛隊步兵 近衛隊步兵



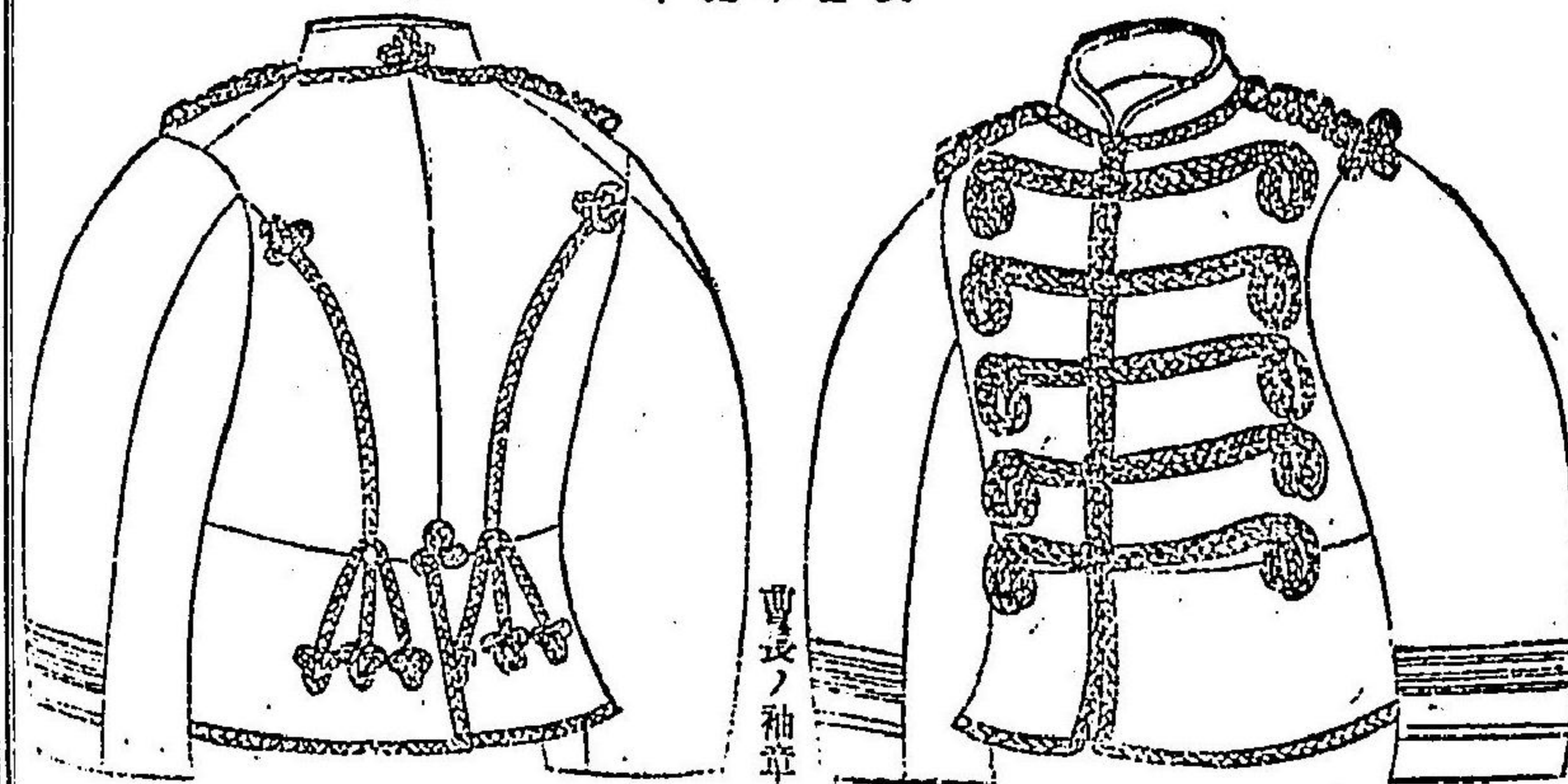
衣

近衛隊 近衛隊
 兵 兵
 軍 軍
 曹 曹
 長 長

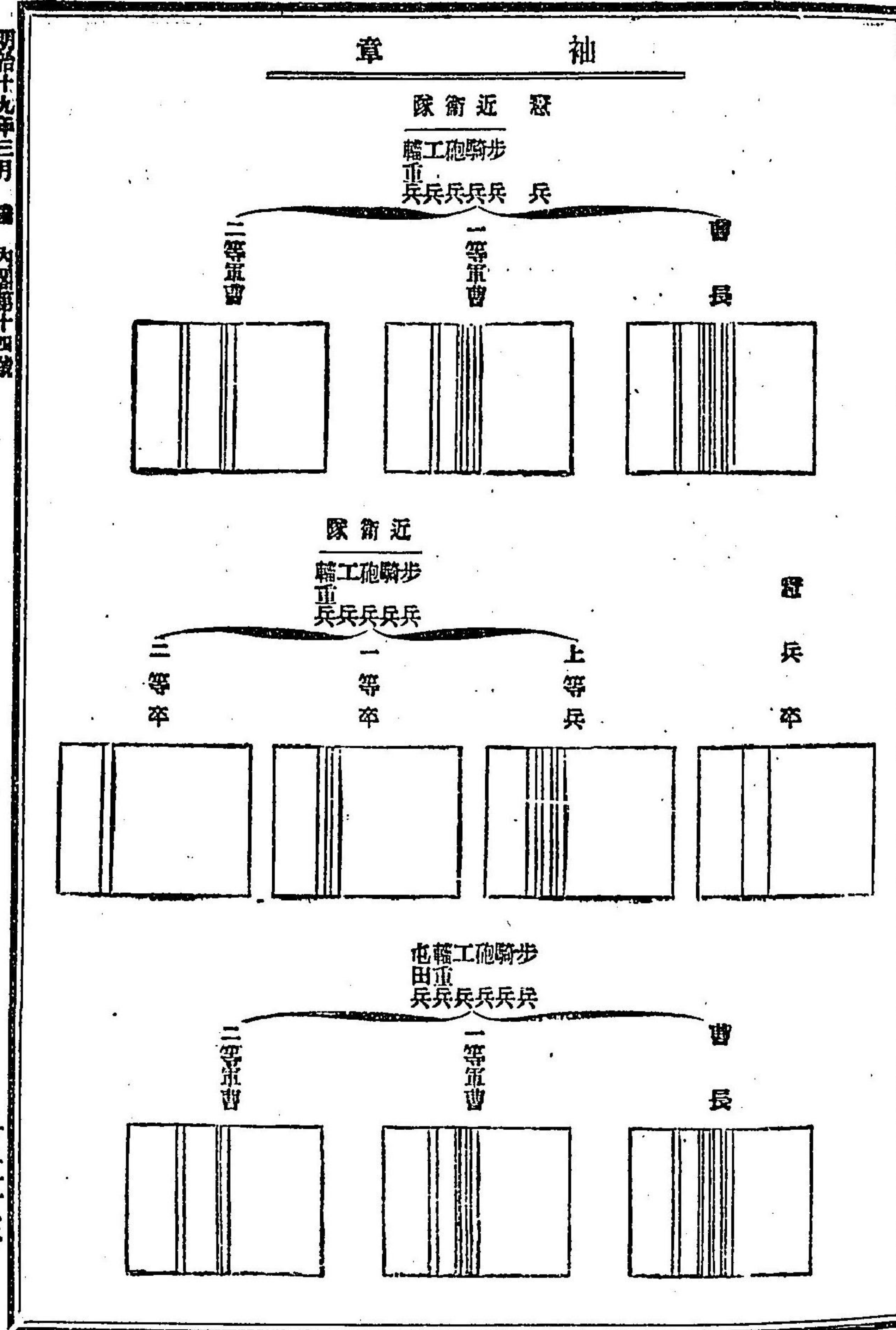


曹長ノ袖章

近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵
 近衛隊騎兵 近衛隊騎兵



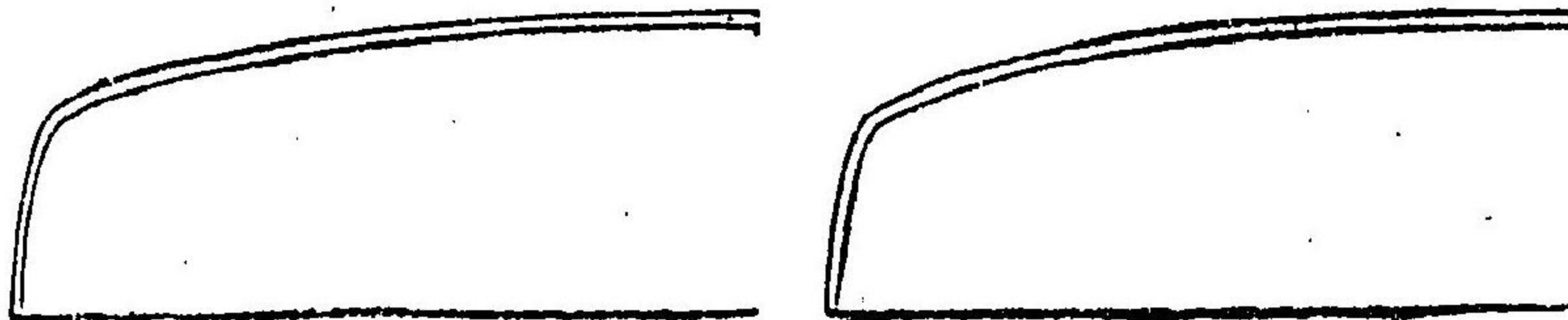
曹長ノ袖章



章 襟

建 校 教 工 工 隊 衛 近
團 導 兵 工
工 團 兵 兵 兵
兵 工 兵 兵
科 兵 監 兵 軍 曹
剛 生
卒 卒 徒 隨 卒 曹 長

諸 鞍 校 砲 砲 砲 隊 衛 近
國 導 兵 砲 砲 砲
工 兵 砲 團 諸 兵 砲
木 兵 砲 工 兵 兵
生 殿 科 兵 監 兵 軍 曹
叭 生 下
徒 工 卒 徒 長 證 卒 曹 長



樂 樂 軍 軍
手 樂 次
生 補 乎 長

轄 隊 衛 近
重 轄
兵 重 兵
兵 軍 曹
卒 曹 長

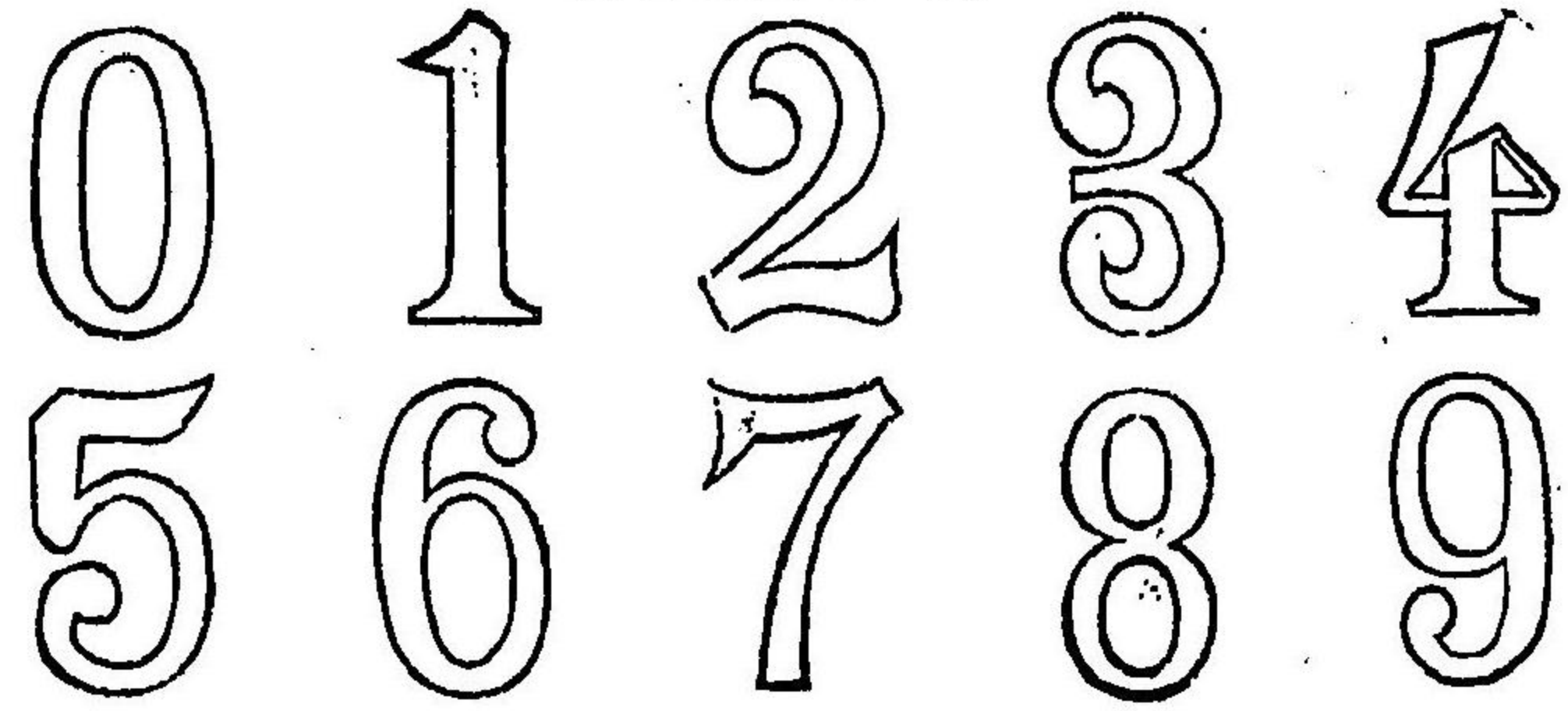


章		
會計三等書記	會計二等書記	會計一等書記
總 靴 工		會 計 卒
三等看馬長	二等看馬長	一等看馬長
二等看馬卒	二等看馬卒	一等看馬卒

章		
二等田重 監理等建 的隊	二等田重 兵兵兵兵 兵兵兵兵	一等田重 監理等建 的隊
蹄鐵鍛木銃裝 鐵	蹄鐵鍛木銃裝 鐵	火工砲
		工兵監
下 長	下 長	長 副
二等蹄鐵工	一等蹄鐵工	砲 銃 木 鍛 工

記 號

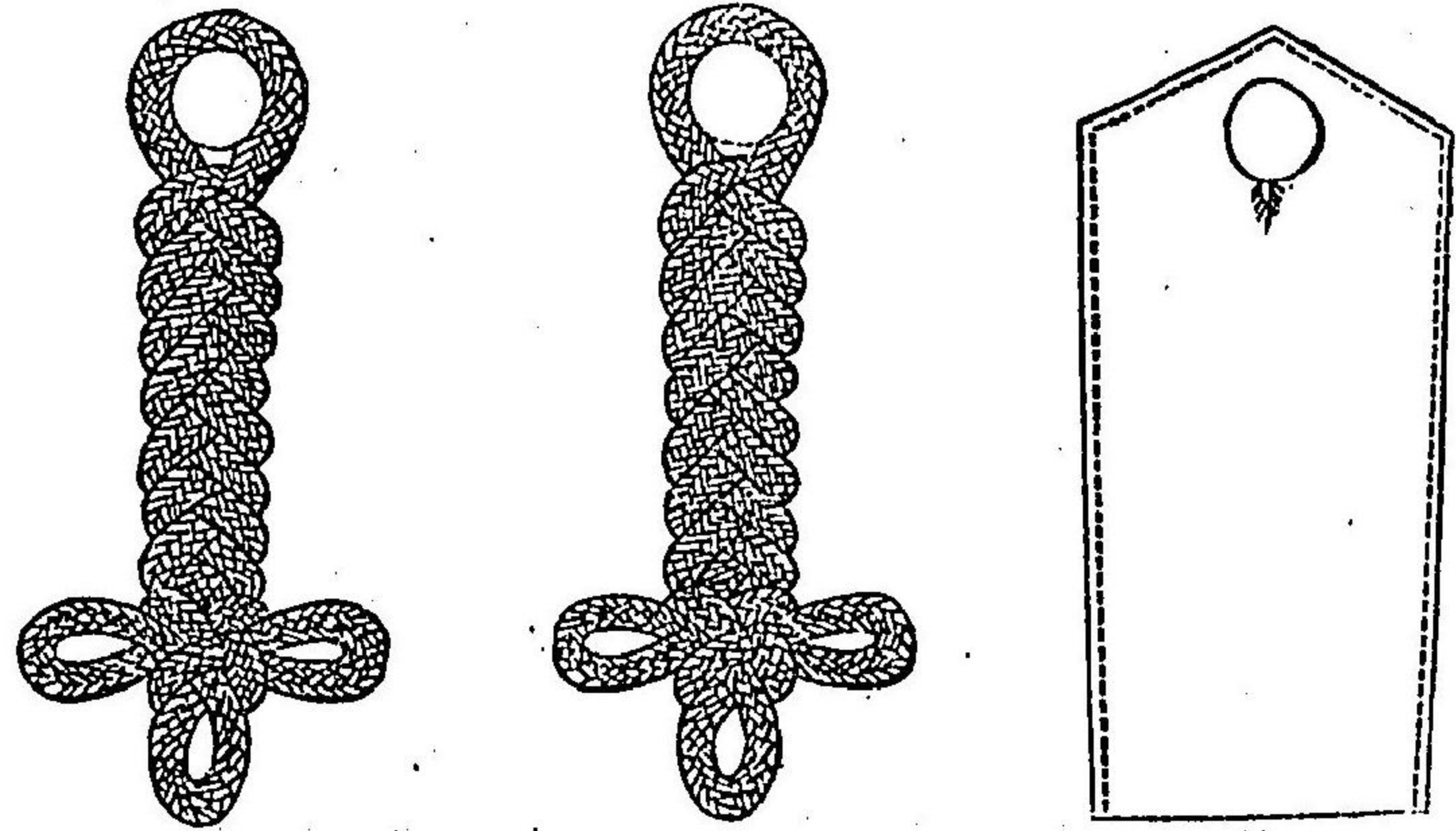
近衛隊 步兵 騎兵 砲兵 工兵 重兵



近衛隊 步兵 騎兵 砲兵 工兵 重兵 番號ヲ附ス

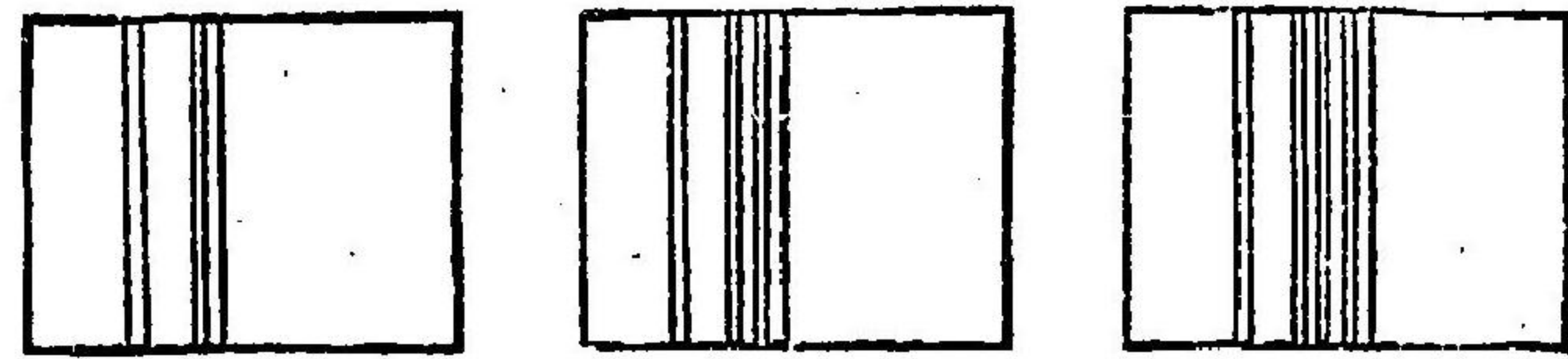
肩 章

近衛隊 步兵 騎兵 砲兵 工兵 重兵 番號ヲ附ス
 近衛隊 步兵 騎兵 砲兵 工兵 重兵 番號ヲ附ス
 近衛隊 步兵 騎兵 砲兵 工兵 重兵 番號ヲ附ス



袖 章

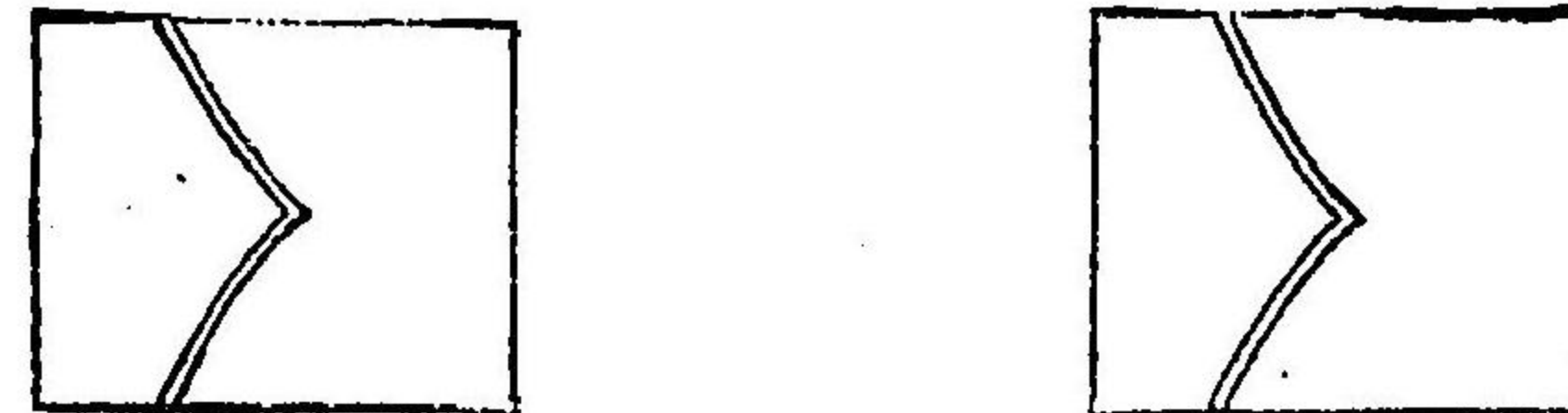
二等軍樂手 一等軍樂手 軍樂次長



樂手 樂生



幼年生徒 士官生徒



明治十九年三月 陸 內閣第十四號

肩		章		肩		章	
會 計 書 配	會 計 工 卒	軍 樂 次 長	軍 樂 手 長	樂 手 補 生	樂 手 補 生	看 馬 卒	看 馬 卒
士 官 生 徒	幼 年 生 徒	一 年 志 願 兵					

百二十九

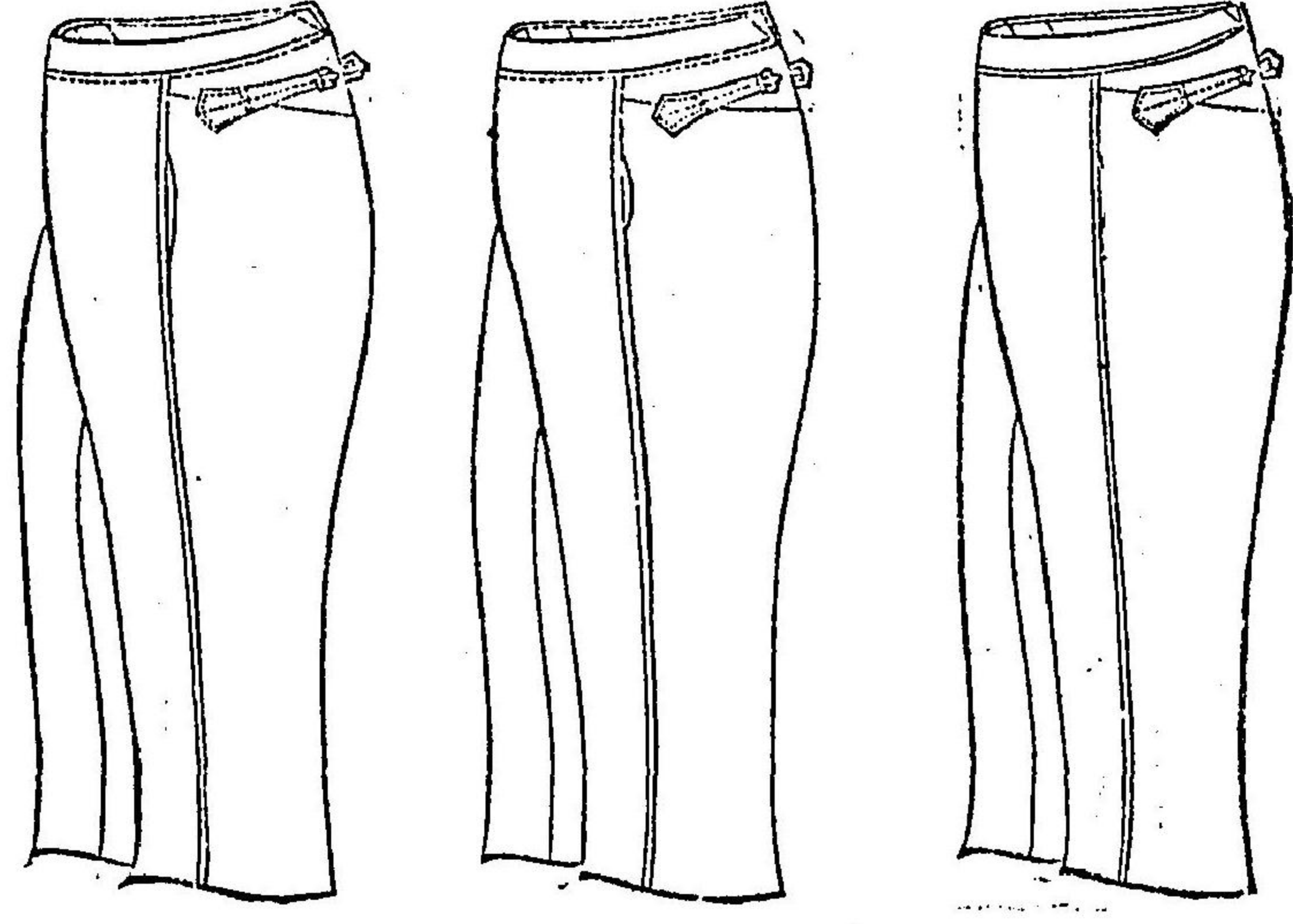
明治十九年三月 陸 內閣第十四號

肩		章		肩		章	
近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長
近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長	近 衛 隊 砲 兵 軍 曹 長

百二十八

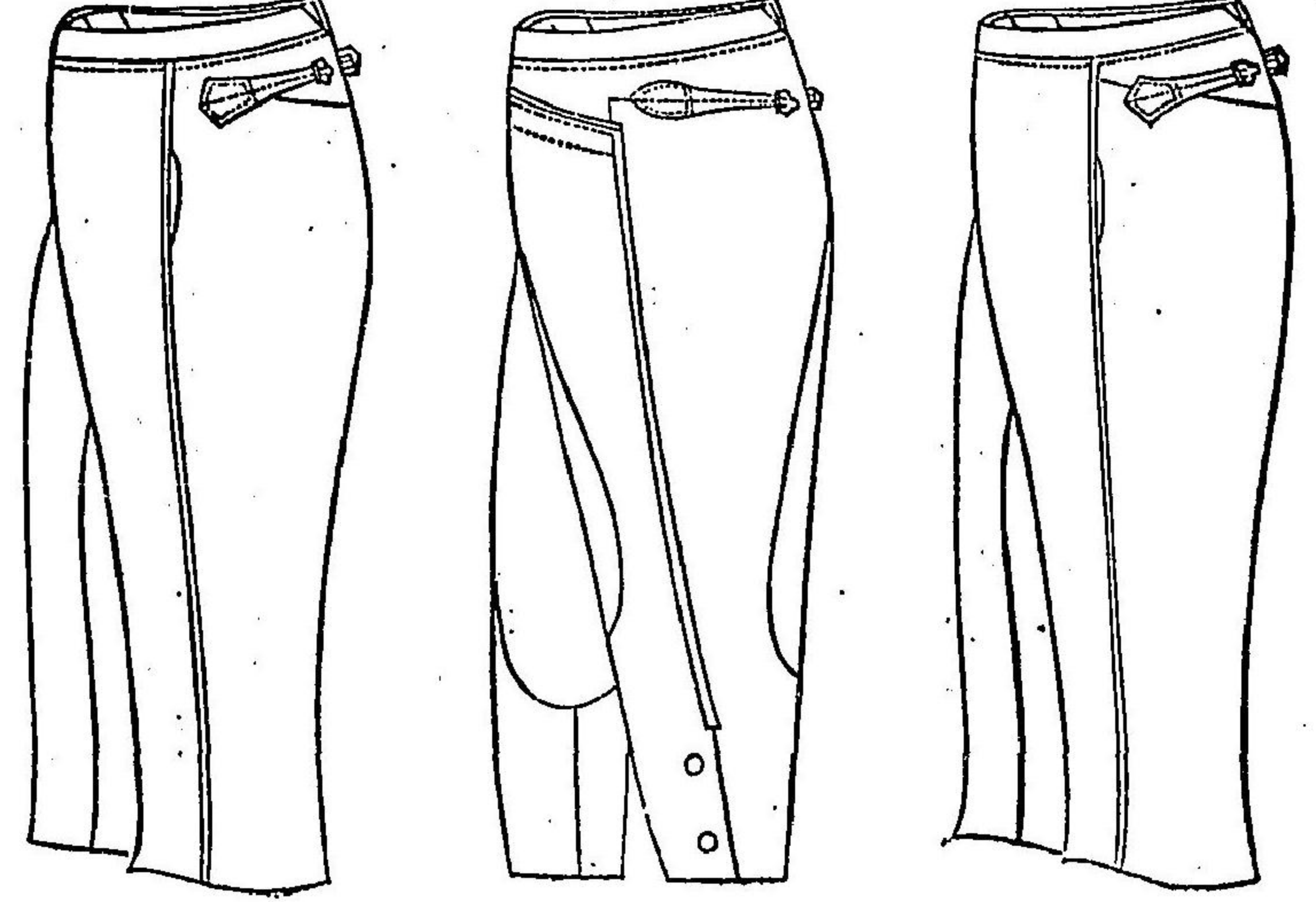
袴

隨 隊 工 生 徒	騎 兵 鐵 工 長 同 下 長	近 衛 重 兵 曹 長	近 衛 工 兵 軍 曹 長	近 衛 工 兵 軍 曹 長	近 衛 工 兵 軍 曹 長
-----------------------	--------------------------------------	----------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------



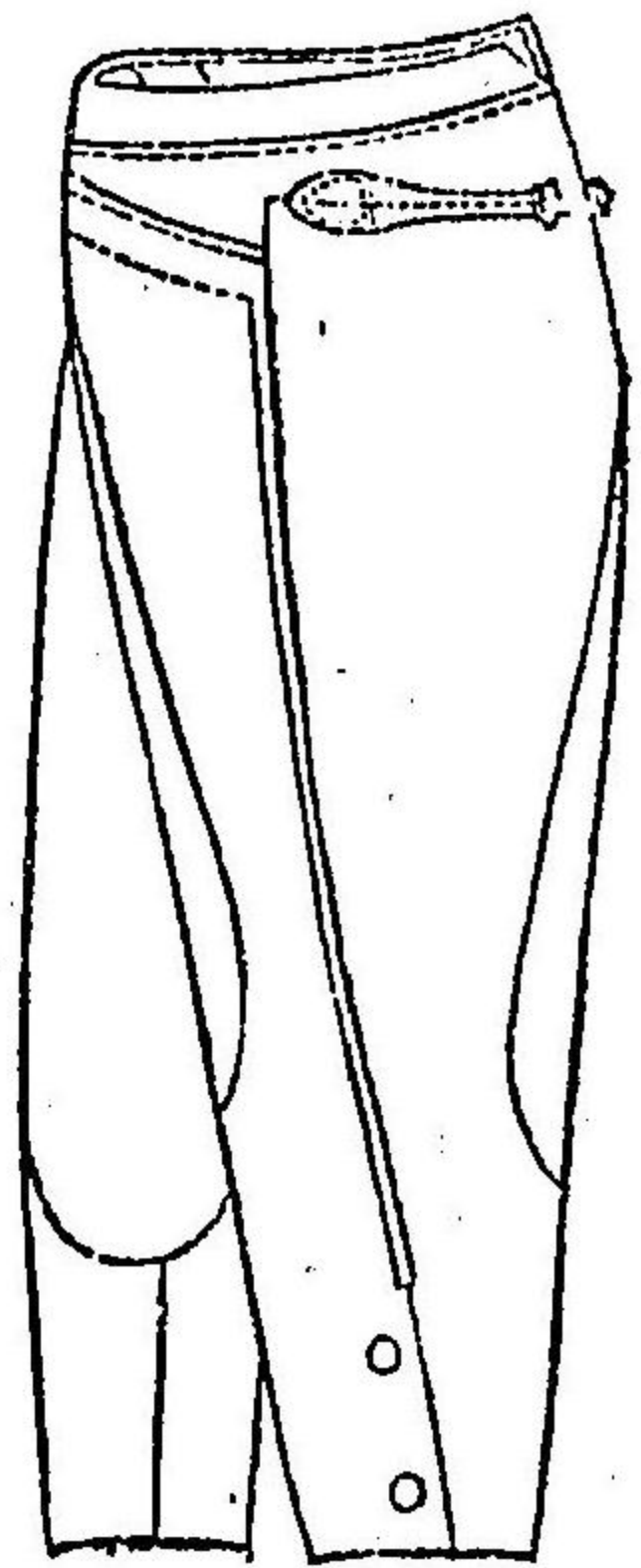
袴

踏 工 木 生 徒	鞍 工 木 生 徒	砲 工 科 同 監	砲 工 科 同 監	砲 工 科 同 監	近 衛 工 兵 軍 曹 長	近 衛 工 兵 軍 曹 長	近 衛 工 兵 軍 曹 長	近 衛 工 兵 軍 曹 長	近 衛 工 兵 軍 曹 長	近 衛 工 兵 軍 曹 長	近 衛 工 兵 軍 曹 長
-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

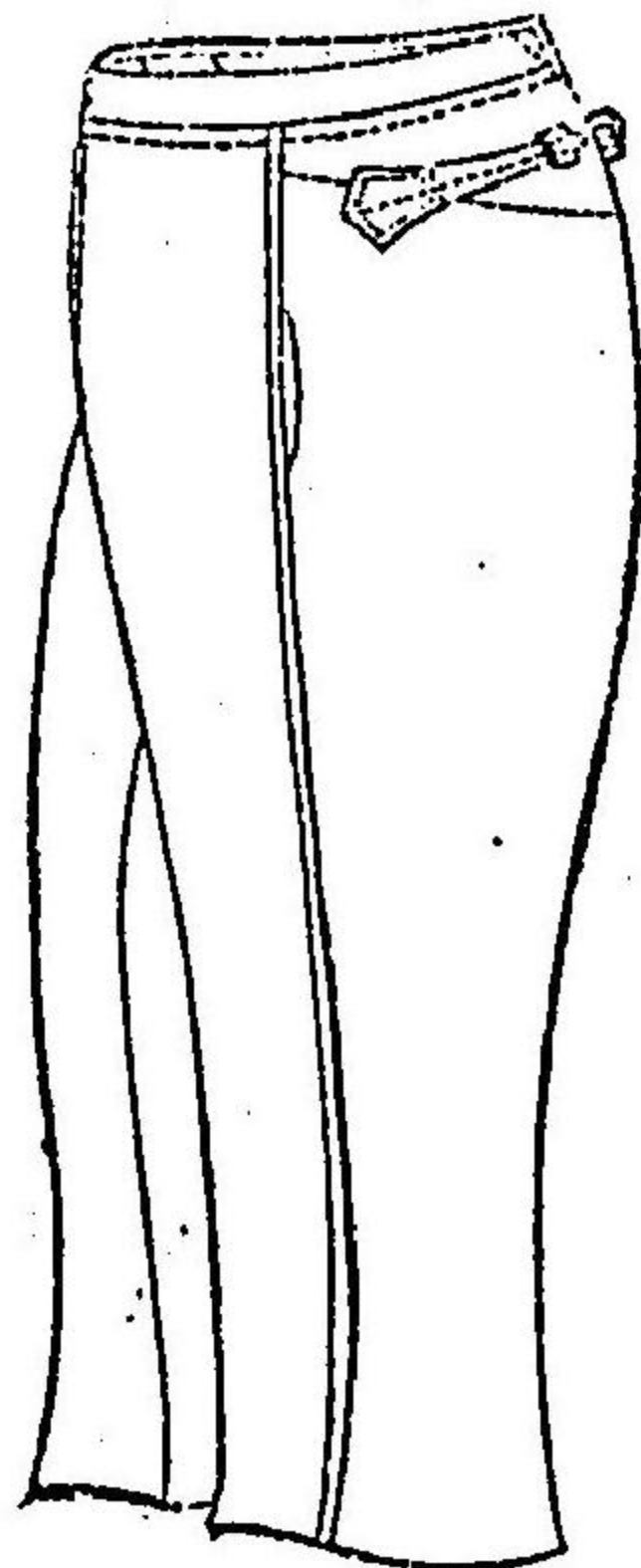


明治十九年三月 達 内閣第十四號

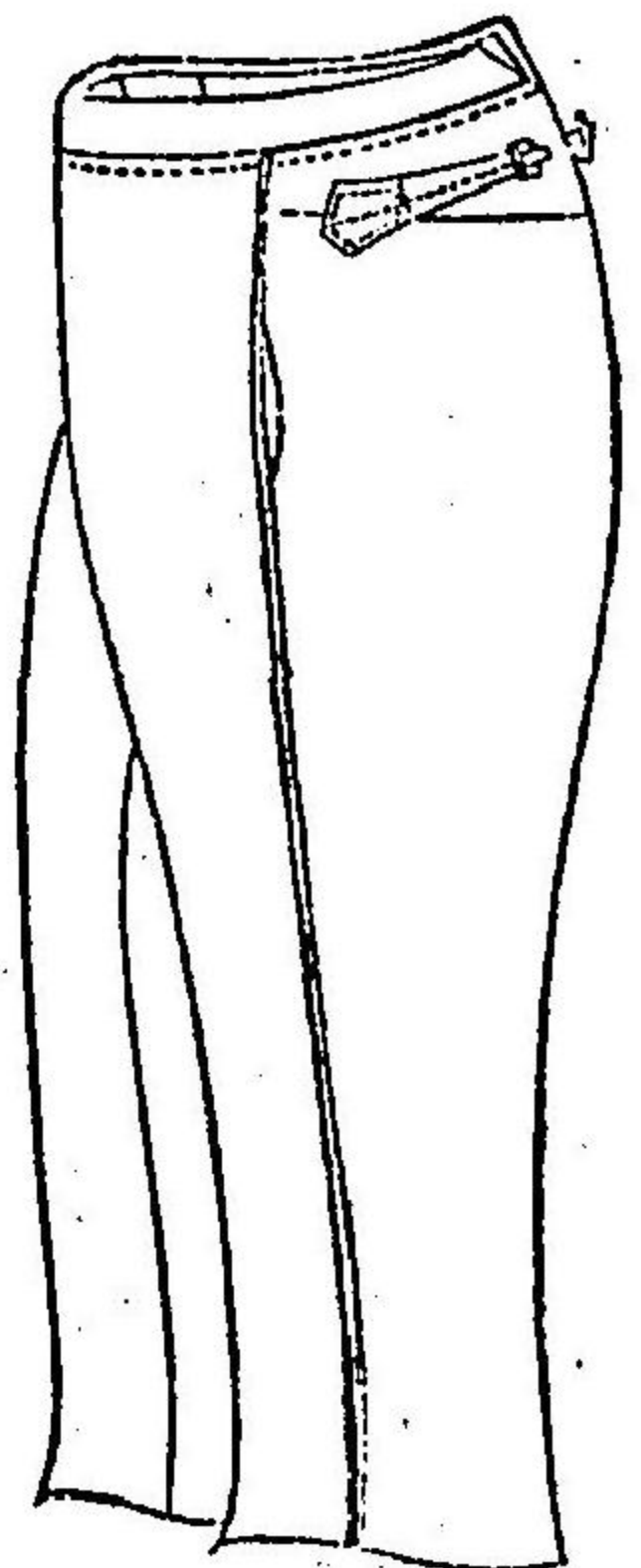
袴



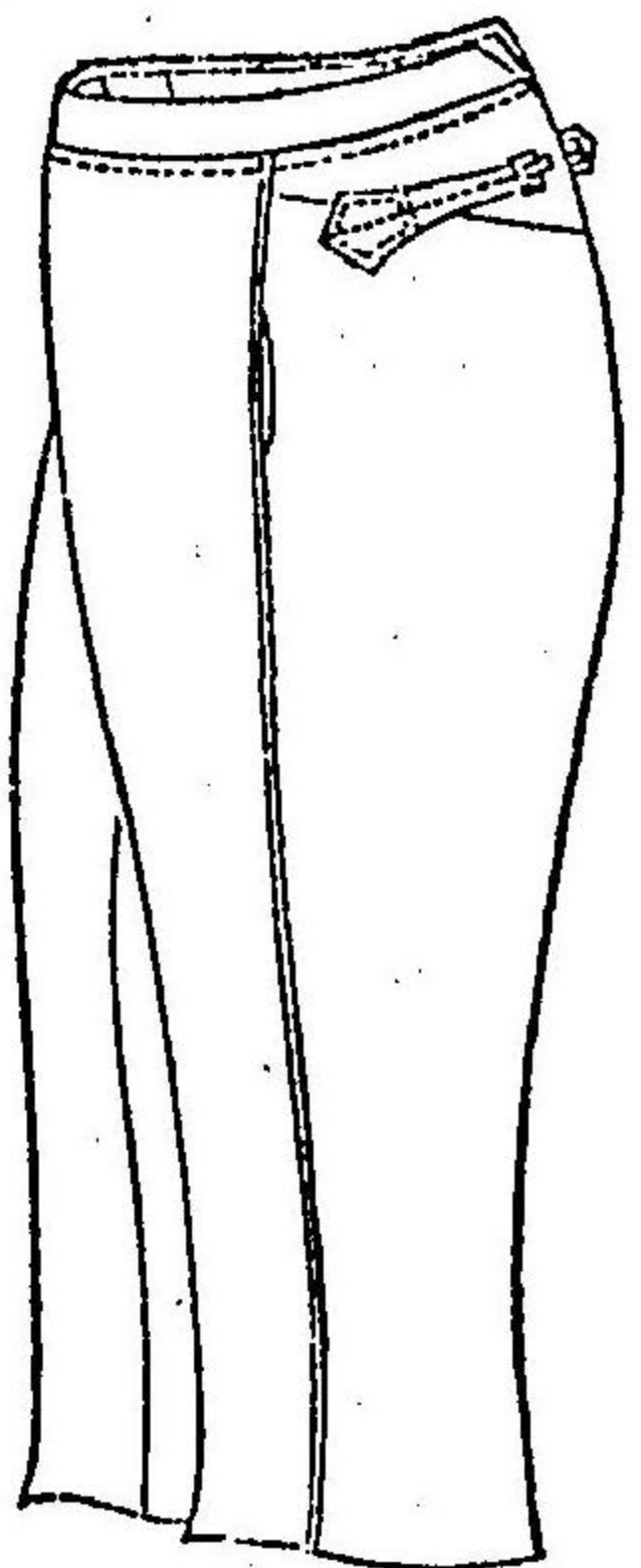
騎馬卒



樂樂軍 樂次 手樂 生補手長



幼年生徒

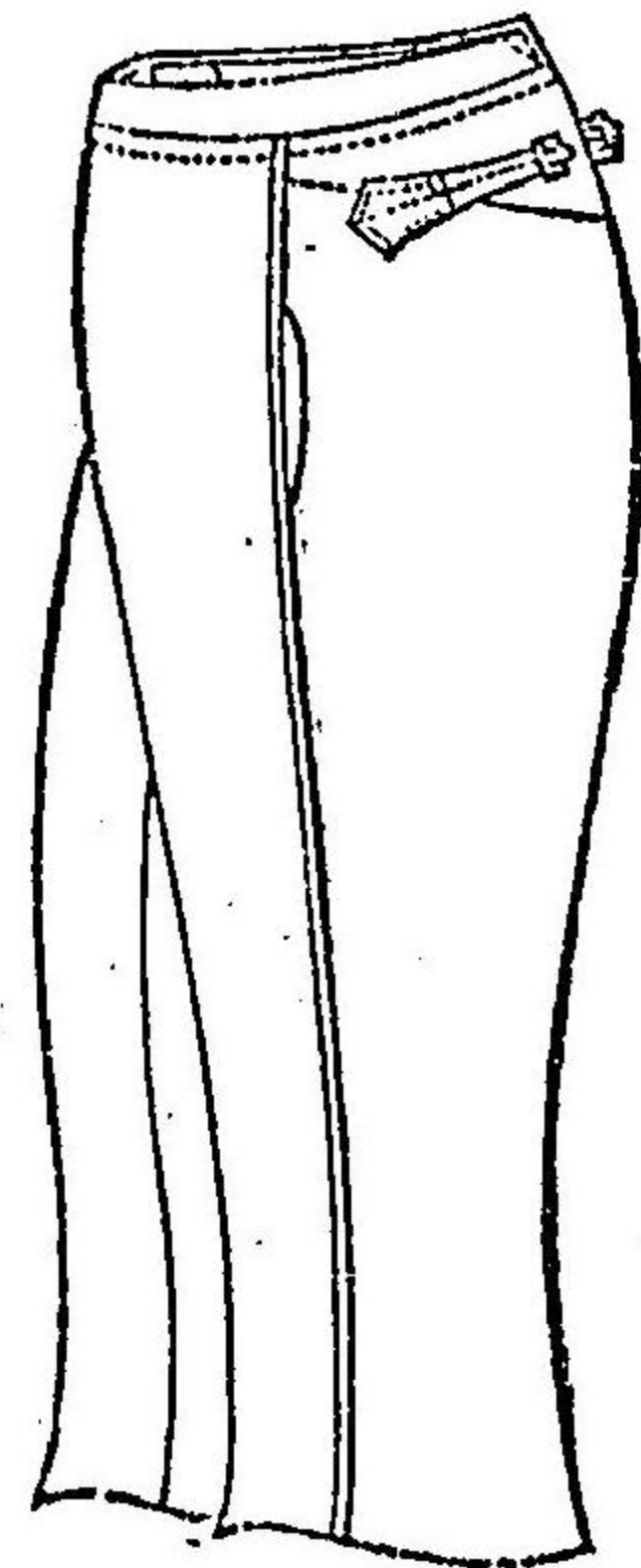


士官生徒

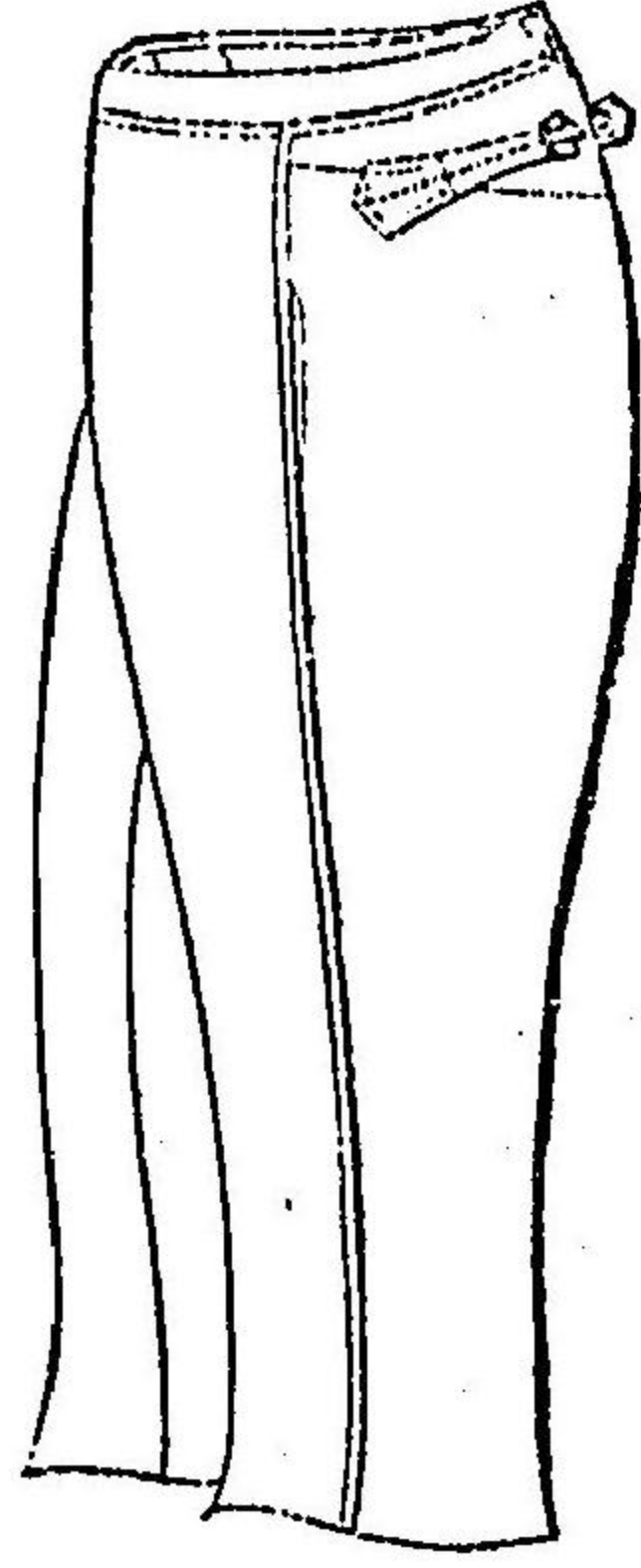
百三十三

明治十九年三月 達 内閣第十四號

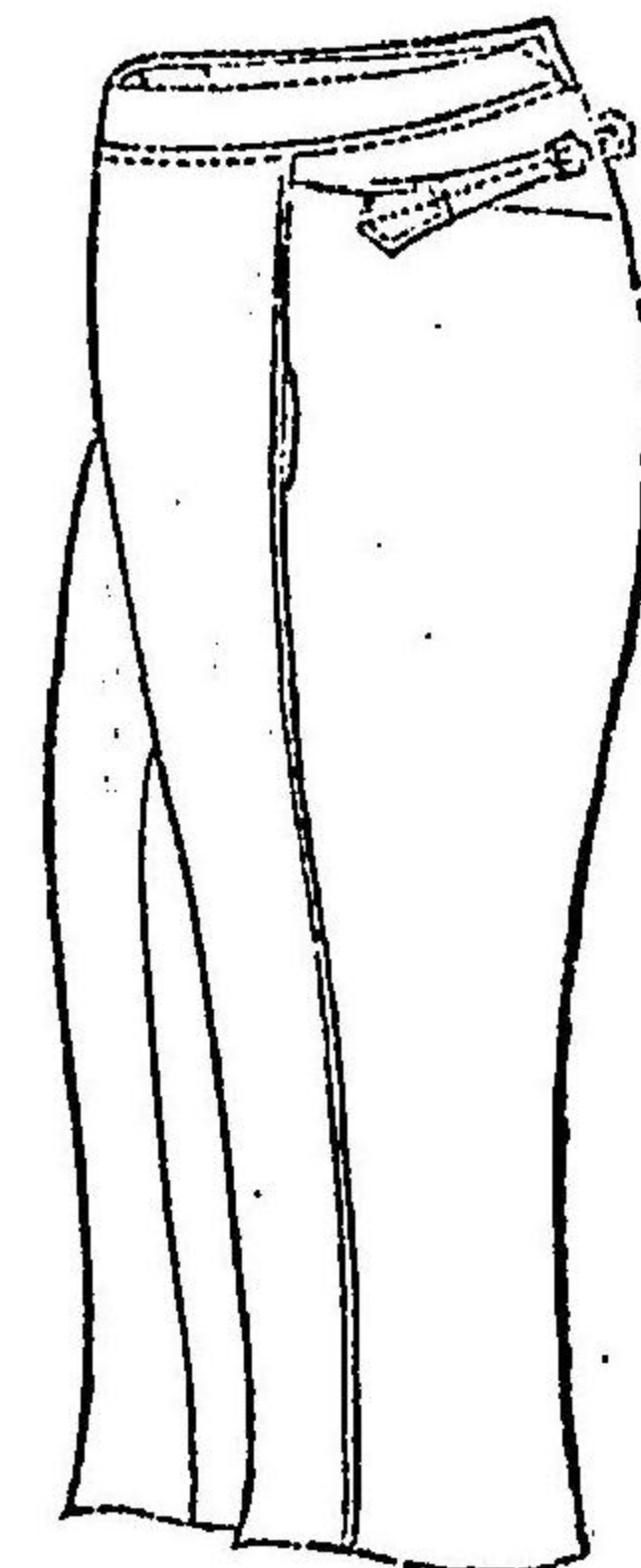
袴



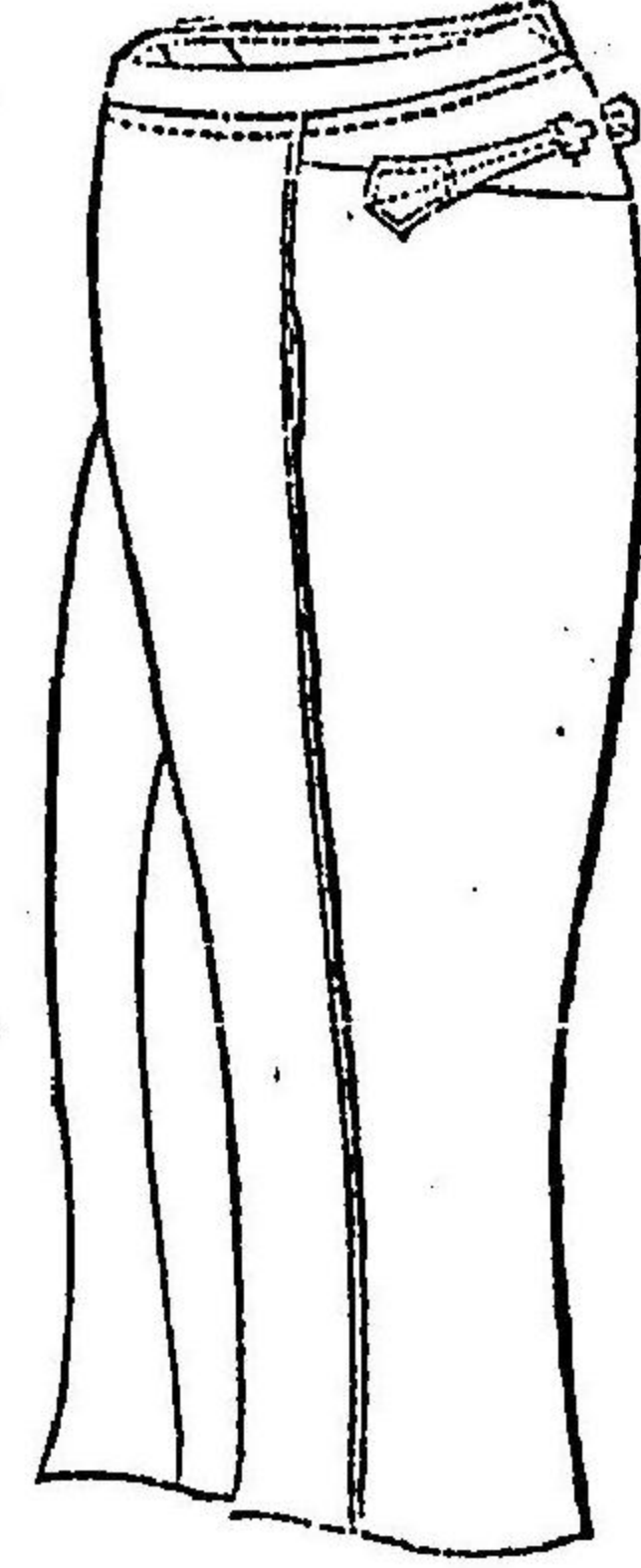
也田兵 兵軍曹 卒曹長



憲兵軍曹 卒曹長



看看看 馬殿馬殿 卒卒長長



會會計 會計書記 工卒

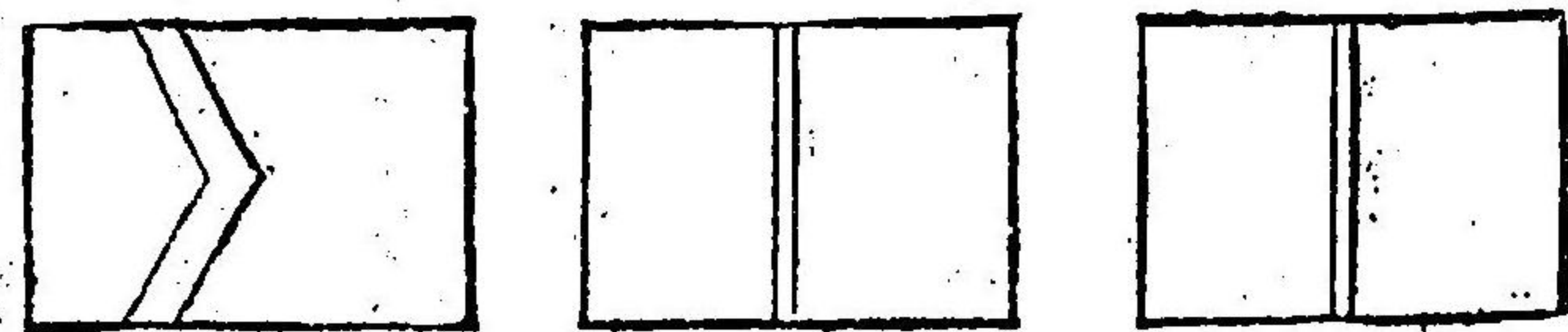
百三十二

章 袖 (套 外)

會	砲騎工砲屯轄工砲騎步	隊 衛 近	監
計	兵兵兵兵田重	轄工砲騎步	兵
母	階 監 兵兵兵兵兵	重	軍 曹
配	工 長 同 下 長	兵兵兵兵兵	軍 曹
	階 曹 長	軍 曹	曹 長

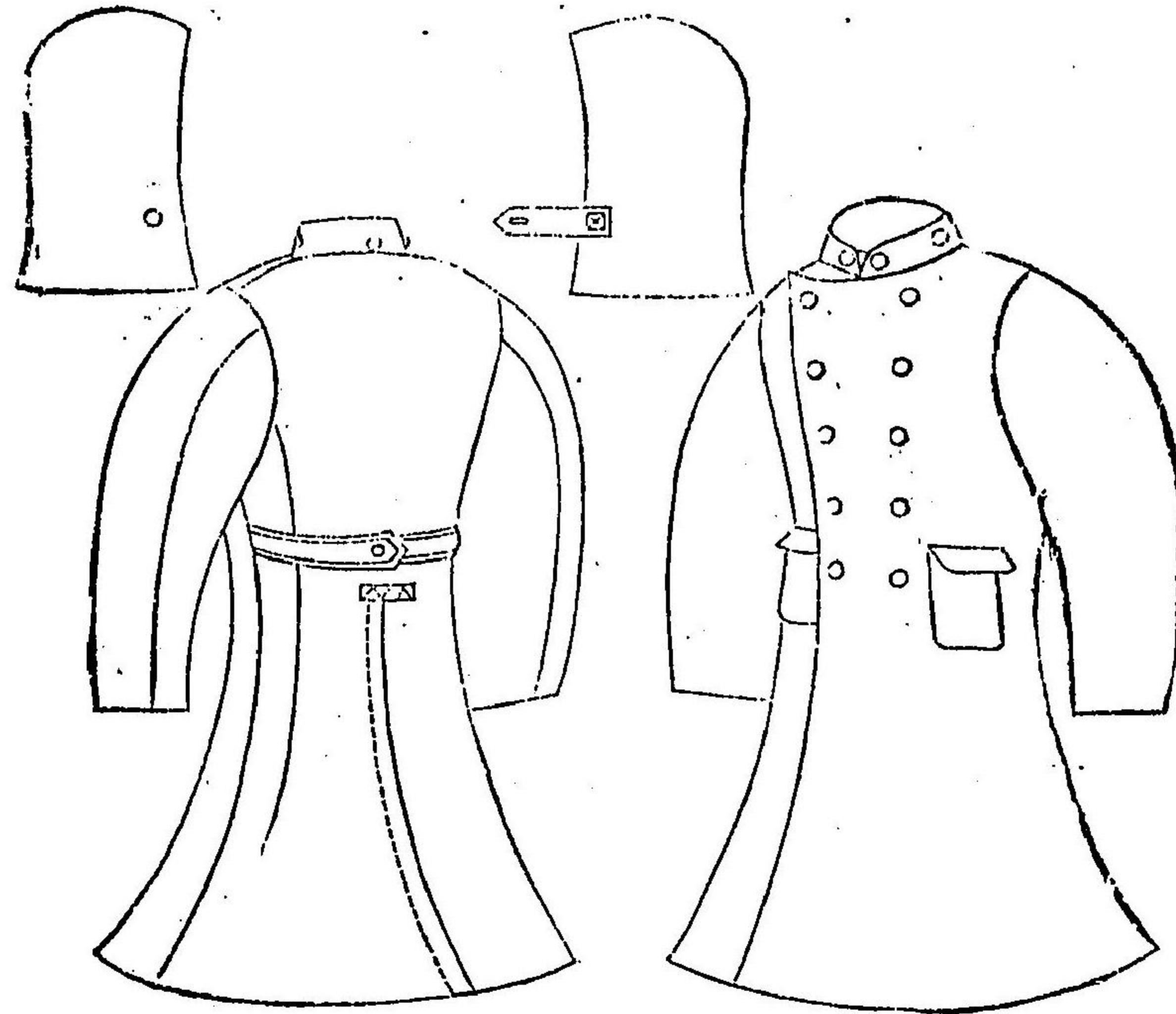


監	軍 軍	曹 曹
兵	樂 樂	長 長
卒	次 手	



套 外

監
兵 軍 曹
卒 曹 長



覆 雨

監
兵 軍 曹
卒 曹 長



宮内省

○第三號

華族女學校規則第八章左ノ通改正ス

明治十九年三月十一日

宮内大臣伯爵伊藤博文

第八章 授業料

第一條 本校の生徒は毎月金壹圓より少ならず三圓より多からざる授業料を納むべし

但本則第三章第四條に定むる夏期休業の月は之を除く

第二條 保證人は前條の範圍内に於て豫め納額を定め左の書式に準じ入學許可の日より二日間に届出べし

書式用紙英漢紙

授業料納額届

何 諭

右之者授業料毎月金若干宛相納可申候此段及御届候也

右保證人

何 雜印

年月日

華族女學校

御中

第三條 授業料納附期日ハ毎月二日より五日迄の三日間とす

但新に入學の月ハ納額届出の日を以て納附期日とす

第四條 本校の承認を経て一箇月間全く出席せざる者ハ其月分授業料の全額十五日後新に入學す

○第四號

學習院規則第二十九條ニ左ノ但書ヲ追加ス

明治十九年三月十三日

宮内大臣伯爵伊藤博文

但本條ノ處分ハ時トシテ幹事若クハ教官ノ中ニ委任スルコトアルヘシ

○號外(官報 三月十九日)

省院廳府縣

宮内省勅任委任官員ノ官等及年俸ヲ改定スルコト左ノ如シ

奉 勅

宮内大臣伯爵伊藤博文

第一條 内大臣宮内大臣ノ年俸ハ六千圓トス

第二條 侍從長以下ノ官等及年俸ハ左ノ表ニ依ル

勅任一等

侍從長

五千五百圓

宮中顧問官

四千圓

宮内次官

上五千圓
下四千圓

式部長官

上四千圓
下三千五百圓

皇太后宮大夫

上四千圓
下三千五百圓

皇后宮大夫

上四千圓
下三千五百圓

勅任二等

宮中顧問官

三千五百圓

宮内次官	式部次官	掌典長	大膳大夫	内藏頭	主殿頭	圖書頭	内匠頭	主馬頭	御料局長官	侍醫局長官	侍醫	華族局長官	親王家別當	奏任一等	書記官	秘書官
下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上	下上
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

侍從	式部官	掌典	皇太后宮亮	皇后宮亮	大膳亮	内藏權頭	主殿權頭	圖書權頭	内匠權頭	主馬權頭	諸陵頭	御料局主事
下中上	下中上	下中上	下中上	下中上	下中上	下中上	下中上	下中上	下中上	下中上	下中上	下中上
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓